

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	DF-FILECHART
適用 バージョン・レベル	V22L20
製品コード	A93166K1-2220-1

ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/DF-FILECHART V22

ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

SIMPLIA/DF-FILECHART V22

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

参照 → 本書中の参照箇所を示しています。

【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例： 【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2013年10月

富士通株式会社

目 次

1 . 機能概要	1
2 . 構成プログラム	2
3 . 適用マニュアル	2
4 . 新機能	3
5 . 移行上の注意	5
6 . 制限事項	8
7 . ソフトウェア組合せ条件	9
8 . 入出力装置	10
9 . 提供媒体形式と内容	10
10 . D A S D所要量	11
11 . インストレーションの手引	13
12 . 使用上の注意事項	41
13 . 稼働確認	42
14 . 日本語名標辞書データ変換プログラム	63
15 . 日本語名標辞書，コメントファイル→項目ディクショナリ 変換プログラム	67
16 . 再定義情報削除プログラム	73
17 . 日本語名標辞書作成支援プログラム	74
18 . 注意事項	77
19 . 適用マニュアルの正誤表	78
20 . プログラム修正事項	159

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

OSIV/MSP SIMPLIA/DF-FILECHART (SIMple development & maintenance support Program Libraries for Application program / Document Facility of FILE CHART) は、COBOLコピー句のデータ構造をドキュメント化するアプリケーションプログラムであり、効果的な保守サポートをするために以下の機能を持つ。

1.1 ドキュメント出力機能

コピーライブラリ又は保存ファイル(下記1.2参照)を入力とし、コピー句の情報を次のドキュメントで出力する。

- データ領域定義
 - ・ 日本語ラインプリンタ, カット紙ラインプリンタ用
 - ・ ページプリンタ用
- レコードレイアウト(注)
- テストデータ記入表
- 変更項目対比一覧

1.2 保存ファイル作成機能

コピー句の解析結果を保存ファイルに出力する機能を有し、この保存ファイルより上記ドキュメントを出力することができる。また、この保存ファイルの情報は公開しているため、利用者独自のプログラムの入力として用いることができる。

1.3 コメントファイル創成・更新機能

コピー句の情報を格納するコメントファイルの作成及び更新を行う。このコメントファイルに各項目名の日本語名やコメントを入力しておくことで、日本語名標辞書を利用していない場合などに、日本語名やコメントをコメントファイルより取得して各帳票に出力することができる。

1.4 CSV形式ファイル出力機能

データ領域定義及びテストデータ記入表について、CSV形式ファイルとして出力することができる。

注) ドキュメント出力機能4機能中、「レコードレイアウト」の出力ではレコードレイアウトを帯状に出力する目的で図形処理を行っているため、他の帳票出力より処理時間(CPU・ELAPS時間)がかかるので注意されたい。

この処理時間は、出力対象コピー句中のデータ項目数及びデータ項目のバイト数などの属性に依存して増加する。なお、レコードレイアウトの出力では、KING(グラフ図形出力)/JEF, KING(グラフ図形出力)/JEF + KST(漢字ストロークテーブル), T-GSP 又は T-GSP + KST のいずれかを選択できるが、KSTを使用した出力の方が処理時間は短い。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	SIMPLIA/ DF-FILECHART	JSMC0000	V22L20	バッチ用
		JSMC7000	V22L20	YPS構造体変換用
		JSMC8000	V22L20	会話機能用
		JSMC9000	V22L20	コメントファイル コンバータ用
		JSMCDICT	V22L20	日本語名標辞書変換用
		JSMCKN01	V22L20	日本語名標辞書 ←→ 項目ディクショナリ変換用
		JSMCKC01	V22L20	コメントファイル ←→ 項目ディクショナリ変換用
		JSMCRED1	V22L20	再定義情報削除用
		JSMCDSS1	V22L20	日本語名標辞書作成支援用
		JSMCDSS2	V22L20	日本語名標辞書作成支援用

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA / DF-FILECHART 解説書	J1MO-9050-02	

4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョンレベルに対して、次のような機能追加及び改良が行われている。

4.1 V21L10で行われた機能追加・改良

4.1.1 レコードレイアウトの機能追加・改良

- KING, KST, KST II に加え、T-GSPによる図形出力を可能とした。
- 7階層目以降のデータ項目が抑制される場合、6階層目のデータ項目のPICTURE句の欄に '@ ' を出力し、出力抑制を明確にした。
- 3バイト以内の項目はPICTURE句の欄に入りきらないため注釈行に出力していたが、表現方法を変えることにより、PICTURE句の欄に出力を可能とした。

例) X(3) → XXX
 9(2) → 99

- 一項目が次欄に跨がって出力される場合、継続している下段項目の左端に ' ! ' を出力することにより継続状態を明確にした。

4.1.2 各帳票の改良

- CLPでの出力を可能とした。
- 指定パラメタ、確定パラメタ、指定SYSIN制御文、実行結果メッセージ等を1ページに一括して出力することにより、用紙の節約を行った。
- データ領域定義、レコードレイアウト、テストデータ記入表において入力データセット名の表示を行った。
- ヘッダ部をわかりやすい表現に変更した。

4.1.3 ページプリンタのサポート

- APSライタを使用することにより、ページプリンタでの帳票出力を可能とした(データ領域定義のみ出力可能)。

4.1.4 YPS構造体のサポート

- DF-FILECHARTが提供しているYPS構造体変換ユーティリティを使用することにより、YPS構造体の使用が可能となった。

4.1.5 入力データセットの追加

- AP/DFで作成されたデータセットの入力を可能とした。

4.1.6 画面による会話機能のサポート

- JCL(ジョブ制御文)がわからない人やDF-FILECHARTの機能を十分に活用できていない人にも、同ソフトウェアを効率的に使用できる環境を提供した。

4.2 V21L20で行われた機能追加・改良

4.2.1 レコードレイアウトの機能追加・改良

- 文字はKST, KST II, 図形はT-GSPによる出力を可能とし、出力時間の短縮を行った。

参考) 1メンバ当たり3000項目のコピー句を入力とした場合、T-GSPのみの出力時に比べ出力時間はおよそ20分の1に短縮される。

4.2.2 会話形式からの帳票出力の改良

- 会話形式からの帳票出力時に、用紙制御イメージ識別名の指定を可能とした。

4.2.3 入力元データセット名の表示の改良

- データ領域定義，レコードレイアウト，テストデータ記入表において入力されたデータセット名の表示で連結されている場合の表示を可能とした。

4.3 V22L10で行われた機能追加・改良

4.3.1 マルチクラスタ環境における運用

- OS IV / MSP スケーラブル SCMP システムにおけるマルチクラスタの運用を可能にした。

4.3.2 画面情報ユーザファイルのデータセット名の変更

- 画面情報ユーザファイルのデータセット名を 'プロジェクト名.FCHART.@USER' から 'プロジェクト名.FCHART.USER.FILE' に変更した。

4.4 V22L20で行われた機能追加・改良

4.4.1 CSV形式ファイル出力の追加

- 以下のドキュメントをCSV形式ファイルとして出力できるようにした。
 - ・データ領域定義
 - ・テストデータ記入表

4.4.2 FD句を含むコピー句のサポート

- FD句（ファイル記述項）を含むコピー句の入力を可能とした。

4.4.3 日本語名標辞書作成支援プログラムの提供

- DF-FILECHARTで使用する日本語名標辞書の作成を支援する機能（機能1と2）を提供した。
 - ・機能1：DF-FILECHARTが出力するデータ領域定義のCSV形式ファイルを入力とし，日本語変換の対象となる単語をCSV形式の単語ファイルとして出力する。
出力された単語ファイルに，利用者は日本語を入力する。
 - ・機能2：上記の単語ファイルを入力とし，ADJUSTの日本語名標辞書を作成する。

5 . 移行上の注意

以前のバージョンレベルからこのソフトウェアに移るときに、流用可能な資産と留意しなければならない事項を次に示す。

5 . 1 SIMPLE / DF - LAYOUTからの移行

ー 以下に示す資産は流用可能である。

- ・保存ファイル
- ・変更ファイル
- ・コメントファイル

ただし、V20L11以前では、コメントファイルのフォーマットが異なるため、流用する場合にはコメントファイルをコンバートする必要がある。コメントファイルをコンバートするプログラムを提供しているので使用されたい。次にコメントファイルコンバートプログラムを説明する。

5 . 1 . 1 コメントファイルコンバートプログラム

このプログラムはV20L11以前でコメントファイルを使用しているユーザーのために提供しているものであり、V20L11以前で使用しているコメントファイルをV20L12以降用に変換するものである。

a) コメントファイルコンバートプログラムのジョブフロー

コメントファイルコンバートプログラムのジョブフローを図5.1に示す。

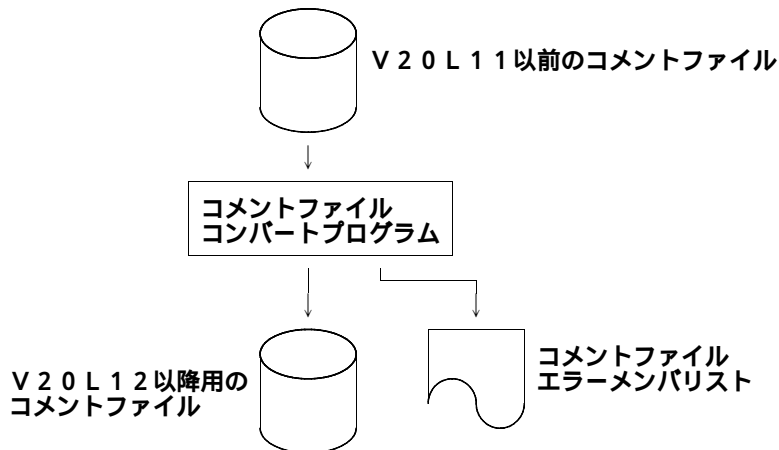


図5.1 コメントファイルコンバートプログラムのジョブフロー

b) 実行ジョブ制御文

提供 JCL ファイル中のメンバ 'JCL9000' を修正し、実行する。

コメントファイルコンバートプログラムのジョブ制御文を図5.2 に示し、説明する。

下線部は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名など利用者の環境に合わせて変更されたい。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01G JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R,NOTIFY=USER01
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//STEP1 EXEC PGM=JSMC9000,REGION=2048K
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.TESTL11.COM,DISP=SHR _____ ④
//JSMHCCO2 DD DSN=USER01.TESTL12.COM,DISP=(,CATLG),UNIT=SYSDA,_____ ⑤
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(10,5,5),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=108,BLKSIZE=1080)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

図5.2 コメントファイルコンバートプログラムのジョブ制御文

- ① 本ソフトウェアのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。認定ライブラリの場合は、指定してはならない。
- ③ 必要によりユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元の V20L11 以前用のコメントファイルを指定する。
- ⑤ 出力先の V20L12 以降用のコメントファイルを指定する。

c) コメントファイルエラーメンバリスト

入力元の V20L11 以前用のコメントファイルの内容に誤りがあった場合、そのコメントファイルのメンバ名がコメントファイルエラーメンバリストに出力される。

このリストに出力されたメンバについては、V20L12 以降用に変換されない。

d) 使用上の注意

入力元のコメントファイルの内容に誤りがあるものについては、一切処理を行わない。

その場合、誤りのあったメンバ名がコメントファイルエラーメンバリストに出力される。

5.2 V21L10からの移行

- － 流用可能な資産を下記に示す。
 - ・保存ファイル
 - ・変更ファイル
 - ・コメントファイル
 - ・画面情報マスタファイル
 - ・提供JCLファイルの各種実行用ジョブ制御文
- － 画面情報ユーザファイルについてはデータセット名が変更されているため、作成し直すか、改名する必要がある。

5.3 V21L20からの移行

- － 流用可能な資産を下記に示す。
 - ・保存ファイル
 - ・変更ファイル
 - ・コメントファイル
 - ・画面情報マスタファイル
 - ・提供JCLファイルの各種実行用ジョブ制御文，画面起動用コマンドプロシジャ
 - ・ユーティリティ用提供JCLファイルの各種実行用ジョブ制御文
- ただし，ユーティリティ用提供JCLファイルには，新たに追加された実行用ジョブ制御文（メンバ名`JSMCRED1`，`JSMCDSS1`および`JSMCDSS2`）も存在するため注意されたい。
- － 画面情報ユーザファイルについてはデータセット名が変更されているため，作成し直すか，改名する必要がある。

5.4 V22L10からの移行

- － 流用可能な資産を下記に示す。
 - ・保存ファイル
 - ・変更ファイル
 - ・コメントファイル
 - ・画面情報マスタファイル
 - ・画面情報ユーザファイル
 - ・提供JCLファイルの各種実行用ジョブ制御文，画面起動用コマンドプロシジャ
 - ・ユーティリティ用提供JCLファイルの各種実行用ジョブ制御文
- ただし，ユーティリティ用提供JCLファイルには，新たに追加された実行用ジョブ制御文（メンバ名`JSMCDSS1`および`JSMCDSS2`）も存在するため注意されたい。

6. 制限事項

DF-FILECHARTの制限事項のうち、主要なものを表6.1に示す。制限事項の詳細は、適用マニュアルを参照されたい。

【1】2.8

表6.1 制限事項

制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
本ソフトウェアを認定ライブラリにインストールする又はインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOBLIB又はSTEMPLIB DD文に本ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して実行する。	な し
漢字ストロークテーブルに対応するJEFコードが存在しない場合 - 実行時オプションKST指定でレコードレイアウト出力時に、文字に対応するJEFコードが漢字ストロークテーブルに存在しない場合、その文字に印字箇所印字乱れを起こす場合がある。	原因となる文字を漢字ストロークテーブルに登録する。	な し
本ソフトウェアはOSIV/MSPスケラブルSCMPシステム環境に順応するため、コメントファイルの排他的有効範囲を従来のジョブ間からクラスタ間に拡張しており、排他制御方法を変更している。 したがって、V21L20以前のソフトウェアと本ソフトウェアの同一システム上でのコメントファイルの共用はできない。	代行方法なし。	未 定
本ソフトウェアは使用する作業用データセット名の第一修飾子にユーザIDを使用しているため、同一ユーザIDで複数同時に使用すると割当てエラー等が発生する場合がある。	代行方法なし。	な し

7. ソフトウェア組合せ条件

本ソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは表7.1 及び表7.2 に示すとおりである。

表7.1 必要関連ソフトウェア (OSIV/MSP)

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備 考
		必須	任意	
A F II	V10L10以降			
COBOL 85	V12L10以降			
ソートマージ	V10L30以降			
A D J U S T	V11L10以降			
J E F 基本辞書	V01L92以降			
G E M	V10L30以降			コピーライブラリがG E Mの場合
P F D	V10L30以降			区分編成のコピーライブラリから日付指定で処理を行う場合でTSS におけるプログラム開発支援がPFD の場合
P S A M	V20L10以降			会話形式を使用する場合
A P / D F	V20L10以降			区分編成のコピーライブラリから日付指定で処理を行う場合でTSS におけるプログラム開発支援がAP/DF の場合又は、会話形式を使用する場合
A P / E F	V20L10以降			会話形式を使用する場合
Y P S / COBOL コンパイラ	V11L10以降			Y P S 構造体を入力して処理する場合
A P S	V11L10以降			ページプリンタに出力する場合

表7.2 必要関連ソフトウェア (レコードレイアウト出力用追加) (OSIV/MSP)

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件 (指定オプション)				備 考
		KING	KST	GSP	GKS	
K I N G (グラフ・ 図形出力) / J E F	V10L10以降					
G S L	V10L30以降					
V M H	V10L10以降					
F O R T R A N 7 7 ライブラリ	V10L31以降					F O R T R A N 7 7 , F O R T R A N 7 7 E X でも代替可能であるが、F O R T R A N 7 7 E X を使用する場合には、F O R T R A N 7 7 とのロードモジュール互換機能のインストールが必要。

[補足事項]

指定オプションについて

- | | |
|---|--|
| { | K I N G : 図形, 文字共にK I N Gにより出力する場合。
K S T : 文字をK S T又はK S T II, 図形はK I N Gにより出力する場合。
G S P : 図形, 文字共にT-G S Pにより出力する場合。
G K S : 文字をK S T又はK S T II, 図形はT-G S Pにより出力する場合。 |
|---|--|

8. 入出力装置

本ソフトウェアの各ドキュメントの出力が可能なプリンタ装置について説明する。

本ソフトウェアの帳票は、日本語ラインプリンタ、およびカット紙ラインプリンタで出力することができる。ただしフォームオーバーレイが出力できるプリンタであること。

レコードレイアウト図出力時には、使用する図形関連ソフトウェア（KING, GSL, VMH）により出力できるプリンタ、および必要となるオプションが異なるので、各々のソフトウェア説明書等で確認されたい。

また、ページプリンタ用データ領域定義出力時には、A4縮小印刷またはB4横印刷ができるページプリンタにおいて帳票出力が可能である。

9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表9.1 と表9.2 に示すとおりである。

表9.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
S L	F C H A R T	1 2	1

表9.2 提供媒体内容

格納番号	データセット名	内 容
1	FCHART.JCL	提供JCLファイル（インストール用制御文、実行用ジョブ制御文、画面起動用コマンドプロシジャ、フォームオーバーレイソース、稼働確認用テストコピー句、全ドキュメント保存ファイルのコピー句）のJSECOPY のアンロード版
2	FCHART.LOAD	ロードモジュールのJSECOPY のアンロード版
3	FCHART.IMAGELIB	イメージライブラリのJSECOPY のアンロード版
4	FCHART.FORMAT	画面定義体のJSECOPY のアンロード版
5	FCHART.COMMENT	稼働確認用コメントファイルのJSECOPY のアンロード版
6	FCHART.HENKO	稼働確認用変更項目対比一覧出力用コピー句のJSECOPY のアンロード版
7	FCHART.YPSINC	稼働確認用YPS構造体のJSECOPY のアンロード版
8	FCHART.NDICT	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERのアンロード版
9	FCHART.SEFILE	画面情報マスタファイルのJSDGENERのアンロード版
10	FCHART.APDFLOAD	YPS コンバートユーティリティの AP/DF用ロードモジュールのJSECOPY のアンロード版
11	FCHART.UTYLOAD	ユーティリティ用ロードモジュール（日本語名標辞書データ変換プログラム、日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラム、コメントファイル←→項目ディクショナリ変換プログラム、再定義情報削除プログラム、日本語名標辞書作成支援プログラム1及び2）のJSECOPY のアンロード版 参照 → 14, 15, 16, 17
12	FCHART.UTYJCL	ユーティリティ用提供JCLファイル（日本語名標辞書データ変換プログラム、日本語名標辞書←→項目ディクショナリデータ変換プログラム、コメントファイル←→項目ディクショナリデータ変換プログラム、再定義情報削除プログラム、日本語名標辞書作成支援プログラム1及び2）のJSECOPY のアンロード版 参照 → 14, 15, 16, 17

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りを表10.1に示す。

表10.1 DASD所要量(続く)

単位は各々次のとおり
レコード長, ブロック長: バイト
ディレクトリ: ブロック
DASD所要量: トラック

項番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	ディレクトリ	算 出 式		備 考
	標準名	変更可否			DASD所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
1	FCHART. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	5	5	5	
2	FCHART. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	5 2	1 2 6	8 4	
3	FCHART. IMAGELIB	可	区分編成 U 0 6144	1	1 2	8	
4	FCHART. FORMAT	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	
5	FCHART. COMMENT	可	区分編成 FB 108 1080	1	2	1	
6	FCHART. HENKO	可	区分編成 FB 80 3120	1	2	1	
7	FCHART. YPSINC	可	区分編成 VB 255 2554	1	2	1	
8	FCHART. NDICT	可	順編成 FB 94 940		2	1	
9	FCHART. SEFILE	可	順編成 FB 150 6000		3	2	会話形式で実行する場合
10	FCHART. APDFLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	
11	FCHART. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	5	3	日本語名標辞書データ変換プログラム, 日本語名標辞書, コメントファイル→項目ディクショナリ変換プログラム, 再定義情報削除プログラム, 日本語名標辞書作成支援プログラム1及び2を使用する場合 参照 → 14, 15, 16, 17

表10.1 DASD所要量(続き)

項 番	データセット名		データセット 形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式		備 考	
	標準名	変更 可否		ディレ クトリ	DASD所要量		
					F 6 4 2 1		F 6 4 2 5
12	FCHART. UTYJCL	可	区分編成 P0 80 3120	1	3	2	日本語名標辞書データ変換プログラム、 日本語名標辞書、コメントファイル→項 目ディクショナリ変換プログラム、再定義情 報削除プログラム、日本語名標辞書作 成支援プログラム1及び2を使用する場 合 参照 → 14, 15, 16, 17

11. インストールの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、提供JCLファイル中の1メンバとして提供している。

この提供JCLファイルをDASDにローディングするジョブ制御文の例を図11.1に示す。下線部は、修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=FCHART.JCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(1,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.FCHART.JCL,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(5,1,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.1 インストール用ジョブ制御文ローディングのジョブ制御文(例)

11.2 インストール用ジョブ制御文の修正と実行

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し実行する。図11.2にインストール用ジョブ制御文を示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、ユーティリティ用として提供している機能を使用しない場合は、REST5 及びREST6 のステップは実行しなくてよい。 参照 → 14, 15, 16, 17

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 参照 → 6

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//* DF-FILECHART インストール用JCL *
//*****
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//REST1 EXEC PGM=JSECOPY
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//IN2 DD DSN=FCHART.LOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(2,SL)
//IN3 DD DSN=FCHART.IMAGELIB,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(3,SL)
//IN4 DD DSN=FCHART.FORMAT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(4,SL)
//IN5 DD DSN=FCHART.COMMENT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(5,SL)
//IN6 DD DSN=FCHART.HENKO,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(6,SL)
//IN7 DD DSN=FCHART.YPSINC,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(7,SL)
//OUT2 DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(84,1,52),RLSE)
//OUT3 DD DSN=USER01.FCHART.IMAGELIB,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(8,1,1),RLSE)
//OUT4 DD DSN=USER01.FCHART.FORMAT,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//OUT5 DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//OUT6 DD DSN=USER01.FCHART.HENKO,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//OUT7 DD DSN=USER01.FCHART.YPSINC,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN2,OUTDD=OUT2
COPY INDD=IN3,OUTDD=OUT3
COPY INDD=IN4,OUTDD=OUT4
COPY INDD=IN5,OUTDD=OUT5
COPY INDD=IN6,OUTDD=OUT6
COPY INDD=IN7,OUTDD=OUT7
/*
//REST2 EXEC PGM=JSDGENER
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=FCHART.NDICT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(8,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1),RLSE)
//SYSIN DD DUMMY
/*
//REST3 EXEC PGM=JSDGENER
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=FCHART.SEFIL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(9,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.FCHART.SEFIL,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(2,1))
//SYSIN DD DUMMY
/*
```

図11.2インストール用ジョブ制御文(続く)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//REST4 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IN8 DD DSN=FCHART.APDFLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(10,SL)
//OUT8 DD DSN=USER01.FCHART.APDFLOAD,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN8,OUTDD=OUT8
/*
//REST5 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IN9 DD DSN=FCHART.UTYLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(11,SL)
//OUT9 DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(3,1,1),RLSE)
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN9,OUTDD=OUT9
/*
//REST6 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IN10 DD DSN=FCHART.UTYJCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=FCHART,LABEL=(12,SL)
//OUT10 DD DSN=USER01.FCHART.UTYJCL,UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(,CATLG),SPACE=(TRK,(2,1,1))
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN10,OUTDD=OUT10
/*
//

```

図11.2インストール用ジョブ制御文（続き）

< 補足説明 >

- － 保存ファイルを利用者独自のプログラムで利用する場合のために、保存ファイルのコピー句を提供している。提供 JCL ファイル中のメンバ名 'ZENHOZON' である。
- － イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおり。
(KOL1C110,KOL1C120,KOL1C130,KOL1C140,KOL1C150)

11.3 フォームオーバーレイソース

このソフトウェアではドキュメントの出力時にイメージライブラリを使用している。提供するイメージライブラリは、11インチ帳票用であり、デジタルスイッチの基準値を、垂直：4，水平：5で作成している。そのため、これ以外の基準値で使用すると、プログラムの印字とオーバーレイがずれて出力される。この場合は、フォームオーバーレイソースのMANNER文を修正して、イメージライブラリを再作成する。

また、利用者独自のマークを表示する場合や、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合などにも、提供JCLファイルに入っているフォームオーバーレイのソースを修正して、利用者固有のイメージライブラリを作成できる。

フォームオーバーレイの修正及び登録方法は、“OSIV/MSP ADJUST 使用手引書”を参照されたい。図11.3にMANNER文の修正方法を示す。

```
MANNER CHAR(10,6),MOVE(-1,0)
                        水平←  →垂直
```

図11.3 MANNER文の修正方法

MANNER文にMOVEオペランドを追加し、水平及び垂直方向の位置を修正する。
フォームオーバーレイソースの提供JCLファイル中のメンバ名は下記のとおりである。

- データ領域定義（網掛けモード）・・・ C110
- データ領域定義（野線モード）・・・ C120
- レコードレイアウト　・・・・・・・・ C130
- テストデータ記入表　・・・・・・・・ C140
- 変更項目対比一覧　・・・・・・・・ C150

11.4 実行用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。なお、下線部以外にもPARAパラメタ、SYSIN制御文及びシステムに合わせて装置名の修正を行う。

11.4.1 保存ファイル作成用ジョブ制御文の修正

保存ファイル作成用ジョブ制御文を図11.4に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'JCLZEN'である。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR ③
//STEP01 EXEC PGM=JSMCO000,REGION=2048K,
// PARM='ITEMPLIST(ONLY,DIRECT),HANYO,COMMENT'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR ④
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT,DISP=SHR ⑤
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR ⑥
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCZOT DD DSN=USER01.CHUKAN.FILE,DISP=(,CATLG),UNIT=SYSDA, ⑦
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

図11.4 保存ファイル作成用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ、COBOL85ライブラリ、ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑥ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑦ 保存ファイルのデータセットを指定する。

11.4.2 変更ファイル作成用ジョブ制御文の修正

変更ファイル作成用ジョブ制御文を図11.5に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'JCLHEN1' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR ----- ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR -----
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR -----
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR ----- ③
//STEP01 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='HENKO(ONLY,DIRECT,ALL),HANYO'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR ----- ④
//SYSLIB2 DD DSN=USER01.FCHART.HENKO,DISP=SHR ----- ⑤
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR ----- ⑥
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC040 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC050 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC060 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC070 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC080 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//SYSDCT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCHOT DD DSN=USER01.CHUKAN.FILEHN,DISP=(,CATLG),UNIT=SYSDA, --- ⑦
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,100),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.5 変更ファイル作成用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元の変更前のコピーライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元の変更後のコピーライブラリを指定する。
- ⑥ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑦ 変更ファイルのデータセットを指定する。

11.4.3 データ領域定義・PP用データ領域定義出力用ジョブ制御文の修正

データ領域定義出力用ジョブ制御文，PP用データ領域定義出力用ジョブ制御文を以下に示す。

11.4.3.1 データ領域定義出力用ジョブ制御文の修正

データ領域定義出力用ジョブ制御文を図11.6に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'JCLITEM' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.FCHART.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, — ④
// VOL=SER=DASDXX
//STEP01 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='ITEMLIST(DCT,DIRECT),HANYO,COMMENT'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR _____ ⑤
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT,DISP=SHR _____ ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCZOT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100)) _____ ⑧
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCMKJ DD SYSOUT=*
//JSMHCLST DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.6 データ領域定義出力用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑦ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は，一時データセットを指定してもよい。

11.4.3.2 PP用データ領域定義出力用ジョブ制御文の修正

PP用データ領域定義出力用ジョブ制御文を図11.7に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'JCLPPI' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//STEP01 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='PPITEM(DCT,DIRECT),HANYO,COMMENT'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR _____ ④
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT,DISP=SHR _____ ⑤
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR _____ ⑥
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCZOT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100)) _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,FCB=STD3
//JSMHCMKJ DD SYSOUT=*,FCB=STD3
//JSMHCLST DD SYSOUT=*,FCB=STD3
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.7 PP用データ領域定義出力用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑥ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑦ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は, 一時データセットを指定してもよい。

11.4.4 レコードレイアウト出力用ジョブ制御文の修正

レコードレイアウト出力用ジョブ制御文を図11.8に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'JCLLAY' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.TGSLIB,DISP=SHR _____
//* DD DSN=SYS1.KING.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.FCHART.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, — ④
// VOL=SER=DASDXX
//STEP01 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='LAYOUT(AN,DCT,DIRECT,GSP),HANYO,COMMENT'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR _____ ⑤
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT,DISP=SHR _____ ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCZOT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100)) _____ ⑧
//MPTMST DD DSN=SYS1.KPATNLIB,DISP=SHR _____ ⑨
//*FT72F001 DD DSN=SYS1.KSTROKE,DISP=SHR _____ ⑩
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCMKJ DD SYSOUT=*
//FT30F001 DD SYSOUT=* _____ ⑪
//*GDFILE DD SYSOUT=*
//

```

図11.8 レコードレイアウト出力用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリ名を指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUST及びKING/JEF, GSL, FORTRAN77などの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑦ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は, 一時データセットを指定してもよい。
- ⑨ 実行時オプションでKING又はGSPを指定した場合, 文字パターンファイルを指定する。
実行時オプションでKSTまたはGKSを指定した場合は, 当DD文は不要である。
- ⑩ 実行時オプションでKSTまたはGKSを指定した場合, 漢字ストロークテーブルを指定する。
実行時オプションでKING又はGSPを指定した場合は, 当DD文は不要である。
- ⑪ 実行時オプションでGSPまたはGKSを指定した場合, DD名 'FT30F001' を指定する
実行時オプションでKING又はKSTを指定した場合は, DD名 'GDFILE' を指定する。

11.4.5 テストデータ記入表出力用ジョブ制御文の修正

テストデータ記入表出力用ジョブ制御文を図11.9に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'JCLTST' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR ----- ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR -----
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR -----
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR ----- ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.FCHART.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, --- ④
// VOL=SER=DASDXX
//STEP1 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='TESTDATA(DCT,DIRECT,FIXED),HANYO,COMMENT'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@ROLIST M=TESTCOPY,TESTDATA01,OCCURS
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR ----- ⑤
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT,DISP=SHR ----- ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR ----- ⑦
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCZOT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100)) ----- ⑧
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCMKJ DD SYSOUT=*
//JSMHCLST DD SYSOUT=*
//

```

図11.9 テストデータ記入表出力用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑦ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は, 一時データセットを指定してもよい。

11.4.6 変更項目対比一覧出力用ジョブ制御文の修正

変更項目対比一覧出力用ジョブ制御文を図11.10 に示す。提供 JCL ファイル中のメンバ名は 'JCLHEN2' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.FCHART.IMAGELIB,DISP=SHR,UNIT=SYSDA, — ④
// VOL=SER=DASDXX
//STEP01 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='HENKO(DCT,DIR,ALL),HANYO'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB2 DD DSN=USER01.FCHART.HENKO,DISP=SHR _____ ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR _____ ⑦
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC040 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC050 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC060 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC070 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC080 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//SYSDCT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//JSMHCHOT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100)) _____ ⑧
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCMKJ DD SYSOUT=*
//JSMHCLST DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.10 変更項目対比一覧出力用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元の変更前のコピーライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元の変更後のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 変更ファイルのデータセットを指定する。変更ファイルを保存する必要がない場合は, 一時データセットを指定してもよい。

11.4.7 コメントファイル作成・更新のジョブ制御文の修正

コメントファイル作成・更新のジョブ制御文を図11.11 に示す。提供 JCL ファイル中のメンバ名は 'JCLCOM' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//STEP1 EXEC PGM=JSMC0000,REGION=2048K,
// PARM='COMFILE(CREATE),HANYO'
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTCOPY'
/*
//SYSLIB DD DSN=USER01.FCHART.JCL,DISP=SHR _____ ④
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COM,DISP=(,CATLG),UNIT=SYSDA, --- ⑤
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,20,10)),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=108,BLKSIZE=1080)
//JIMLIB DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR _____ ⑥
//JSMHC010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC020 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//JSMHC030 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100,100)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=508,BLKSIZE=512)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCLST DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.11 コメントファイル作成・更新のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑤ 出力先のコメントファイルのデータセットを指定する。
- ⑥ 日本語名標辞書を指定する。

11.4.8 YPS構造体変換ユーティリティのジョブ制御文の修正

YPS構造体変換ユーティリティ単体用のジョブ制御文の修正とYPS構造体変換ユーティリティと各ドキュメントの出力用ジョブ制御文の修正を以下に示す。

YPS/COBOLコンパイラの詳細は“YPS/COBOLコンパイラ使用手引書”を参照されたい。

11.4.8.1 YPS構造体変換ユーティリティ単体用のジョブ制御文の修正

YPS構造体変換ユーティリティ単体用のジョブ制御文の修正を図11.12に示す。

提供JCLファイル中のメンバ名は'JCL7000'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01G JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR _____
// DD DSN=SYS1.YPSV11.LOAD,DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//IMAGELIB DD DSN=SYS1.IMAGELIB,DISP=SHR _____ ④
//STEP01 EXEC PGM=JSMC7000,REGION=2048K
//SYSYIN DD DSN=USER01.FCHART.YPSINC,DISP=SHR _____ ⑤
//SYSYLIB DD DSN=USER01.SLIB,DISP=SHR _____ ⑥
//SYSYJLIB DD DSN=USER01.JLIB,DISP=SHR _____ ⑦
//SYSYINC DD DSN=USER01.TEST.YPSINC,DISP=SHR _____ ⑧
//SYSYIN DD DSN=USER01.TEST.COPY,DISP=(,CATLG),UNIT=SYSDA, _____ ⑨
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,20,30)),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=255,BLKSIZE=2554)
//SYSYOPT DD *
NOCHECK NOTURB STATIS
NOJOIN NOOBJECT FLAG(1) TERM NOYDCT LANGLVL(V11) NOLCHECK
NOCOMMENT PREFIX(JVV) NOUSING NOYPRINT NOXREF NOTEST NOCOVERAGE
ELM(_____) _____ ⑩
CID(_____) _____ ⑪
QUOTE,APOST _____ ⑫
INCDD _____ ⑬
SLIBDD _____ ⑭
JLIBDD _____ ⑮
ANCONV,NOANCONV _____ ⑯
LINECOUNT(_____) _____ ⑰
YPSSRC(1,2,3),NOYPSSRC _____ ⑱
/*
//SYSYCOV DD DUMMY
//SYSYPRT DD SYSOUT=*,FCB=STD3,CHARS=YPSA _____ ⑲
//SYSTEM DD SYSOUT=*,FCB=STD3
//SYSYUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(2,2))
//SYSYSPRINT DD SYSOUT=*
//

```

図11.12 YPS構造体変換ユーティリティ単体用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ,COBOL85ライブラリ,YPSコンパイラなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし,認定ライブラリとなっているものは,指定してはならない。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ YPS構造体のデータセットを指定する。
- ⑥ 外部構文定義を使用する場合は,外部構文定義のデータセットを指定する。
- ⑦ 外部日本語名標宣言を使用する場合は,外部日本語名標宣言のデータセットを指定する。
- ⑧ インクルードを使用する場合は,インクルードのデータセットを指定する。
- ⑨ オブジェクトモジュール(変換後コピーライブラリ)のデータセット(区分編成)を指定する。

- ⑩ 実行するメンバ名を指定する．単一メンバ指定の場合は、そのメンバ名を指定し、全メンバ指定の場合は、アスタリスク（*）を指定する．
- ⑪ 翻訳条件が存在する場合のみ指定する．
- ⑫ 原始プログラムの引用符を指定する．
- ⑬ インクルードのデータセットを使用する場合に指定する．
- ⑭ 外部構文定義のデータセットを使用する場合に指定する．
- ⑮ 外部日本語名標宣言のデータセットを使用する場合に指定する．
- ⑯ Y P S 仕様書内に記述された全角文字の英数字および特殊文字を半角に変換することを指定する．
- ⑰ ラインカウントを指定する場合に指定する．
- ⑱ Y P S 翻訳リストを出力するかしないかを指定する．
- ⑲ Y P S ドキュメント出力用の追加文字セットを指定する．

11.4.8.2 YPS構造体変換ユーティリティと各ドキュメントの出力用ジョブ制御文の修正

YPS構造体変換ユーティリティとデータ領域定義との連結用のジョブ制御文の一例を図11.13に示す。

提供JCLファイル中のメンバ名は'JCL7001'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01G JOB FCHART, CLASS=A, MSGCLASS=R
//IMAGELIB DD DSN=SYS1.IMAGELIB, DISP=SHR _____ ①
//          DD DSN=USER01.FCHART.IMAGELIB, DISP=SHR, UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=DASDXX
//STEP01 EXEC PGM=JSMC7000, REGION=2048K
//STEPLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD, DISP=SHR _____ ②
//          DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB, DISP=SHR _____ ③
//          DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB, DISP=SHR _____
//          DD DSN=SYS1.YPSV11.LOAD, DISP=SHR _____
//STPCAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR _____ ④
//SYSYIN DD DSN=USER01.FCHART.YPSINC, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSIN DD DSN=&&COPY, DISP=(, PASS), UNIT=SYSDA,
//        VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (30, 20, 30)),
//        DCB=(RECFM=VB, LRECL=255, BLKSIZE=2554)
//SYSYOPT DD *
NOCHECK NOTURB STATIS
NOJOIN NOOBJECT FLAG(1) TERM NOYDCT LANGLVL(V11) NOLCHECK
NOCOMMENT PREFIX(JVV) NOUSING NOYPRINT NOXREF NOTEST NOCOVERAGE
ELM(TESTYPS)
APOST
NOANCONV
NOYSSSRC
/*
//SYSYCOV DD DUMMY
//SYSYPRT DD SYSOUT=*, FCB=STD3, CHARS=YPSA _____ ⑥
//SYSTEM DD SYSOUT=*, FCB=STD3
//SYSYUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (2, 2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
/*
//STEP02 EXEC PGM=JSMC0000, REGION=2048K,
//          PARM='ITEMLIST(DCT, DIRECT), NOHANYO, COMMENT'
//STEPLIB DD DSN=USER01.FCHART.LOAD, DISP=SHR _____ ②
//          DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB, DISP=SHR _____ ③
//          DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB, DISP=SHR _____
//          DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR _____ ④
//STPCAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR _____
//SYSIN DD *
@OPTIONS APOST
@MOPT M='TESTYPS' _____ ⑦
/*
//SYSLIB DD DSN=&&COPY, DISP=(OLD, PASS)
//JSMHCCOM DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT, DISP=SHR _____ ⑧
//JSMHCO10 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//JSMHCO20 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//JSMHCO30 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100, 100)),
//        DCB=(RECFM=VB, LRECL=508, BLKSIZE=512)
//JSMHCZOT DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCMKJ DD SYSOUT=*
//JSMHCLST DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.13 YPS構造体変換ユーティリティとデータ領域定義との連結用のジョブ制御文の一例

- ① イメージライブラリを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUST, YPSコンパイラなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑤ YPS構造体のデータセットを指定する。
- ⑥ YPSドキュメント出力用の追加文字セットを指定する。
- ⑦ YPS構造体変換ユーティリティで複数メンバの変換を行う場合は、
@MOPT M=ALL
を指定する。
- ⑧ 入力元のコメントファイルを指定する。

11.5 画面情報マスタファイルの修正

このソフトウェアを画面との会話形式で稼働させるための画面情報マスタファイルの修正方法を以下に説明する。画面情報マスタファイルを図11.14 に示す。 【1】5.4.1

SIMPLIA/DF-FILECHART V22L20 画面情報マスタファイル			
I/O 実行時の入出力を指定して下さい			
選 に Sを指定することで入出力が選べます			
機能	選	識別	入出力内容説明
ITEMLIST	S	SYSLIB	データ領域定義
		JSMHCZIN	入力 コピーライブラリ
		JSMHCCOM	入力 保存ファイル
	S	JIMLIB	入力 コメントファイル
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (VSAM)
	S	JSMHCZOT	出力 保存ファイル
	S	JSMHCLST	出力 データ領域定義リスト
		JSMHCMKJ	出力 目次
	LAYOUT	S	SYSLIB
		JSMHCZIN	入力 コピーライブラリ
		JSMHCCOM	入力 保存ファイル
S		JIMLIB	入力 コメントファイル
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (VSAM)
S		JSMHCZOT	出力 保存ファイル
S		JSMHCLST	出力 レコードレイアウトリスト
		JSMHCMKJ	出力 目次
TESTDATA		S	SYSLIB
		JSMHCZIN	入力 コピーライブラリ
		JSMHCCOM	入力 保存ファイル
	S	JIMLIB	入力 コメントファイル
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (VSAM)
	S	JSMHCZOT	出力 保存ファイル
	S	JSMHCLST	出力 テストデータ記入表リスト
		JSMHCMKJ	出力 目次
	HENKO	S	SYSLIB
		JSMHCZIN	入力 コピーライブラリ
		JSMHCHIN	入力 保存ファイル
		JSMHCHIN	入力 変更ファイル
S		JIMLIB	入力 日本語名標辞書 (順編成)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (VSAM)
S		JSMHCHOT	出力 変更ファイル
S		JSMHCLST	出力 変更項目対比一覧リスト
		JSMHCMKJ	出力 目次
PPITEM		S	SYSLIB
		JSMHCZIN	入力 コピーライブラリ
		JSMHCCOM	入力 保存ファイル
	S	JIMLIB	入力 コメントファイル
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (VSAM)
	S	JSMHCZOT	出力 保存ファイル
	S	JSMHCLST	出力 PP用データ領域定義リスト
		JSMHCMKJ	出力 目次
	COMENT (CREATE)	S	JIMLIB
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
COMENT (UPDATE)	S	JIMLIB	コメントファイル操作 (更新)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
COMENT (ALL)	S	JIMLIB	コメントファイル操作 (創成+更新+削除)
		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書 (順編成)
SYSTEM			システムライブラリを指定して下さい
	DSN		にはデータセット名 を44文字以内で指定して下さい
	VOL		にはボリューム通し番号を 6文字以内で指定して下さい
	DD		にはDD名 を 8文字以内で指定して下さい
	識別	JOBLIB	には10定義指定できます。その他は 5定義です
識別	DSN 名 / VOL 通番 / DD名		

図11.14 画面情報マスタファイル (続く)

1	2	3	4	5	6	7
SSSSSS	JOBLIB	DSN	DF-FILECHARTが動作する為の必須P.Pが格納されているライ			
		VOL	USER01.FCHART.LOAD			①
		DSN	SYS1.C85L20.COBLIB			②
		VOL				
		DSN	SYS1.C85L20.LINKLIB			
		VOL				
		DSN	SYS1.ADJUST.LINKLIB			
		VOL				
		DSN	SYS1.TGSLIB			③
		VOL				
SSSSSS	JOBCAT	DSN	使用する日本語名標辞書がユーザカタログを使用している場			
		VOL	USERXXX			④
SSSSSS	IMAGELIB	DSN	フォームオーバーレイが格納されているライブラリを指定する			
		VOL	USER01.FCHART.IMAGELIB			⑤
		VOL	DASDXX			
SSSSSS	MPTMST	DSN	KINGとT-GSPが使用する文字パターンファイルを指			
		VOL	SYS1.KPATNLIB			⑥
SSSSSS	FT72F001	DSN	KST又はKST2が使用する漢字ストロークテーブルを指			
		VOL	USER01.FCHART.KSTROKE			⑦
SSSSSS	INCLUDE	DD	コピー句中にGEM3のINCLUDE制御文があり、INCLUDE制御文			
		DSN				
		VOL				

INPUT 入力ライブラリを指定して下さい
 DSN にはデータセット名 を44文字以内で指定して下さい
 VOL にはボリューム通し番号を 6文字以内で指定して下さい
 各識別には 5定義指定できます

識別	DSN 名 / VOL 通番
ISYSLIB	入力コピーライブラリを指定する USER01.FCHART.JCL ⑧
IOSYSLIB	旧コピーライブラリを指定する USER01.FCHART.JCL ⑨
INSYSLIB	新コピーライブラリを指定する USER01.FCHART.HENKO ⑩
IJSMHCZIN	入力保存ファイルを指定する USER01.CHUKAN.FILE
IOLDCZIN	旧入力保存ファイルを指定する USER01.CHUKAN.FILE
INEWCZIN	新入力保存ファイルを指定する USER01.CHUKAN.FILEH
IJSMHCHIN	入力変更ファイルを指定する USER01.CHUKAN.FILEH
IJSMHCCOM	入力コメントファイルを指定する USER01.FCHART.COMMENT ⑪
IJIMLIB	日本語名標辞書を指定する USER01.FCHART.NDICT ⑫

OUTPUT 出力ライブラリを指定して下さい
 CLAS には帳票の出力クラス を 1文字で指定して下さい
 DSN にはデータセット名 を44文字以内で指定して下さい
 VOL にはボリューム通し番号を 6文字以内で指定して下さい
 単位には 1:CYL か 2:TRK を数字で指定して下さい
 初期には初期量 を 8文字以内で指定して下さい
 増分には増分量 を 8文字以内で指定して下さい
 DRTY にはディレクトリ量 を 8文字以内で指定して下さい
 BLK にはブロックサイズ (5 文字以内) をレコード形式とレコード長
 DISP には 1:NEW, 2:NEW.CATLG, 3:OLD, 4:SHRの数字で指定して下さい
 CLAS, DSNが同時指定された場合はDSNを有効とします

図11.14 画面情報マスタファイル (続く)

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----

増分には増分量 を 8文字以内で指定して下さい
 DRTYにはディレクトリ量 を 8文字以内で指定して下さい

識別	単位 / 初期量 / 増分量 / DRTY
W SYSDCT	コピー句解析用中間ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W	DRTY 100
W SYSDCT2	コピー句解析用中間ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W	DRTY 100
W SORTWK01	ソート用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W SORTWK02	ソート用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W SORTWK03	ソート用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W SORTWK04	ソート用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W SYSUT1	コピー句解析用ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC010	S Y S I N制御文編集用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC020	メッセージ編集用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC030	エラーメッセージ編集用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC040	S Y S I N制御文編集用ワークデータセットを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC050	コピー句編集用ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC060	コピー句編集用ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC070	コピー句編集用ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100
W JSMHC080	コピー句編集用ファイルを指定する
W	単位 2
W	初期 100
W	増分 100

PARM 実行条件を指定して下さい

実行条件	実行条件内容説明
P 3	【データ領域定義】
P 2	1:英数字順 2:日本語順 3:定義順 1:網掛け出力 2:罫線出力 3:罫線無出力

図11.14 画面情報マスタファイル(続く)

P 0	0:提供FOP 使用 :利用者作成FOP 名	1:利用者作成FOP使用
P 1	【レコードレイアウト】	
P 3	1:単一出力 1:KING使用 2:KING+KST 使用	2:並行出力 3:T-GSP使用 4:T-GSP+KST
P 0	0:提供FOP 使用 :利用者作成FOP 名	1:利用者作成FOP 使用
P 1	【テストデータ記入表】	
P 0	1:固定幅 0:提供FOP 使用 :利用者作成FOP 名	2:桁数変動 1:利用者作成FOP 使用
P 1	【変更項目対比一覧】	
P 0	0:更新情報出力しない 0:提供FOP 使用 :利用者作成FOP 名	1:更新情報出力する 1:利用者作成FOP 使用
P 3	【P P用データ領域定義】	
P 1	1:英数字順	2:日本語順 3:定義順
P 1	【コメントファイル操作更新】	
P 1	0:更新情報出力しない 1:スペースに置換える	1:更新情報出力する 2:日本語名に置換える
P 1	【コメントファイル操作削除】	
P 1	0:削除情報出力しない 0:更新情報出力しない	1:削除情報出力する 1:更新情報出力する
P 1	0:削除情報出力しない 1:スペースに置換える	1:削除情報出力する 2:日本語名に置換える
P 1	【全機能共通実行条件】	
P 30	1: COPY句はPFDFで作成 / 更新 H1,H2:ハイフン分割	2: COPY 句はAPDFで作成 / 更新 1~30:DATA 項目名変換単位文字数
P 0	0~9:DATA項目名変換対象外の先頭文字数	
P 8	1~8:コピー句名変換単位文字数	
P 0	0~7:コピー句名変換対象外の先頭文字数	
P 0	0:GEMPASSWORD 指定なし :GEMPASSWORD	1:GEMPASSWORD 指定あり
P 2048	:リージョンサイズ	⑰

COMPILE コンパイルオプションを指定して下さい

OPTION	オプション内容説明
C _	【コピー句で使用されている通貨記号】 ¥,\$,等 (1文字で指定) ⑱
C 2_	【コピー句で使用されている小数点記号】 1:COMMA 2:PERIOD
C 2_	【コピー句で使用されている引用符】 1:QUOTE 2:APOST
C ALL	【使用する予約語集】 ALL,STD,V51,V10,OS2,J2,V111,V112,VSR2,VSR3,USER
C 1_	【コピー句で使用されている英数字小文字の扱い】 1:英大文字と同じ 2:英大文字と区別
C 3_	【コピー句の規格】 1:68 ANS COBOL 2:72 ANS COBOL 3:85 ANS COBOL
C 2_	【日本語翻訳文字規格】 1:SYS 2:STD 3:NONE

RECORD レコード名付加オプションを指定して下さい
 メンバ名 にはコピー句名を 8文字以内で指定して下さい
 E にはEXTERNAL句を指定する場合 Sを指定して下さい
 G にはGLOBAL句を指定する場合 Sを指定して下さい
 レコード名には英数字30文字以内か日本語30文字以内で指定して下さい

メンバ名	E	G	レコード名
R TESTCOPY			TESTREC1
R CPUSER01	S	S	TESTREC1
R CPUSER01		S	TESTREC1
R COPY03	S		レコード 0 3

MOJIRETU 置換え文字列オプションを指定して下さい
 CNTL には REP:REPLACING か PRE:PREFIX か SUF:SUFIX を指定
 識別 には置換え前か置換え後を指定して下さい
 文字列 には識別(置換え前)に置換え前文字列を
 識別(置換え後)に置換え後文字列を
 英数字30文字以内か日本語14文字以内で指定して下さい
 仮原文を入力の際は== == も含めて指定して下さい

図11.14 画面情報マスタファイル(続く)

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----
ただし、== は文字数には含まれません

CNTL	識別	文字列
M	置換前	==()==
M	置換後	==TEST==
M	置換前	MAST1
M	置換後	TEST1
M	置換前	MAST
M	置換後	TEST
M	置換前	ALL
M	置換後	SEL
M	置換前	==()==
M	置換後	==TEST==
M	置換前	マスタ1
M	置換後	テスト1
M	置換前	マスタ
M	置換後	テスト

TENKAI 展開/選択データ項目名を指定して下さい
メンバ名 にはコピー句名を 8文字以内で指定して下さい
展 にはデータ項目が展開データ項目名の場合 Sを指定して下さい
選 にはデータ項目が選択データ項目名の場合 Sを指定して下さい
R にはデータ項目がREDEFINES 句を含む場合 Sを指定して下さい
O にはデータ項目がOCCURS 句を含む場合 Sを指定して下さい
データ項目名には英数字30文字以内か日本語30文字以内で指定して下さい
メンバ名 は40メンバ以内で指定して下さい
データ項目名 は 1メンバについて20項目以内で指定して下さい

メンバ名	展	選	R	O	データ項目名
T	S				DATA01
T	S		S		DATA02
T	S			S	DATA03
T	S		S	S	DATA04
T		S		S	ITEM01
T		S			ITEM02
T		S			ITEM03
T	S		S	S	データ01

JOB JOB文を67カラム以内で指定して下さい

```

-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----6-----*--
J //USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
J //*
J //*
J //*

```

図11.14 画面情報マスタファイル(続き)

11.5.1 保存ファイル作成用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する .
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する . ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない .
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること .
- ④ ユーザカタログを指定する .
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する .
- ⑪ 入力元のコメントファイルを指定する .
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する . I/O選択で日本語名標辞書(順編成)又は, (VSAM)を選択していない場合は不要である .
- ⑬ 保存ファイルのデータセットを指定する .

- ⑩ 出力クラスを指定する。
- ⑪ リージョンサイズを指定する。
- ⑫ COBOLコンパイルオプションを指定する。
- ⑬ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑭ COBOLコンパイルにREPLACING 句, JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ⑮ JOB文を指定する。

11.5.2 変更ファイル作成用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑨ 入力元の変更前のコピーライブラリを指定する。
- ⑩ 入力元の変更後のコピーライブラリを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I/O選択で日本語名標辞書(順編成)又は, (VSAM)を選択していない場合は不要である。
- ⑭ 変更ファイルのデータセットを指定する。
- ⑯ 出力クラスを指定する。
- ⑰ リージョンサイズを指定する。
- ⑱ COBOLコンパイルオプションを指定する。
- ⑲ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑳ COBOLコンパイルにREPLACING 句, JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ㉒ JOB文を指定する。

11.5.3 データ領域定義出力用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑤ イメージライブラリを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑪ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I/O選択で日本語名標辞書(順編成)又は, (VSAM)を選択していない場合は不要である。
- ⑬ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は, DSN, VOL にスペースを指定する。

- ⑩ 出力クラスを指定する。
- ⑪ リージョンサイズを指定する。
- ⑫ COBOLコンパイルオプションを指定する。
- ⑬ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑭ COBOLコンパイルにREPLACING 句, JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ⑮ JOB文を指定する。

11.5.4 PP用データ領域定義出力用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑩ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I/O選択で日本語名標辞書(順編成)又は, (VSAM)を選択していない場合は不要である。
- ⑬ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は, DSN, VOL にスペースを指定する。
- ⑯ 出力クラスを指定する。
- ⑰ リージョンサイズを指定する。
- ⑱ COBOLコンパイルオプションを指定する。
- ⑲ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑳ COBOLコンパイルにREPLACING 句, JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ㉑ JOB文を指定する。

11.5.5 レコードレイアウト出力用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ, COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ GSPライブラリを指定する。ただし, 実行条件でKING使用またはKST使用を指定する場合は, KING(グラフ・図形出力)/JEFなどの必要プログラムのライブラリを指定する。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑤ イメージライブラリを指定する。
- ⑥ 文字パターンファイルを指定する。実行条件でKST使用又はT-GSP+KST使用を選択している場合は, DUMMYファイルを指定してもよい。

- ⑦ 漢字ストロークテーブルを指定する。実行条件でK I N G使用又は、T - G S P使用を選択している場合は、D U M M Yファイルを指定してもよい。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑪ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I / O選択で日本語名標辞書（順編成）又は、（V S A M）を選択していない場合は不要である。
- ⑬ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は、D S N , V O L にスペースを指定する。
- ⑭ 出力クラスを指定する。
- ⑰ リージョンサイズを指定する。
- ⑱ C O B O Lコンパイルオプションを指定する。
- ⑲ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑳ C O B O LコンパイルにREPLACING 句、JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ㉒ J O B文を指定する。

11.5.6 テストデータ記入表出力用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② C O B O L 85コンパイラ、C O B O L 85ライブラリ、A D J U S Tなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。
注) A D J U S Tロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑤ イメージライブラリを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑪ 入力元のコメントファイルを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I / O選択で日本語名標辞書（順編成）又は、（V S A M）を選択していない場合は不要である。
- ⑬ 保存ファイルのデータセットを指定する。保存ファイルを保存する必要がない場合は、D S N , V O L にスペースを指定する。
- ⑭ 出力クラスを指定する。
- ⑰ リージョンサイズを指定する。
- ⑱ C O B O Lコンパイルオプションを指定する。
- ⑲ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑳ C O B O LコンパイルにREPLACING 句、JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ㉑ 展開データ項目名又は、選択データ項目名を必要とする場合に指定する。
- ㉒ J O B文を指定する。

11.5.7 変更項目対比一覧出力用画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。

- ② COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑤ イメージライブラリを指定する。
- ⑨ 入力元の変更前のコピーライブラリを指定する。
- ⑩ 入力元の変更後のコピーライブラリを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I/O選択で日本語名標辞書（順編成）又は，（VSAM）を選択していない場合は不要である。
- ⑭ 変更ファイルのデータセットを指定する。変更ファイルを保存する必要がない場合は，DSN,VOL にスペースを指定する。
- ⑯ 出力クラスを指定する。
- ⑰ リージョンサイズを指定する。
- ⑱ COBOLコンパイルオプションを指定する。
- ⑲ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑳ COBOLコンパイルにREPLACING 句，JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ㉒ JOB文を指定する。

11.5.8 コメントファイル創成・更新の画面情報マスタファイルの修正

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ ユーザカタログを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑫ 日本語名標辞書を指定する。I/O選択で日本語名標辞書（順編成）又は，（VSAM）を選択していない場合は不要である。
- ⑮ 出力先のコメントファイルのデータセットを指定する。
- ⑯ 出力クラスを指定する。
- ⑰ リージョンサイズを指定する。
- ⑱ COBOLコンパイルオプションを指定する。
- ⑲ レコード名付加オプションを必要とする場合に指定する。
- ⑳ COBOLコンパイルにREPLACING 句，JOINING 句を必要とする場合に指定する。
- ㉒ JOB文を指定する。


```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
WRITE
WRITE
GOTO OWARI
END
CALL '&LM(JSMC8000)' '&PRJ,&UVOL,&SYSUID,&FCB,&PPFCB'
OWARI: +
FREE F(JSMHC090 LOAD JSMCD SYSOUT)

```

図11.15 画面起動用コマンドプロシジャ (続き)

- ① 会話形式で作成される実行 JCL の帳票ファイルの DD 文 (JSMHCLST , JSMHCMKJ , SYSPRINT) に付加する 6 LPI 用の用紙制御イメージ識別名を指定する。ただし、データ領域定義、レコードレイアウト、テストデータ記入表、変更項目対比一覧、コメントファイル創成・更新が指定された場合のみ付加される。(注)
- ② 会話形式で作成される実行 JCL の帳票ファイルの DD 文 (JSMHCLST , JSMHCMKJ , SYSPRINT) に付加する 8 LPI 用の用紙制御イメージ識別名を指定する。ただし、PP 用データ領域定義が指定された場合のみ付加される。(注)
- ③ 画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する。
- ④ 画面情報ユーザファイルのボリューム通し番号を指定する。
起動用 JCL ファイルも同じボリュームに作成される。ただし、起動用 JCL ファイルは、SUBMIT 後に削除される。
- ⑤ 画面情報マスタファイルのデータセットを指定する。
- ⑥ ロードモジュールライブラリを指定する。
- ⑦ 画面定義体のライブラリを指定する。
- ⑧ COBOL 85 ライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリになっているものは指定してはならない。
- ⑨ AP/EF ルーチンのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリになっているものは指定してはならない。
- ⑩ COBOL 85 コンパイラを指定する。ただし、認定ライブラリになっているものは指定してはならない。
- ⑪ ADJUST ルーチンのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリになっているものは指定してはならない。ADJUST ロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

注) 用紙制御イメージ識別名を省略した場合には、会話形式で作成される実行 JCL の帳票ファイルの DD 文に、用紙制御イメージ識別名は付加されない。

12. 使用上の注意事項

このソフトウェアの注意事項のうち、主要なものを説明する。

12.1 レコードレイアウト出力時の注意事項

レコードレイアウトはKING（グラフ・図形出力）/JEFを使用して図を出力している。したがってKING（グラフ・図形出力）/JEFの使用上の注意に準じて、次の注意事項がある。

ー 日本語ラインプリンタの第2FPDについて

日本語ラインプリンタに第2FPDがセットされていると、日本語ラインプリンタの文字発生機構に第2FPDの収容部分の文字がイニシャルローディングされてKING（グラフ・図形出力）/JEFで使用可能なエリアが狭まる。

その状態でレコードレイアウトを日本語ラインプリンタへ出力すると、日本語ラインプリンタが文字発生機構への二重登録又はメモリオーバで異常終了する可能性があるため、日本語ラインプリンタの第2FPDの使用を禁止している。

異常終了した場合は、第2FPDをはずして、日本語ラインプリンタの再起動が必要である。

また、MSPでJESライタの場合は、JES初期化文の&SELFUNCでKNGCLRパラメタを指定しなければならない。KNGCLRパラメタの詳細については、“OSIV/MSP 運用手引書 JES編”を参照されたい。

12.2 フォームオーバーレイの出力

このソフトウェアでは、COBOLの制御レコードを使用してフォームオーバーレイの焼付けを行っているので、MSPでJESライタの場合はJES初期化文の出力クラス特性の定義で、GRAPHパラメタを指定しなければならない。

GRAPHパラメタが指定されていない場合は、フォームオーバーレイは出力されない。GRAPHパラメタの詳細については、“OSIV/MSP 運用手引書 JES編”を参照されたい。

12.3 日本語名標辞書

日本語名標辞書のデータセット編成は順編成、またはVSAMで作成できるが、性能上VSAMが望ましい。

12.4 CLPでの出力

CLPの印刷モードには、NativeモードとNLPモードの2種類があるが、NLPと同様の印刷禁止領域の制御を行う為には、NLPモードを指定する。

13. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の手順を説明する。

13.1 データ領域定義出力・PP用データ領域定義出力の稼働確認

13.1.1 データ領域定義出力の稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'JCLITEM'を修正し、メンバTESTCOPYを入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照 → 11.4.3.1

- PARMパラメタに'ITELIST(DCT,DIRECT),HANYO,COMMENT'を指定する。
- SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し,@MOPT制御文にM='TESTCOPY'を指定する。
- SYSLIB DD文に、提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- JSMHCCOM DD文に、提供コメントファイルのデータセットを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書を指定する。
- JSMHCZOT DD文に、保存ファイルの出力先データセットを指定する。

b) 会話形式からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'の修正, 提供画面情報マスタファイルの修正を行った後, TSS 端末のREADY 状態より, EX '提供JCLファイル(CLIST)'を入力し, 画面を起動させる.

稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する. 説明以外の箇所は“11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.6

- '&MFILE' に提供画面情報マスタファイルのデータセットを指定する.
- 'FCB()' に6LPI用の用紙制御イメージ識別名を指定する.
- 'MVOL()' に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する.
- 'UVOL()' に画面情報ユーザファイル, 起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する.

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5 画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.5

説明以外の箇所は図13.1の会話形式を用いて修正する.

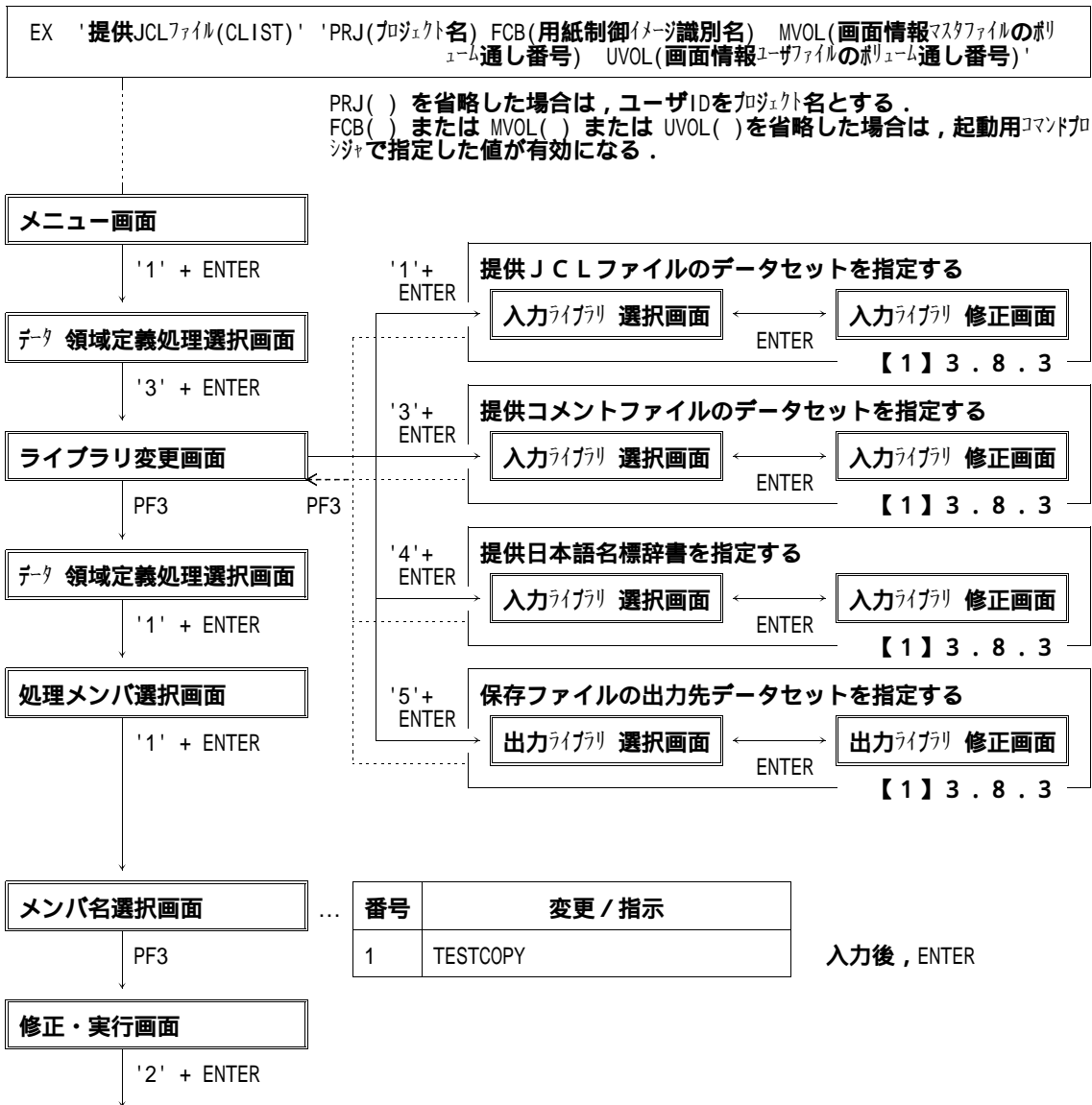


図13.1 データ領域定義出力の画面遷移図及びオペレーション例 (続く)

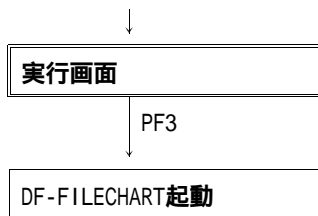


図13.1 データ領域定義出力の画面遷移図及びオペレーション例（続き）

c) 出力内容の説明

1) ヘッダ部

- レコード/コピー句の説明に '稼働確認用コピー句' と出力される。
- 出力区分に '定義順' と出力される。
- コピー句名 (A/N) に 'TESTCOPY' と出力される。
- コピー句名 (N) に 'テスト用コピー句' と出力される。
- レコード名 (A/N) に 'TESTRECORD01' と出力される。
- レコード名 (N) に 'テストレコード01' と出力される。
- ファイル名 (A/N) に 'TESTFILE01' と出力される。
- ファイル種別に 'DS' と出力される。
- ファイル名 (N) に 'テストファイル01' と出力される。
- ファイル編成に '順編成' と出力される。
- ファイル形式に 'FB' と出力される。
- レコード長に '11' と出力される。
- ブロック長に '1100' と出力される。

2) 詳細部

SEQ1の行の、レベル番号に '01' , データ項目名 (N) に 'テストレコード01' , データ項目名 (A/N) に 'TESTRECORD01' が出力される。バイト数に '11' , 相対位置に '1' が出力される。

SEQ2の行の、レベル番号に '03' , データ項目名 (N) に 'テストデータ01' , データ項目名 (A/N) に 'TESTDATA01' , 属性1 (P) に '9(1)' , 繰返し回数に '3' が出力される。バイト数に '1' , 相対位置に '1' が出力される。

SEQ3の行の、レベル番号に '03' , データ項目名 (N) に 'テストデータ02' , データ項目名 (A/N) に 'TESTDATA02' が出力される。バイト数に '8' , 相対位置に '4' が出力される。

SEQ4の行の、レベル番号に '05' , データ項目名 (N) に 'テストデータ03' , データ項目名 (A/N) に 'TESTDATA03' , 属性1 (P) に 'X(8)' が出力される。バイト数に '8' 相対位置に '4' が出力される。

詳細部の枠外の備考欄に入力されたデータセット名が出力される。

13.1.2 PP用データ領域定義出力の稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'JCLPPI'を修正し、メンバTESTCOPYを入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照 → 11.4.3.2

- － PARMパラメタに'PPITEM(DCT,DIRECT),HANYO,COMMENT'を指定する。
- － SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し,@MOPT制御文にM='TESTCOPY'を指定する。
- － SYSLIB DD文に、提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- － JSMHCCOM DD文に、提供コメントファイルのデータセットを指定する。
- － JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書を指定する。
- － JSMHCZOT DD文に、保存ファイルの出力先データセットを指定する。

b) 会話形式からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'の修正, 提供画面情報マスタファイルの修正を行った後, TSS 端末のREADY 状態より, EX '提供JCLファイル(CLIST)'を入力し, 画面を起動させる.

稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する. 説明以外の箇所は“11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.6

- '&MFILE' に提供画面情報マスタファイルのデータセットを指定する.
- 'PPFCB()' に8LPI用の用紙制御イメージ識別名を指定する.
- 'MVOL()' に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する.
- 'UVOL()' に画面情報ユーザファイル, 起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する.

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5 画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.5

説明以外の箇所は図13.2の会話形式を用いて修正する.

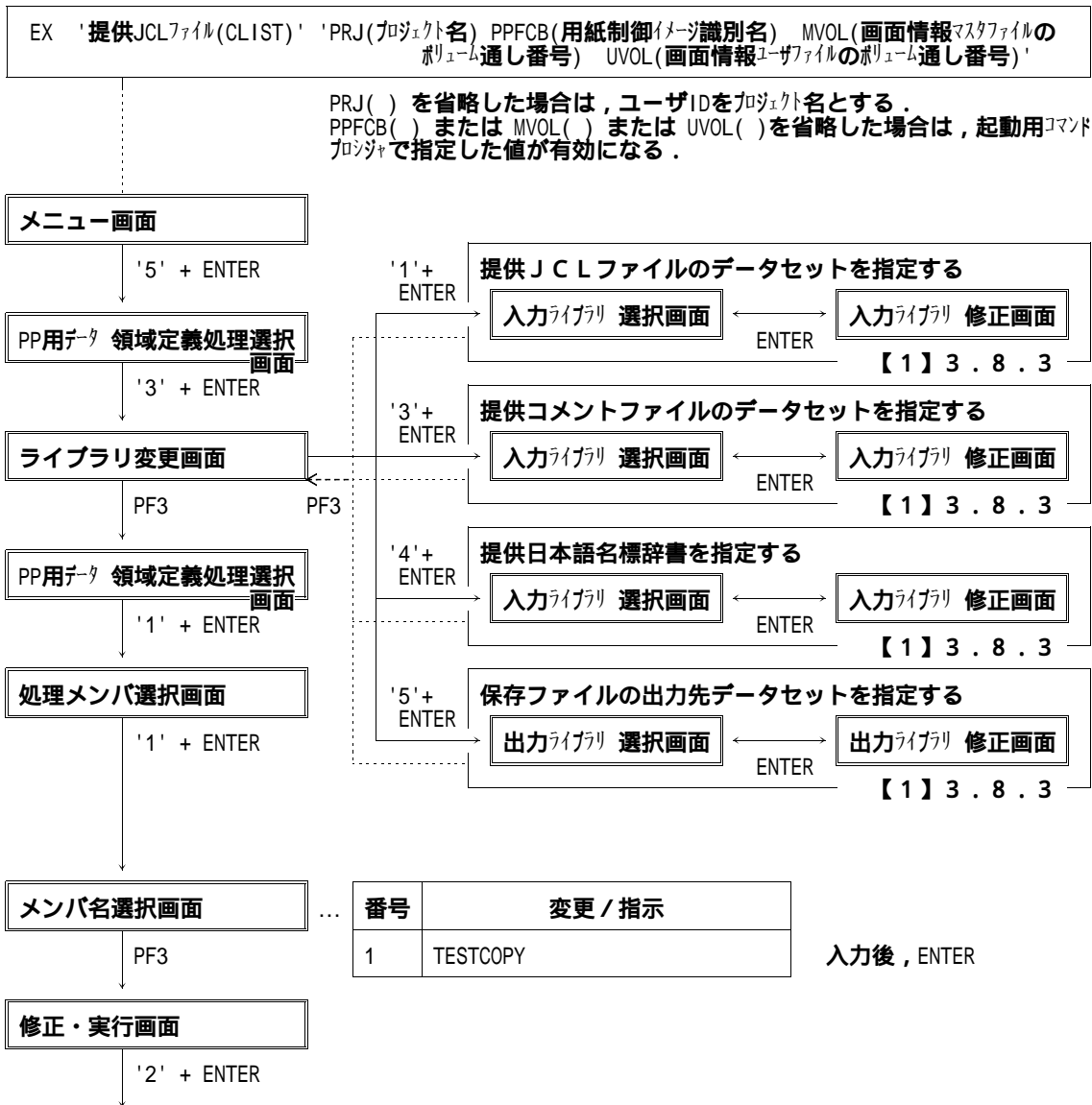


図13.2 PP用データ領域定義出力の画面遷移図及びオペレーション例(続く)

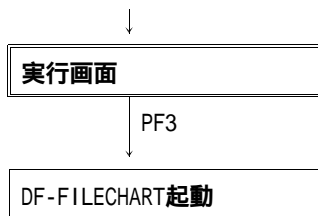


図13.2 P P用データ領域定義出力の画面遷移図及びオペレーション例（続き）

c) 出力内容の説明

1) ヘッダ部

レコード/メンバの説明に '稼働確認用コピー句' と出力される。

出力区分に '定義順' と出力される。

メンバ名に 'TESTCOPY', 'テスト用コピー句' と出力される。

レコード名に 'TESTRECORD01', 'テストレコード01' と出力される。

ファイル名に 'TESTFILE01', 'テストファイル01' と出力される。

ファイル名にファイル種別として 'DS' と出力される。

ファイル編成に '順' と出力される。

ファイル形式に 'FB' と出力される。

レコード長に '11' と出力される。

ブロック長に '1100' と出力される。

2) 詳細部

1段目の、レベル番号に '01', データ項目名に 'TESTRECORD01', 'テストレコード01' が出力される。バイト数に '11', 相対位置に '1' が出力される。

2段目の、レベル番号に '03', データ項目名に 'TESTDATA01', 'テストデータ01' 属性1(P)に '9(1)', 繰返し回数に '3' が出力される。バイト数に '1', 相対位置に '1' が出力される。

3段目の、レベル番号に '03', データ項目名に 'TESTDATA02', 'テストデータ02' が出力される。バイト数に '8', 相対位置に '4' が出力される。

4段目の、レベル番号に '05', データ項目名に 'TESTDATA03', 'テストデータ03' 属性1(P)に 'X(8)' が出力される。バイト数に '8', 相対位置に '4' が出力される。

詳細部の枠外の備考欄に入力されたデータセット名が出力される。

13.2 レコードレイアウト出力の稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'JCLLAY'を修正し、メンバTESTCOPYを入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照 → 11.4.4

- PARMパラメタに'LAYOUT (AN, DCT, DIRECT, GSP), HANYO, COMMENT'を指定する。
- SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し、@MOPT制御文にM='TESTCOPY'を指定する。
- SYSLIB DD文に、提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- JSMHCCOM DD文に、提供コメントファイルのデータセットを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書のデータセットを指定する。
- JSMHCZOT DD文に、全ドキュメント保存ファイルの出力先データセットを指定する。

b) 会話形式からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'の修正, 提供画面情報マスタファイルの修正を行った後, TSS 端末のREADY 状態より, EX '提供JCLファイル(CLIST)'を入力し, 画面を起動させる.

稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する. 説明以外の箇所は“11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.6

- '&MFILE' に提供画面情報マスタファイルのデータセットを指定する.
- 'FCB()' に6LP I用の用紙制御イメージ識別名を指定する.
- 'MVOL()' に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する.
- 'UVOL()' に画面情報ユーザファイル, 起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する.

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5 画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.5

説明以外の箇所は図13.3の会話形式を用いて修正する.

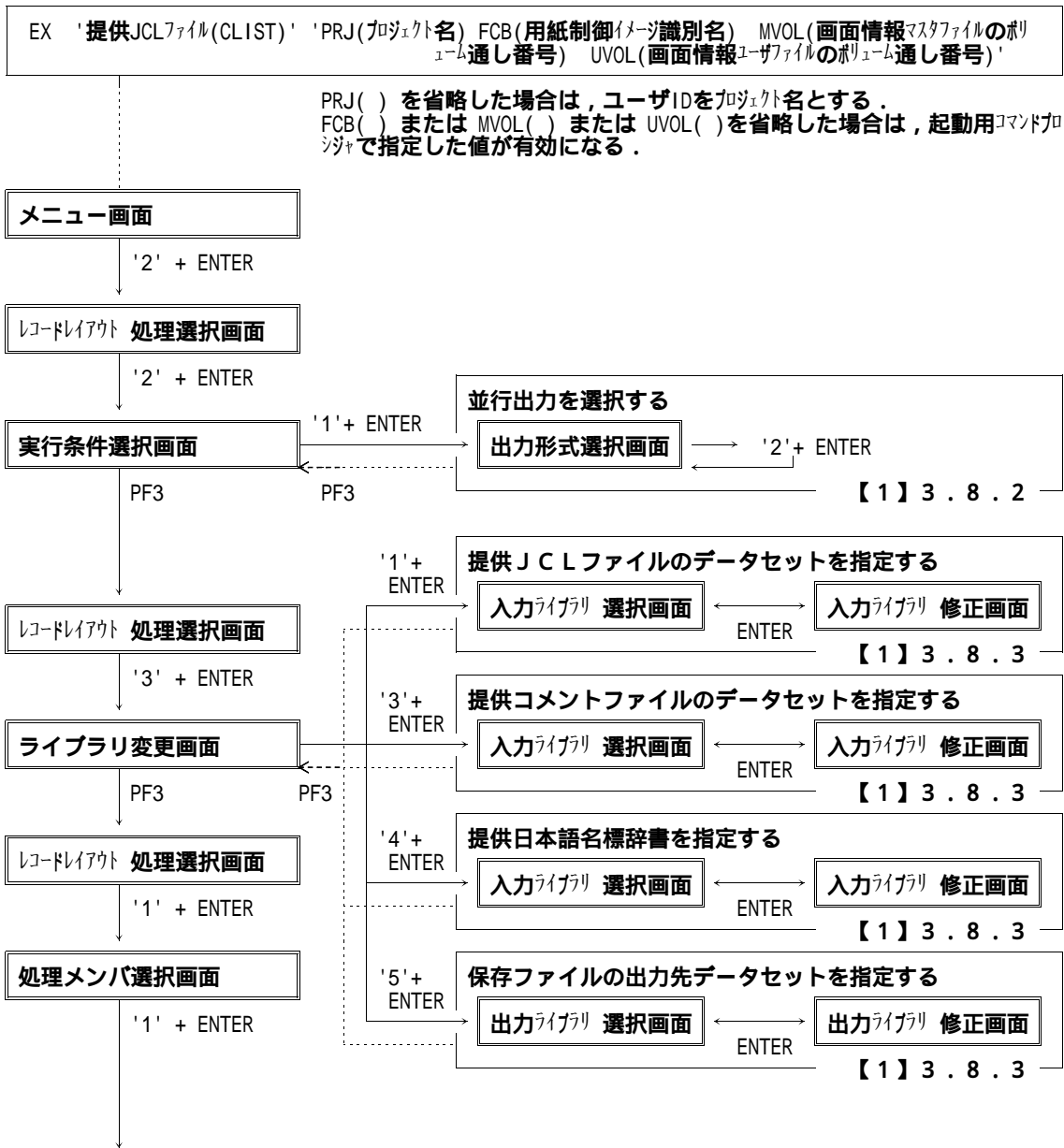


図13.3 レコードレイアウト出力の画面遷移図及びオペレーション例(続く)



図13.3 レコードレイアウト出力の画面遷移図及びオペレーション例(続き)

c) 出力内容の説明

1) ヘッダ部

出力区分に ' 並行 出力 ' と出力される .

その他のヘッダ部は , " 1 3 . 1 データ領域定義出力の稼働確認 b) 出力内容の説明 1) ヘッダ部 " の内容と同じである .

2) 詳細部

レイアウトの図の左上に相対位置 ' 1 ' が出力される .

レイアウトの図中のポジション 1 のデータ項目名に ' テストデータ 0 1 ' , P に ' 9 ' が出力される .

レイアウトの図中のポジション 2 のデータ項目名に ' 2 ' , P に ' 9 ' が出力される .

レイアウトの図中のポジション 3 のデータ項目名に ' 3 ' , P に ' 9 ' が出力される .

レイアウト図中のポジション 4 からデータ項目名に ' テストデータ 0 2 ' が横書きで出力され , その下に ' テストデータ 0 3 ' が出力され , P に ' X (8) ' が出力される .

詳細部の枠外の備考欄に入力されたデータセット名が出力される .

13.3 テストデータ記入表出力の稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'JCLTST'を修正し、メンバTESTCOPYを入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照 → 11.4.5

- PARMパラメタに'TESTDATA(DCT,DIRECT,FIXED),HANYO,COMMENT'を指定する。
- SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し,@ROLIST制御文にM=TESTCOPY,TESTDATA01,OCCURSを指定する。
- SYSLIB DD文に、提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- JSMHCCOM DD文に、提供コメントファイルのデータセットを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書のデータセットを指定する。
- JSMHCZOT DD文に、全ドキュメント保存ファイルの出力先データセットを指定する。

b) 会話形式からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'の修正, 提供画面情報マスタファイルの修正を行った後, TSS 端末のREADY 状態より, EX '提供JCLファイル(CLIST)'を入力し, 画面を起動させる.

稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する. 説明以外の箇所は“11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.6

- '&MFILE' に提供画面情報マスタファイルのデータセットを指定する.
- 'FCB()' に6LP I用の用紙制御イメージ識別名を指定する.
- 'MVOL()' に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する.
- 'UVOL()' に画面情報ユーザファイル, 起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する.

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5 画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.5

説明以外の箇所は図13.4の会話形式を用いて修正する.

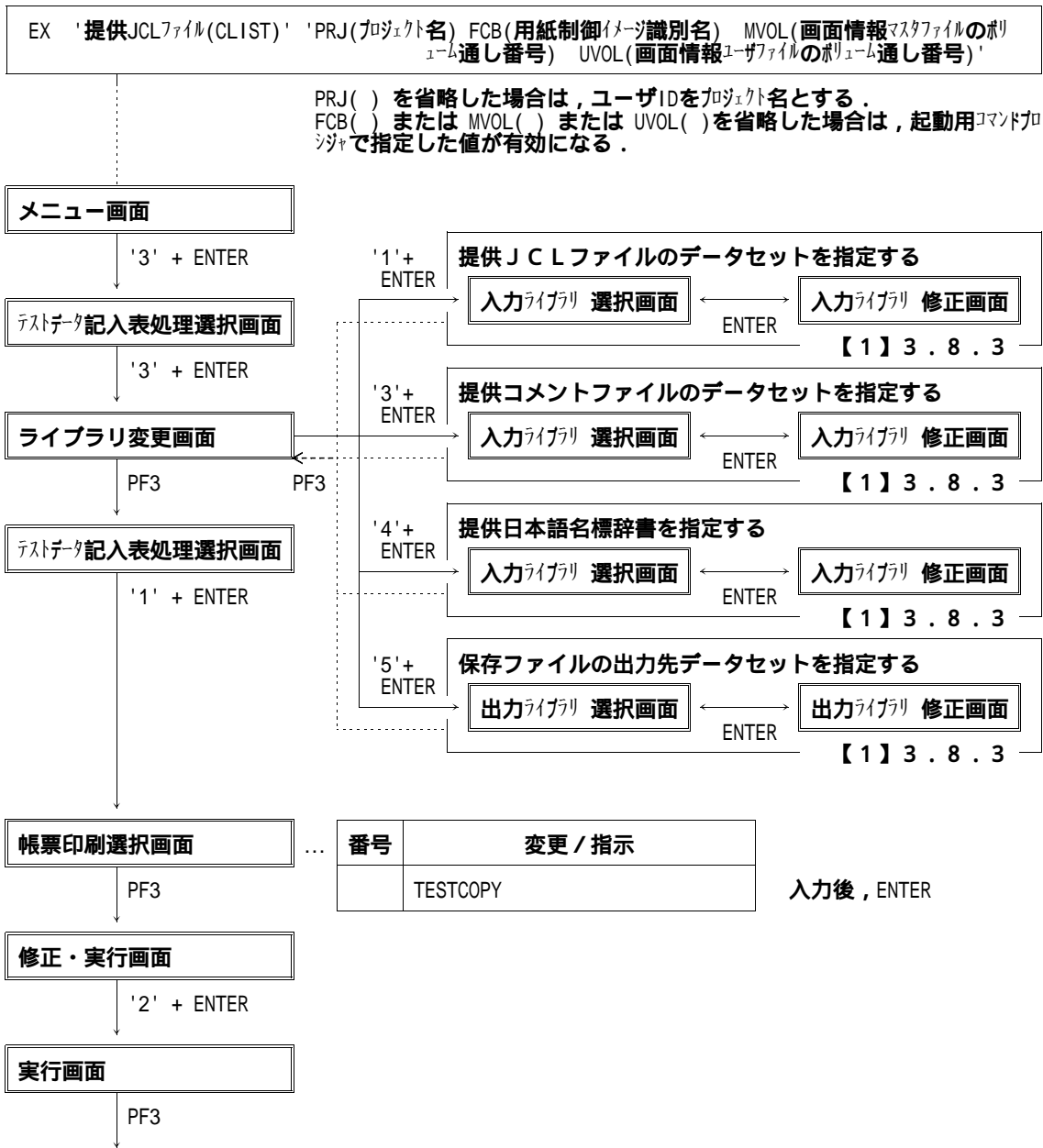


図13.4 テストデータ記入表出力の画面遷移図及びオペレーション例(続く)

図13.4 テストデータ記入表出力の画面遷移図及びオペレーション例(続き)

c) 出力内容の説明

1) ヘッダ部

- コピー句名(A/N)に 'TESTCOPY' と出力される。
- コピー句名(N)に 'テスト用コピー句' と出力される。
- レコード名(A/N)に 'TESTRECORD01' と出力される。
- レコード名(N)に 'テストレコード01' と出力される。
- ファイル名(A/N)に 'TESTFILE01' と出力される。
- ファイル種別に 'DS' と出力される。
- ファイル名(N)に 'テストファイル01' と出力される。
- ファイル編成に '順編成' と出力される。
- ファイル形式に 'FB' と出力される。
- レコード長に '11' と出力される。
- ブロック長に '1100' と出力される。

2) 詳細部

ジョブ制御文からの稼働手順では、以下の情報が出力される。

SEQ1の行の、レベル番号に '01' , データ項目名に 'TESTRECORD01' , 'テストレコード01' が出力される。

SEQ2の行の、レベル番号に '03' , データ項目名に 'TESTDATA01' , 'テストデータ01' , '(1)' が出力され、属性1(P)に '9(1)' , 繰返し回数に '3' が出力される。

SEQ3の行の、レベル番号に '03' , データ項目名に 'TESTDATA01' , 'テストデータ01' , '(2)' が出力され、属性1(P)に '9(1)' , 繰返し回数に '3' が出力される。

SEQ4の行の、レベル番号に '03' , データ項目名に 'TESTDATA01' , 'テストデータ01' , '(3)' が出力され、属性1(P)に '9(1)' , 繰返し回数に '3' が出力される。

SEQ5の行の、レベル番号に '03' , データ項目名に 'TESTDATA02' , 'テストデータ02' が出力される。

SEQ6の行の、レベル番号に '05' , データ項目名に 'TESTDATA03' , 'テストデータ03' が出力され、属性1(P)に 'X(8)' が出力される。

詳細部の枠外の備考欄に入力されたデータセット名が出力される。

会話形式からの稼働手順では、以下の情報が出力される。

SEQ1の行の、レベル番号に '01' , データ項目名に 'TESTRECORD01' , 'テストレコード01' が出力される。

SEQ2の行の、レベル番号に '03' , データ項目名に 'TESTDATA01' , 'テストデータ01' が出力され、属性1(P)に '9(1)' , 繰返し回数に '3' が出力される。

SEQ3の行の、レベル番号に '03' , データ項目名に 'TESTDATA02' , 'テストデータ02' が出力される。

SEQ 4の行の、レベル番号に ' 0 5 ' , データ項目名に ' TESTDATA 0 3 ' , ' テストデータ
0 3 ' が出力され、属性 1 (P) に ' X (8) ' が出力される。
詳細部の枠外の備考欄に入力されたデータセット名が出力される。

13.4 変更項目対比一覧の稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ`JCLHEN2`を修正し、メンバTESTCOPYと提供変更項目対比一覧稼働確認用コピー句を入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。参照 → 11.4.6

- PARMパラメタに`HENKO(DCT,DIRECT,ALL),HANYO`を指定する。
- SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し、@MOPT制御文にM=`TESTCOPY`を指定する。
- SYSLIB DD文に、提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- SYSLIB2 DD文に、提供変更項目対比一覧稼働確認用コピー句のデータセットを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書のデータセットを指定する。
- JSMHCHOT DD文に、変更項目対比一覧保存ファイルの出力先データセットを指定する。

b) 会話形式からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'の修正, 提供画面情報マスタファイルの修正を行った後, TSS 端末のREADY 状態より, EX '提供JCLファイル(CLIST)'を入力し, 画面を起動させる.

稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する. 説明以外の箇所は“11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.6

- '&MFILE' に提供画面情報マスタファイルのデータセットを指定する.
- 'FCB()' に6LPI用の用紙制御イメージ識別名を指定する.
- 'MVOL()' に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する.
- 'UVOL()' に画面情報ユーザファイル, 起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する.

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5 画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.5

説明以外の箇所は図13.5の会話形式を用いて修正する.

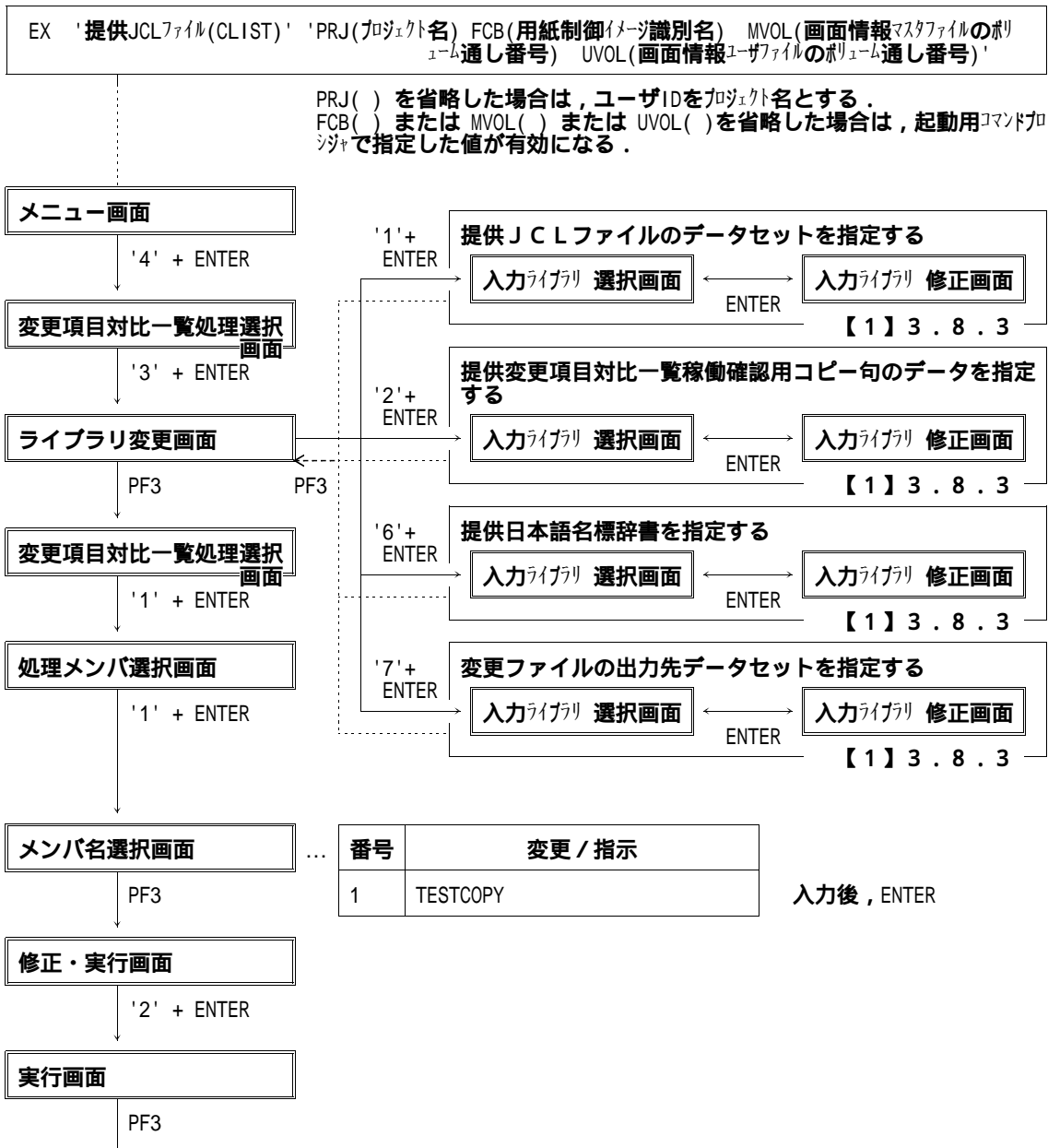


図13.5 変更項目対比一覧出力の画面遷移図及びオペレーション例(続く)

図13.5 変更項目対比一覧出力の画面遷移図及びオペレーション例(続き)

c) 出力内容の説明

1) ヘッダ部

コピー句名(A/N)に'TESTCOPY'と出力される。

変更前コピー句名(N)に'テスト用コピー句'と出力される。

変更後コピー句名(N)には何も出力されない。

変更前更新日に'92.12.4'と出力される。

変更後更新日に'95.3.31'と出力される。

変更前入力データセット名にジョブ制御文のSYSLIB DD文に指定したデータセット名が出力される。

変更後入力データセット名にジョブ制御文のSYSLIB2 DD文に指定したデータセット名が出力される。

2) 詳細部

SEQ1の行の、変更区分に'基本項目 属性変更'、'繰返し回数 変更'が出力される。

変更前のデータ項目名に'TESTDATA01'とその日本語名'テストデータ01'、変更前内容には'9(1)'と'OCCURS 3'、変更前相対位置には'1'が出力される。

変更後のデータ項目名には何も出力されず、変更後内容には'X(1)'と'OCCURS 4'、変更後相対位置には'1'が出力される。

13.5 コメントファイル創成・更新の稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'JCLCOM'を修正し、メンバTESTCOPYを入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照 → 11.4.7

- PARMパラメタに'COMFILE(CREATE),HANYO'を指定する。
- SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し、@MOPT制御文にM='TESTCOPY'を指定する。
- SYSLIB DD文に、提供JCLファイルのデータセットを指定する。
- JSMHCCOM DD文に、出力先のコメントファイルのデータセット名を指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書のデータセットを指定する。

b) 会話形式からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'の修正, 提供画面情報マスタファイルの修正を行った後, TSS 端末のREADY 状態より, EX '提供JCLファイル(CLIST)'を入力し, 画面を起動させる.

稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する. 説明以外の箇所は“11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.6

- '&MFILE' に提供画面情報マスタファイルのデータセットを指定する.
- 'FCB()' に6 LPI用の用紙制御イメージ識別名を指定する.
- 'MVOL()' に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する.
- 'UVOL()' に画面情報ユーザファイル, 起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する.

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5 画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である. 参照 → 11.5

説明以外の箇所は図13.6の会話形式を用いて修正する.

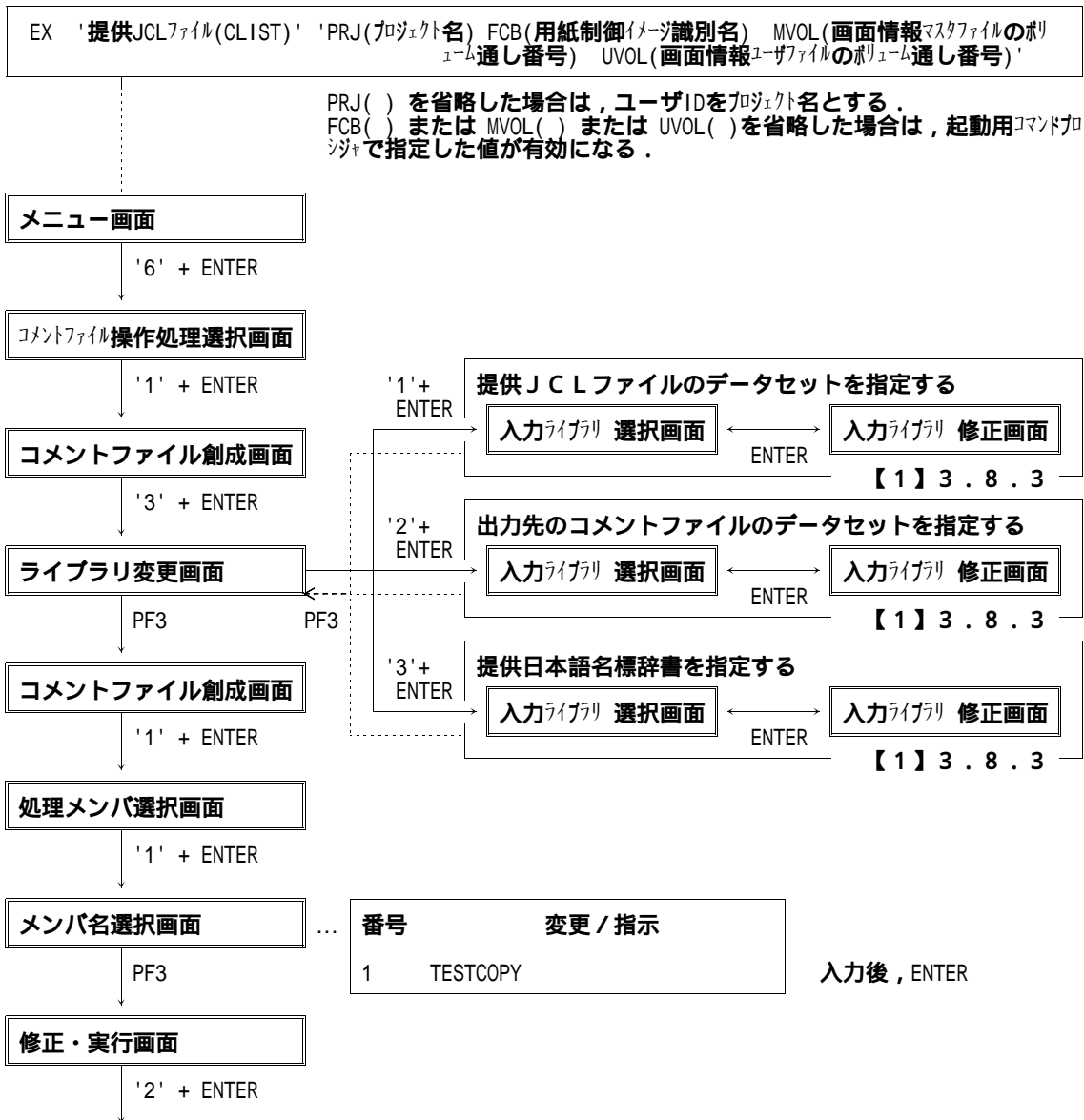


図13.6 コメントファイル作成の画面遷移図及びオペレーション例(続く)

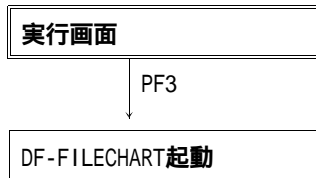


図13.6 コメントファイル創成の画面遷移図及びオペレーション例（続き）

c) 出力内容の説明

1) コメントファイル修正リスト

メンバ区分に ' 創成 ' が出力される .

メンバ名に ' TESTCOPY ' が出力される .

更新区分にはすべて ' 追 加 ' が出力される .

レコード識別には , ' NREC ' , ' NDAT ' , ' COMT ' , ' NDAT ' , ' COMT ' , ' NDAT ' , ' COMT ' の順に出力される .

データ項目名には , 提供 JCL ファイルのメンバ TESTCOPY 中のデータ項目名が定義された順に出力される .

データ項目名 (変換) には , ' テストレコード 0 1 ' , ' テストデータ 0 1 ' , ' テストデータ 0 2 ' , ' テストデータ 0 3 ' の順に出力される . ただし , 実行時オプション NOHANYO を指定した場合は何も出力されない .

コメントの欄には , 何も出力されない .

2) コメントファイル

作成されたコメントファイルの内容は , 提供コメントファイルと同一の内容である . ただし , コメントなどの利用者が定義する項目は空白である .

13.6 YPS構造体変換ユーティリティとデータ領域定義との連結ジョブ稼働確認

a) ジョブ制御文からの稼働手順

提供JCLファイル中のメンバ'JCL7001'を修正し、メンバTESTYPSを入力として実行する。

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照 → 11.4.8.2

- SYSYIN DD文に提供YPS構造体のデータセットを指定する。
- ELM(TESTYPS)を指定する。
- APOSTを指定する。
- NOANCONVを指定する。
- NOYPSSRCを指定する。
- PARMパラメタに'ITEMLIST(DCT,DIRECT),NOHANYO,COMMENT'を指定する。
- SYSIN制御文の@OPTIONS制御文にAPOSTを指定し,@MOPT制御文にM='TESTYPS'を指定する。
- JSMHCCOM DD文に提供コメントファイルのデータセットを指定する。

b) 出力内容の説明

1) ヘッダ部

レコード/コピー句の説明に '稼働確認用YPS構造体' と出力される。

出力区分に '定義順' と出力される。

コピー句名(A/N)に 'TESTYPS' と出力される。

コピー句名(N)に 'テスト用YPS構造体' と出力される。

レコード名(A/N)に空白が出力される。

レコード名(N)に 'テストレコード01' と出力される。

ファイル名(A/N)に空白が出力される。

ファイル種別に 'DS' と出力される。

ファイル名(N)に 'テストファイル01' と出力される。

ファイル編成に '順編成' と出力される。

ファイル形式に 'FB' と出力される。

レコード長に '11' と出力される。

ブロック長に '1100' と出力される。

2) 詳細部

SEQ1の行の、レベル番号に '01' , データ項目名(N)に 'テストレコード01' が出力される。
バイト数に '11' , 相対位置に '1' が出力される。

SEQ2の行の、レベル番号に '02' , データ項目名(N)に 'テストデータ01' , 属性1(P)
に '9(1)' , 繰返し回数に '3' が出力される。バイト数に '1' , 相対位置に '1' が出力される。

SEQ3の行の、レベル番号に '02' , データ項目名(N)に 'テストデータ02' が出力される。
バイト数に '8' , 相対位置に '4' が出力される。

SEQ4の行の、レベル番号に '03' , データ項目名(N)に 'テストデータ03' , 属性1(P)
に 'X(8)' が出力される。バイト数に '8' , 相対位置に '4' が出力される。

詳細部の枠外の備考欄に入力された一時データセット名が出力される。

14. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号11でロードモジュールが、格納番号12で実行ジョブ制御文を提供している。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、本ソフトウェアで使用されたい。

a) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図14.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。 【1】5.3.3

【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図14.1 フォーマットの変換方法

1) キー部

— 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

— 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

2) レコード数

レコード数に01が設定される。

3) 有効文字数

有効文字数に30が設定される。

4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

b) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図14.2に示す。

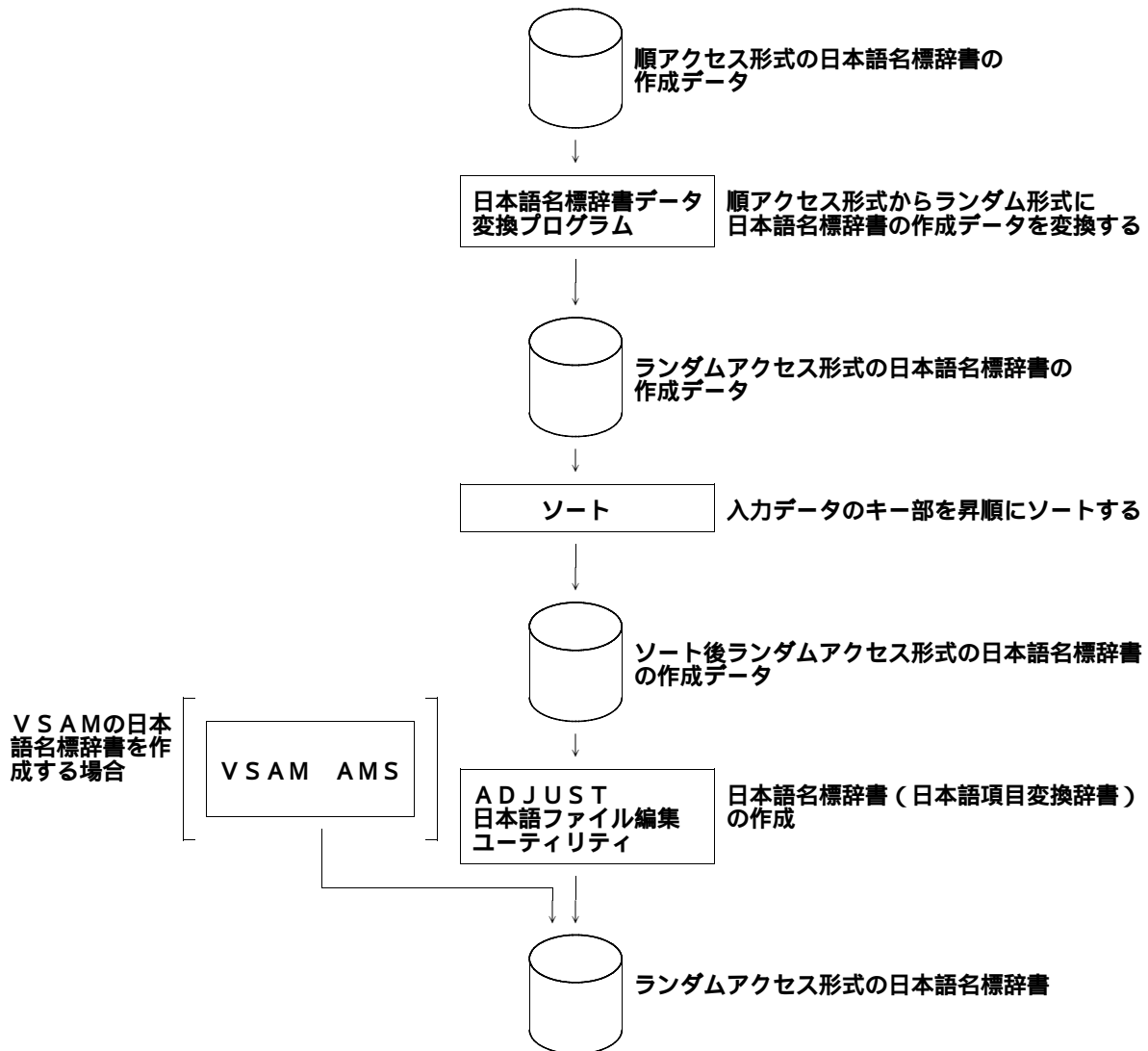


図14.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

c) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文の例を図14.3に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMCDICT'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01Y JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          日本語名標辞書          再創成          *
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD.DISP=SHR -----①
//          DD DSN=SYS1.C85.COBLIB.DISP=SHR -----②
//          DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB.DISP=SHR -----③
//JOB CAT DD DSN=USERXXX.DISP=SHR -----③
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=960K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEF CLUSTER -
(NAME(USER01.RAN.NDICT) - -----④
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS(30 0) -
IMBED -
VOLUMES(DASDXX) - -----⑤
TRK(5) - -----⑥
RECORDSIZE(124 124)) -
DATA -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) - -----⑦
INDEX -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX)) -----⑧
/*
/*
//*****
//**          日本語名標辞書 入力データ変換JCL          *
//**          順アクセス→ランダムアクセス          *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMCDICT
//JSMCJUN DD DSN=USER01.JUN.NDATA,DISP=SHR -----⑨
//JSMCRAN DD DSN=&&RAN,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240),
//          SPACE=(TRK,(10,10)) -----⑩
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*****
//**          ソート          *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&FCHART,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(TRK,(10,10)), -----⑩
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
/*
/*

```

図14.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例(続く)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//*****
//**      日本語ファイル編集ユーティリティ      *
//*****
//JAFE1    EXEC   PGM=JRQJAFE,REGION=1024K
//SYSPRINT DD    SYSOUT=*
//SYSLIST  DD     DUMMY
//SYSIN    DD     *
-  ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
-  FORMAT  SAME
-  CHGIN   IN(CHGLIB)
-  END
/*
//JAFLIB   DD    DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR      ⑩
//CHGLIB   DD    DSN=&&FCHART,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//

```

図14.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例(続き)

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85及びADJUSTのライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。注)ADJUSTは動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑤ VSAMの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のVSAMデータセットの割合で容量を指定する。
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑨ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのデータセットを指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割合で容量を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する。

VSAMの場合は、④のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが124バイトの固定長ブロック化形式のデータセットを指定する。

d) 注意事項

本プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- キー部のデータに重複しているものがあるなど入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、本プログラムはチェック及びエラー処理を行わないので、そのまま変換される。
- ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは28バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に29バイト以上のデータがある場合、29バイト以降を切り捨てて変換される。

15. 日本語名標辞書，コメントファイル→項目ディクショナリ変換プログラム

このプログラムは，Windows版のDFシリーズを使用している利用者のために提供するものであり，ホスト版のDFシリーズで使用しているランダムアクセス形式の日本語名標辞書，またはコメントファイルから項目ディクショナリに作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号11でロードモジュールが，格納番号12で実行ジョブ制御文を提供している。

なお，本ユーティリティは項目ディクショナリから日本語名標辞書，またはコメントファイルに作成データを還元することも可能であるため，Windows版のDFシリーズを使用時に新たにデータを追加した場合等にもホスト上の日本語名標辞書，またはコメントファイルを再作成することが可能である。

a) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に日本語名標辞書，またはコメントファイルの作成データがどのように変換されるかを図15.1に示し，各フィールドについて説明する。なお，本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については，適用マニュアルを参照されたい。 【1】5.3.3

【日本語名標辞書】

レコード長：36バイト～124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	2～60バイト	0～30バイト

【項目ディクショナリ】
レコード長：1024バイト

カテゴリID	英数字データ項目名	日本語データ項目名	データ項目作成日	データ項目作成時刻
2バイト	30バイト	60バイト	6バイト	6バイト

図15.1 フォーマットの変換方法（日本語名標辞書の場合）

1) カテゴリID

データ項目情報を示す'DM'が設定される。

2) 英数字データ項目名

変換前の項目キーの内容が，30バイトの項目に設定される。後ろ2バイトには空白が設定される。

3) 日本語データ項目名

変換前の日本語データ部がそのまま日本語データ項目名に設定される。日本語データ部が60バイト以下の場合には，後ろバイトにすべて空白が設定される。

4) データ項目作成日

本データの作成日が設定される。

5) データ項目作成時刻

本データの作成時刻が設定される。

b) 項目ディクショナリ作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、項目ディクショナリを作成する場合のジョブフローを図15.2および図15.3に示す。

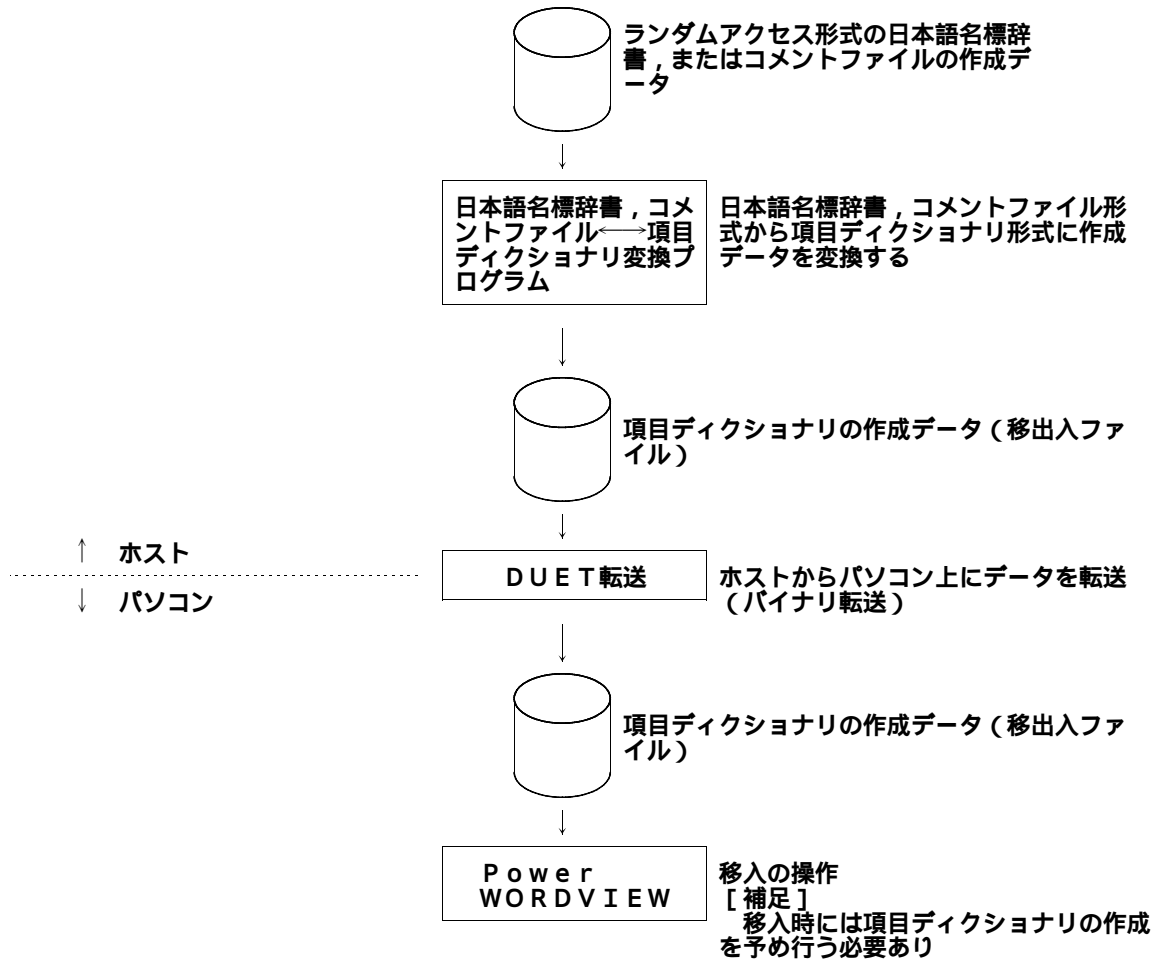


図15.2 項目ディクショナリへの移入操作

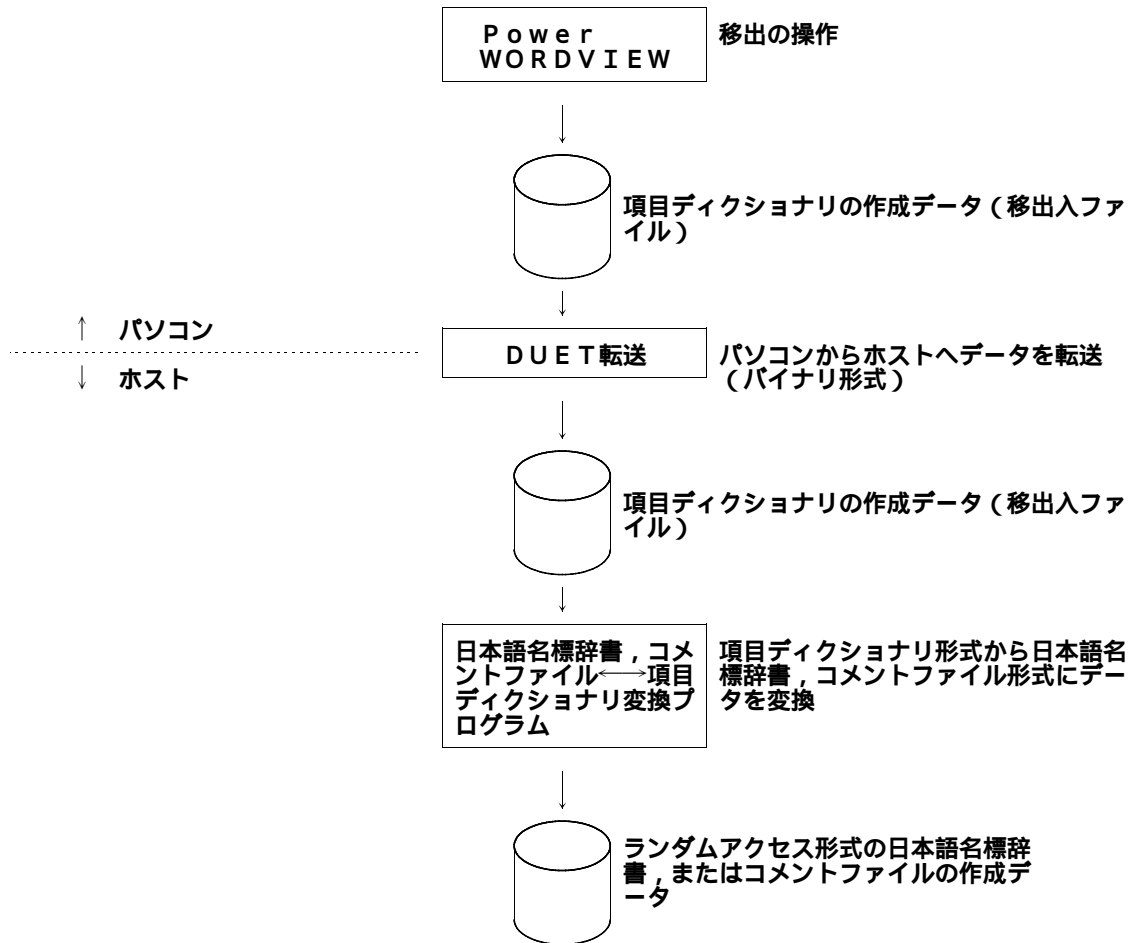


図15.3 項目ディクショナリからの移出操作

c) 実行ジョブ制御文

項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文を図15.4, 図15.5に示し説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名はそれぞれ'JSMCKN01', 'JSMCKC01'である。

下線部分は変更箇所であり, 図中の項番は説明中の項番に対応する。また, ジョブ名, 装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*   日本語名標辞書 ← 項目ディクショナリ移出入ファイル   *
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR -----①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR -----②
// DD DSN=SYS1.C85.LINKLIB,DISP=SHR -----
//JOB CAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR -----③
//KMD1 EXEC PGM=JSMCKN01,REGION=1024K,PARM='KDCT' -----④
//KMD1 EXEC PGM=JSMCKN01,REGION=1024K,PARM='NDCT' -----
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//JSMNDCTI DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,DISP=SHR -----⑤
//JSMKDCTO DD DSN=USER01.FCHART.ISYU,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), -----⑥
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE), -----⑦
// DCB=(RECFM=F,LRECL=1024,BLKSIZE=1024)
//*JSMKDCTI DD DSN=USER01.FCHART.ISYU,DISP=SHR -----⑧
//*JSMNDCTO DD DSN=USER01.FCHART.NDICT,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), -----⑨
//* VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE), -----⑩
//* DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//

```

図15.4 日本語名標辞書←項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文例

- ① 項目ディクショナリ作成用プログラムのロードモジュールが, 格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 日本語名標変換処理に関するパラメタを指定する。
日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合: 'KDCT'
項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合: 'NDCT'
- ⑤ 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合に, 入力となる日本語名標辞書の作成データ(順編成ファイル)のデータセットを指定する。
アクセス名: 'JSMNDCTI'
- ⑥ 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合に, 出力となる項目ディクショナリの作成データ(順編成ファイル)のデータセットを指定する。
アクセス名: 'JSMKDCTO'
- ⑦ 項目ディクショナリの作成データのボリューム通し番号, 割当て容量などを指定する。
- ⑧ 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合に, 入力となる項目ディクショナリの作成データ(順編成ファイル)のデータセットを指定する。
アクセス名: 'JSMKDCTI'
- ⑨ 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合に, 出力となる日本語名標辞書の作成データ(順編成ファイル)のデータセットを指定する。
アクセス名: 'JSMNDCTO'
- ⑩ 日本語名標辞書の作成データのボリューム通し番号, 割当て容量などを指定する。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB FCHART,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*   コメントファイル ←→ 項目ディクショナリ移出入ファイル   *
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR -----①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR -----②
// DD DSN=SYS1.C85.LINKLIB,DISP=SHR -----
//JOBCAT DD DSN=UCAT00,DISP=SHR -----③
//KMD1 EXEC PGM=JSMCKC01,REGION=1024K,PARM='KDCT' -----④
//*KMD1 EXEC PGM=JSMCKC01,REGION=1024K,PARM='CDCT' -----
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//JSMCDCTI DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT(TESTCOPY),DISP=SHR -----⑤
//JSMKDCTO DD DSN=USER01.FCHART.ISYU,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG), -----⑥
// VOL=SER=DASD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE), -----⑦
// DCB=(RECFM=F,LRECL=1024,BLKSIZE=1024)
//*JSMKDCTI DD DSN=USER01.FCHART.ISYU,DISP=SHR -----⑧
//*JSMCDCTO DD DSN=USER01.FCHART.COMMENT(TESTCOPY),DISP=SHR -----⑨
//

```

図15.5 コメントファイル←→項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文例

- ① 項目ディクショナリ作成用プログラムのロードモジュールが、格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ コメントファイル変換処理に関するパラメタを指定する。
 コメントファイルから項目ディクショナリを作成する場合：'KDCT'
 項目ディクショナリからコメントファイルを作成する場合：'CDCT'
- ⑤ コメントファイルから項目ディクショナリを作成する場合に、入力となるコメントファイルの作成データ（区分編成ファイル）のデータセット及びメンバを指定する。
 アクセス名：'JSMCDCTI'
- ⑥ コメントファイルから項目ディクショナリを作成する場合に、出力となる項目ディクショナリの作成データ（順編成ファイル）のデータセットを指定する。
 アクセス名：'JSMKDCTO'
- ⑦ 項目ディクショナリの作成データのボリューム通し番号、割当て容量などを指定する。
- ⑧ 項目ディクショナリからコメントファイルを作成する場合に、入力となる項目ディクショナリの作成データ（順編成ファイル）のデータセットを指定する。
 アクセス名：'JSMKDCTI'
- ⑨ 項目ディクショナリからコメントファイルを作成する場合に、出力となるコメントファイルの作成データ（区分編成ファイル）のデータセット及びメンバを指定する。
 アクセス名：'JSMCDCTO'

d) 制限事項

本プログラムの使用上の制限事項を説明する。

- － 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合、扱える日本語名標辞書の形式は、ランダムアクセス形式のもののみである。
- － 日本語名標辞書のファイル編成は、入出力共に順編成ファイルのみ扱える。
- － 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合、日本語名標辞書の読み部は出力されない。また、項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合、読み部には空白のみ出力される。
- － 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合は新規作成のみ可能であり、またその場合は124バイトの固定長で作成される。
- － コメントファイルのデータ項目コメントレコードのデータ項目コメントには、同一レコード内であるか否かに関わらず、N、A/Nが混在してはならない。
- － 一項目名に対するデータ項目コメントレコードのデータ項目コメントのレコード数は、入出力共に最大10レコードまでである。ただし、データ項目コメントの内容がA/Nの場合、10レコード目のコメントの内容は10バイト目までしか扱えない。
- － 項目ディクショナリからコメントファイルを作成する場合には、コピー句名情報レコード、コピー句説明レコード、ファイル名レコード、ファイル名情報レコード、及びレコード名情報に情報は出力されない。

16. 再定義情報削除プログラム

このプログラムは、レコードレイアウトのREDEFINES項目の出力を抑制するために、保存ファイルから再定義情報を削除する。なお、REDEFINES項目の出力抑制についての詳細は適用マニュアルを参照されたい。 【1】付録2

再定義情報削除プログラムのジョブ制御文を図16.1に示し説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMCRED1'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R,NOTIFY=USER01
//*****
//*      再定義情報削除プログラム      *
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR -----①
//      DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB,DISP=SHR -----②
//      DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR -----
//JOB CAT DD DSN=USER01.UCAT,DISP=SHR -----③
//RED1 EXEC PGM=JSMCRED1,REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//JSMHCZIN DD DSN=USER01.JSMHCZIN.DATA,DISP=SHR -----④
//JSMHCZOT DD DSN=USER01.JSMHCZOT.DATA,DISP=(NEW,CATLG,DELETE), -----⑤
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),UNIT=SYSDA, -----⑥
//      DCB=(RECFM=FB,LRECL=540,BLKSIZE=5400)
//

```

図16.1 再定義情報削除プログラムのジョブ制御文例

- ① 再定義情報削除プログラムのロードモジュールが、格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 入力用の保存ファイルのデータセットを指定する。
- ⑤ 出力用の保存ファイルのデータセットを指定する。
- ⑥ 出力用の保存ファイルのボリューム通し番号、割当て容量などを指定する。

17. 日本語名標辞書作成支援プログラム

このプログラムは、当ソフトウェアで使用する日本語名標辞書の作成を支援するプログラムである。なお、日本語名標辞書作成支援プログラムの詳細は、適用マニュアルを参照されたい。 参照 → 19

17.1 日本語名標辞書作成支援プログラム1

データ領域定義のCSV形式ファイルを入力として、日本語変換の対象となる単語（英数字）を出力する。日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文の例を図17.1に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMCDSS1'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム1 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMCDSS1,REGION=1024K,
// PARM='HYP1,ISL=8,IPL=0,UNIQUE'
//JSMHCCSV DD DSN=USER01.ITEM.CSV,DISP=SHR _____ ④
//JSMHCWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE), _____ ⑤
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=133,BLKSIZE=3196) _____ ⑥
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//DMPYPT DD DUMMY
//

```

図17.1 日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書作成支援プログラム1のロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL85のライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 入力となるデータ領域定義のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑤ 出力となるデータ領域定義単語ファイルを指定する。
- ⑥ 出力となるデータ領域定義単語ファイルの割当て容量を指定する。

17.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2

データ領域定義単語ファイルを入力として、日本語名標辞書を作成する。

日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文の例を図17.2に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMCDSS2'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書をV SAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム2 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMCDSS2,REGION=1024K
//JSMHCWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=SHR _____ ④
//JSMHCRAN DD DSN=&&FCHART,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240) _____ ⑤
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//*****
//* DEFINE CLUSTER *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
// COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
(NAME(USER01.RAN.NDICT)) - _____ ⑥
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS(30 0) -
IMBED -
VOLUMES(DASDXX) - _____ ⑦
TRK(5) - _____ ⑧
RECORDSIZE(124 124)) -
DATA -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) - _____ ⑨
INDEX -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX)) _____ ⑩
/*
//*****
//** 日本語ファイル編集ユーティリティ *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE,REGION=1024K,
// COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR _____ ⑪
//CHGLIB DD DSN=&&FCHART,DISP=(OLD,DELETE)
//

```

図17.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書作成支援プログラム2のロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL85及びADJUSTのライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。注)ADJUSTは動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 入力となるデータ領域定義単語ファイルを指定する。
- ⑤ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑦ V S A Mの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のV S A Mデータセットの割当て容量を指定する。
- ⑨ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する。

V S A Mの場合は、⑥のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが1 2 4バイトの固定長レコード形式のデータセットを指定する。

18. 注意事項

会話形式でのDF-FILECHARTの起動では、起動用JCLファイルを画面情報ユーザファイルと同一のボリューム通し番号に作成するため、そのボリュームには空き領域が1トラック以上必要である。

また、起動用JCLファイル名と同一名のデータセットが存在する場合、そのデータセットは削除される。

- 起動用JCLファイル名: ' &ユーザID.FCHART.KDJCL.CNTL '

マニュアル名称		マニュアルコード
OS IV	SIMPLIA/DF-FILECHART 解説書	J1M0-9050-02

表19.1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
1	13	2.1.1 機能	<p>データ領域定義は、コピー句又は保存ファイルを入力して、コピー句の内容をレコード又は独立項目単位に表形式で出力したドキュメントである。</p> <p>このドキュメントは、日本語ラインプリンタ(NLP)、カット紙ラインプリンタ(CLP)、及びページプリンタに出力することができる。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次出力 	<p>データ領域定義は、コピー句又は保存ファイルを入力して、コピー句の内容をレコード又は独立項目単位に表形式で出力したドキュメントである。</p> <p>このドキュメントは、日本語ラインプリンタ(NLP)、カット紙ラインプリンタ(CLP)、及びページプリンタに出力することができる。</p> <p>なお、CSV形式ファイルに出力することもできる。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次出力 CSV形式ファイル出力
2	14	2.1.1 機能	(記述追加)	J) CSV形式ファイル出力 データ領域定義の情報を、コンマで区切ってファイルに出力する。 CSV形式ファイル出力の詳細については“2.1.2 出力形式”を参照されたい。
3	17	2.1.2 出力形式	<p>㊸ データ項目にOCCURS句の指定がある場合に、その反復回数が出力される。</p> <p>ただし、OCCURS句の上限値と下限値の指定がある場合、及び反復回数に記号定数の指定がある場合は“*”が出力され、その内容は㊸の欄に出力される。</p>	<p>㊸ データ項目にOCCURS句の指定がある場合に、その反復回数が出力される。</p> <p>ただし、OCCURS句の上限値と下限値の指定がある場合、及び反復回数に記号定数の指定がある場合は“##”が出力され、その内容は㊸の欄に出力される。</p>
4	18	2.1.2 出力形式 図2.3-1	データ領域定義CSV形式ファイルの出力例を追加 参照 → 19.1	
5	33	2.3.1 機能	<p>テストデータ記入表は、コピー句の内容に合わせたレコード又は独立項目ごとのテストデータ記入表用ワークシートである。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次出力 	<p>テストデータ記入表は、コピー句の内容に合わせたレコード又は独立項目ごとのテストデータ記入表用ワークシートである。</p> <p>なお、CSV形式ファイルに出力することもできる。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次出力 CSV形式ファイル出力
6	35	2.3.1 機能	(記述追加)	J) CSV形式ファイル出力 テストデータ記入表の情報を、コンマで区切ってファイルに出力する。 CSV形式ファイル出力の詳細については“2.3.2 出力形式”を参照されたい。
7	40	2.3.2 出力形式 図2.24-1	テストデータ記入表CSV形式ファイルの出力例を追加 参照 → 19.2	

表19.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
8	92	2.8 制限事項	DF-FILECHARTを使用する上での制限事項について、以下の事項を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> - 入力コピー句に関する制限事項 - コメントファイルに関する制限事項 - 入力データセット名の出力に関する制限事項 - 定数制限 	DF-FILECHARTを使用する上での制限事項について、以下の事項を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> - 入力コピー句に関する制限事項 - コメントファイルに関する制限事項 - 入力データセット名の出力に関する制限事項 - CSV形式ファイルに関する制限事項 - 定数制限
9	92	2.8 制限事項	1) 入力コピー句に関する制限事項 <ul style="list-style-type: none"> - 反復回数が記号定数のデータ項目を持つコピー句 	1) 入力コピー句に関する制限事項 <ul style="list-style-type: none"> - 反復回数が記号定数のデータ項目を持つコピー句 - コピー句解析オプションにおいてFDオペランドを指す場合、入れ子のコピー句を入力することはできない。
10	92	2.8 制限事項	(記述追加)	3-1) CSV形式ファイルに関する制限事項 会話形式では、CSV形式ファイルへの出力はできない。
11	221	4.1.1 出力手順 図4.4 データ領域定義の入出力構成	(記述追加)	(記述内容の説明) 出力としてデータ領域定義CSV形式ファイル(JSMHCCSV)を追加 データ領域定義(JSMHCLST)と選択になる。 入出力として作業用コピーライブラリ(JSMHC120)を追加 オプションにより必要となる。
12	223	4.1.2 実行時オプション 表4.2 データ領域定義出力及び保存ファイル作成のオプション	データ領域定義CSV形式ファイルに関するオプションを追加 参照 → 19.3	
13	225	4.1.2 実行時オプション	データ領域定義CSV形式ファイルに関するオプションの説明を追加 参照 → 19.4	
14	226	4.1.3 必要なDD文 表4.3 データ領域定義出力及び保存ファイル作成に必要なDD文	DD名: IMAGELIBのブロック長を変更 DD名: JOBLIB又はSTEPCHAT をDD名: JOBCAT又はSTEPCHAT に修正 データ領域定義CSV形式ファイルに関するDD文の説明を追加 作業用コピーライブラリに関するDD文の説明を追加 参照 → 19.5	
15	235	4.2.1 出力手順 図4.9 レコードレイアウトの入出力構成	(記述追加)	(記述内容の説明) 入出力として作業用コピーライブラリ(JSMHC120)を追加 オプションにより必要となる。
16	240	4.2.3 必要なDD文 表4.6 レコードレイアウト出力及び保存ファイル作成に必要なDD文	DD名: IMAGELIBのブロック長を変更 作業用コピーライブラリに関するDD文の説明を追加 参照 → 19.6	

表19.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)								
17	249	4.3.1 出力手順 図4.14 テストデータ記入表の入出力構成	(記述追加)	(記述内容の説明) 出力としてテストデータ記入表CSV形式ファイル(JSMHCCSV)を追加 テストデータ記入表(JSMHCLST)と選択になる。 入出力として作業用コピーライブラリ(JSMHC120)を追加 オプションにより必要となる。								
18	251	4.3.2 実行時オプション 表4.8 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成のオプション	テストデータ記入表CSV形式ファイルに関するオプションを追加 参照 → 19.7									
19	252	4.3.2 実行時オプション	テストデータ記入表CSV形式ファイルに関するオプションの説明を追加 参照 → 19.8									
20	254	4.3.3 必要なDD文 表4.9 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成に必要なDD文	DD名: IMAGELIBのブロック長を変更 テストデータ記入表CSV形式ファイルに関するDD文の説明を追加 作業用コピーライブラリに関するDD文の説明を追加 参照 → 19.9									
21	263	4.4.1 出力手順 図4.19 変更項目対比一覧の入出力構成	(記述追加)	(記述内容の説明) 入出力として作業用コピーライブラリ(JSMHC120, JSMHC130)を追加 オプションにより必要となる。								
22	267	4.4.3 必要なDD文 表4.12 変更項目対比一覧出力及び保存ファイル作成に必要なDD文	DD名: IMAGELIBのブロック長を変更 DD名: JSMHCHINのブロック長の説明を修正 DD名: JSMHCHOTの説明を追加 DD名: JSMHCCOMの説明を削除 作業用コピーライブラリに関するDD文の説明を追加 参照 → 19.10									
23	276	4.5.1 ファイルの操作 図4.24 コメントファイル操作の入出力構成図	(記述追加)	(記述内容の説明) 入出力として作業用コピーライブラリ(JSMHC120)を追加 オプションにより必要となる。								
24	278	4.5.2 実行時オプション 表4.14 コメントファイル操作のオプション	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">コメントキーワード</td> <td style="width: 10px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">COMFILE</td> <td></td> </tr> </table>	コメントキーワード		COMFILE		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">コメントキーワード</td> <td style="width: 10px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">COMFILE</td> <td></td> </tr> </table>	コメントキーワード		COMFILE	
コメントキーワード												
COMFILE												
コメントキーワード												
COMFILE												
25	282	4.5.3 必要なDD文 表4.15 コメントファイル操作に必要なDD文	作業用コピーライブラリに関するDD文の説明を追加 参照 → 19.11									
26	291	4.7.1 コピー句解析オプション 表4.19 @OPTIONS制御文の記述形式	FD句有無の指定に関するオペランドを追加 参照 → 19.12									
27	293	4.7.1 コピー句解析オプション	FD句有無の指定に関するオペランドの説明を追加 参照 → 19.13									
28	319 320 323 324	5.3.3 日本語名 標辞書	(表記の変更)	(変更内容の説明) 変更前: ユティリティ 変更後: ユーティリティ								

表19.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
29	348	5.6 DASD容量の見積り方法 表5.11 DASD容量見積り式	データ領域定義CSV形式ファイルの説明を追加 テストデータ記入表CSV形式ファイルの説明を追加 作業用コピーライブラリの説明を追加 ディレクトリブロック数の説明を追加	参照 → 19.14
30	364 374 399	6.2 診断メッセージ	JSMCC058-S, JSMCC099-E, JSMCD001-Eの説明を変更 JSMCC419-S, JSMCC420-S, JSMCC421-S, JSMCC422-S, JSMCC423-S の説明を追加	参照 → 19.15
31	456	付1.1 実行時オプション 付表1.2 キーワードオプションの一覧	キーワードオプション CSV/NOCSVの説明を追加	参照 → 19.16
32	461	付1.2 SYSIN 制御文 付表1.5 オペランドの一覧	コピー句解析オプションにFD/NOFDの説明を追加	参照 → 19.17
33	478	付4.2 ユーザリテンションへのプロフィール通知 付図4.3 JSMCPR F1の呼出形式とパラメタの内容と説明	リターンコードの内容を変更 日付, 時刻の出力形式の説明を追加	参照 → 19.18
35	—	付録5 日本語名標辞書作成支援プログラム	日本語名標辞書作成支援プログラムの説明を追加	参照 → 19.19

19.1 図2.3-1 データ領域定義CSV 形式ファイルの出力例

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

c) CSV 形式ファイルの出力形式

CSV 形式ファイルの出力例を図2.3-1 に示し、その内容を説明する。なお、図中の項番と説明中の項番は対応している。

```

①***** データ領域定義 *****,,,,,2013/3/14 ↓
②コピー句名,,コピー句名A/N, コピー句名N, 入力データセット名, メンバ更新日, レコード
ノコピー句の説明, 出力区分 ↓
③CHACZAN1,,CHACZAN1, 発注残レコード1,USER.FCPY.LIB,2010/5/8,発注残受入情報の編集領域,
定義順 ↓
④コピー句名, レコード名, レコード名A/N, レコード名N, 属性1, 属性2, ファイル名A/N
N, ファイル名N, 種別, ファイル編成, レコード形式, レコード長, ブロック長 ↓
⑤CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,C01-HAC-ZAN-REC, 発注残レコード,GLOBAL,EXTERNAL,'USR.DATA.LIB
',購買ファイルのコピー句,DS,区分編成,FB,80,6400 ↓
⑥コピー句名,レコード名,SEQ,レベル番号,データ項目名(定義),データ項目名(日本語
変換),属性1(P),属性2(U),繰返し回数,バイト数,相対位置,初期値・再定義等 ↓
⑦CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,1,01,C01-HAC-ZAN-REC,発注残レコード,,,,,80,1,EXTERNAL,GLOBAL ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,2,02,C01-ODR-NO, オータNO,9(8),,,8,1, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,3,02,C01-EDA-BAN, 枝番,9(2),,,2,9, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,4,02,C01-ZU-BAN, 図番,X(10),,,10,11, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,5,02,C01-SOZAI-KBN, 素材区分,X(1),,,1,21, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,6,02,C01-KAKO-KBN, 加工区分,9(1),,,1,22,CMT= 0 : 素材 : 完
了 ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,7,02,C01-ODR-JOK-KBN, オータ状況区分,X(1),,,1,23, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,8,02,C01-CHUMN-SUMI-FLG, 注文済フラグ,X(1),,,1,24,CMT= 0 : 予
定 : 完了 ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,9,02,C01-HEN-SHU, 変更種別,X(1),,,1,25, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,10,02,C01-TNTS, 担当者,,5,5,26, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,11,03,C01-SHOZ, 所属,,5,1,26, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,12,04,C01-TNTS-KBN, 担当者区分,9(1),,,1,26, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,13,02, 変更前情報,,,,,26,51, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,14,03,C01-HEN-MAE-NONYU-BA-CODE, 変更前納入場所コード,X(1),,,
1,51, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,15,03,C01-HEN-MAE-NOK, 変更前納期,9(8),COMP-3,,5,52, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,16,03,C01-HEN-MAE-SURYO, 変更前数量,S9(8),COMP-3,,5,57, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,17,03,C01-HEN-MAE-TAN, 変更前単価,S9(8)V9(2),COMP-3,,6,62, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,18,03,C01-HEN-MAE-KBN, 変更前区分,,,,,1,68, ↓
CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,19,04,C01-HEN-MAE-KR1-TAN-KBN, 変更前仮単価区分,1(1),BIT,,1,6
8, ↓

```

注) “ ↓ ” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.3-1 データ領域定義CSV 形式ファイルの出力例

[図2.3-1 の説明]

① CSV 形式ファイルのヘッダ情報 1 (ツールヘッダ)

CSV 形式ファイルの種類 (データ領域定義) と CSV 形式ファイルの作成日が出力される。

② CSV 形式ファイルのヘッダ情報 2 (コピー句見出し)

③のコピー句情報に対するヘッダ情報が出力される。

③ CSV 形式ファイルのコピー句情報 (コピー句データ)

左側からフィールド単位に出力内容を説明する。

1) コピー句名

コピー句のメンバ名が出力される。

2) (null)

何も出力されない。

- 3) コピー句名 A / N
コピー句のメンバ名が出力される。
 - 4) コピー句名 N
日本語出力又はコメント出力した場合、日本語名標辞書又はコメントファイルから変換された 3) に対応するコピー句の日本語が出力される。
 - 5) 入力データセット名
入力コピー句のデータセット名が出力される。
入力元のコピー句が区分編成ファイルで、データセットを連結している場合にも該当のデータセット名が出力される。
ただし、保存ファイルが入力された場合、または該当データセットが65番目以降に連結されている場合には出力されない。
 - 6) メンバ更新日
コピー句メンバの最終更新日付が出力される。
ただし、コピーライブラリが区分編成ファイルでPFD 又はAP/DF のEDITがコピー句のメンバに対して更新履歴を保持していない場合は、何も出力されない。
 - 7) レコード/コピー句名の説明
コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したレコード/コピー句の説明が出力される。
 - 8) 出力区分
データ項目の出力順が出力される。定義順出力の場合“定義順”，英数字名順出力の場合“英数字順”，日本語名順出力の場合“日本語順” が出力される。
- ④ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3 (レコード見出し)
⑤のレコード情報に対するヘッダ情報が出力される。
- ⑤ CSV 形式ファイルのレコード情報 (レコードデータ)
左側からフィールド単位に出力内容を説明する。
- 1) コピー句名
コピー句のメンバ名が出力される。
 - 2) レコード名
レコード又は独立項目の定義名が出力される。コピー句中にレコード又は独立項目がない場合は、コピー句名又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が出力される。
 - 3) レコード名 A / N
レコード又は独立項目の英数字名が出力される。コピー句中にレコード又は独立項目がない場合は、コピー句名又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が出力される。
また、コピー句中のレコード名、独立項目名は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が日本語の場合は、何も出力されない。

4) レコード名N

日本語出力又はコメント出力を指定した場合、日本語名標辞書又はコメントファイルから変換された 3) に対応するレコードの日本語名が出力される。

また、コピー句中のレコード名、独立項目名又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が日本語の場合は、その日本語のレコード名が出力される。

5) 属性 1

コピー句中のレコード又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコードにGLOBAL句又はEXTERNAL句の指定はある場合、“GLOBAL”又は“EXTERNAL”が出力される。

6) 属性 2

コピー句中のレコード又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコードにGLOBAL句とEXTERNAL句の両方の指定がある場合、5)に“GLOBAL”が出力され当フィールドに“EXTERNAL”が出力される。

7) ファイル名A/N

コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したファイルの英数字名が出力される。

8) ファイル名N

日本語出力を指定した場合に、日本語名標辞書から変換された 7) に対応するファイルの日本語名が出力される。

コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したファイルの日本語名が出力される。

9) 種別

コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したファイル種別が出力される。

10) ファイル編成

コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したファイル編成が出力される。

11) レコード形式

コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したレコード形式が出力される。

12) レコード長

レコード長が出力される。レコード長は、コピー句中のレコード又は独立項目ごとの領域のバイト数であり、コピー句中にレコード又は独立項目がない場合は、コピー句全体の領域のバイト数となる。

13) ブロック長

コメント出力を指定した場合に、コメントファイルに定義したブロック長が出力される。

⑥ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3 (明細見出し)

⑦のデータ項目情報に対するヘッダ情報が出力される。

⑦ CSV 形式ファイルのデータ項目情報 (明細)

左側からフィールド単位に出力内容を説明する。

1) コピー句名

コピー句のメンバ名が出力される。

2) レコード名

レコード又は独立項目の定義名が出力される。

情報の詳細は⑤の 2) を参照されたい。

3) SEQ

データ項目ごとの項番が出力される。

4) レベル番号

データ項目ごとのレベル番号が出力される。

5) データ項目名 (定義)

コピー句中に定義しているデータ項目名が出力される。

6) データ項目名 (日本語変換)

日本語出力又はコメント出力を指定した場合、日本語名標辞書又はコメントファイルから変換されたデータ項目の日本語名が出力される。

7) 属性 1 (P)

データ項目のPICTURE 句が出力される。集団項目の場合は、何も出力されない。

また、当フィールドに出力しきれない場合 (17文字を超える場合) は、“**” が出力され、その内容は 12) のフィールドに出力される。

8) 属性 2 (U)

データ項目のUSAGE 句が出力される。ただし、DISPLAY 句は出力されない。

9) 繰返し回数

データ項目にOCCURS句の指定がある場合に、その反復回数が出力される。

ただし、OCCURS句に上限値と下限値の指定がある場合及び反復回数に記号定数の指定がある場合には“##” が出力され、その内容は 12) のフィールドに出力される。

10) バイト数

データ項目の項目長がバイトで出力される。

ただし、BIT 項目は切り上げて出力される。たとえば、10BIT のデータ項目ならば、2バイトと出力される。

11) 相対位置

データ項目のレコード内の相対位置が出力される。

相対位置は、コピー句中のレコード又は独立項目を基準としている。つまり、コピー句中にレコード又は独立項目が出力するたびに、相対位置は1に戻される。

12) 初期値・再定義等

- データ項目に指定している PICTURE 句及び USAGE 句以外の COBOL の句、7) 及び 9) に出力しきれなかった PICTURE 句及び OCCURS 句が出力される。
ただし、コピー句中のデータ項目に SIGN IS TRAILING を明に指定していても、SEPARATE CHARACTER の指定がない場合は、その SIGN 句は出力されない。
また、集団項目に SIGN 句の指定がある場合は、その集団項目に従属する S 付項目には、集団項目と同じ SIGN 句が出力される。
なお、句の情報は簡略形で出力される。簡略形に関しては、表 2.1 を参照されたい。
- コメント出力を指定した場合、コメントファイルに定義したデータ項目に対するコメントが出力される。
- 当フィールドは、帳票の 1 行に相当する情報が 1 フィールドとして出力される。
例えば、帳票で 3 行に出力される情報の場合には、3 フィールドで出力される。
出力されるフィールド数の最大は 37 であり、それを超える場合には、38 フィールド目に “ 当データ項目の編集を中断します。 ” が出力され、そのデータ項目についての出力は打ち切られる。

①の情報は、CSV 形式ファイルのヘッダ情報のため、CSV 形式ファイルに対して一度のみ出力される。

②～③の情報は、コピー句に関する情報のため、コピー句ごとに出力される。

④～⑤の情報は、レコードに関する情報のため、レコードごとに出力される。

⑥～⑦の情報は、データ項目に関する情報のため、データ項目ごとに出力される。

ただし、⑥はヘッダ情報のためレコード内のデータ項目に対して一度のみ出力される。

CSV 形式ファイルの各フィールドは引用符 (") で囲まれないが、フィールドにコンマや引用符が含まれる場合には引用符で囲まれる。また、フィールドに含まれる引用符は、引用符を二つ並べてエスケープされる。

19.2 図2.24-1 テストデータ記入表CSV 形式ファイルの出力例

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

e) CSV 形式ファイルの出力形式

CSV 形式ファイルの出力例を図2.24-1に示し、その内容を説明する。なお、図中の項番と説明中の項番は対応している。

```

①***** テストデータ記入表 ***** ,,,,2013/3/14 ↓
②コピー句名,コピー句名A/N,コピー句名N,入力データセット名,メンバ更新日 ↓
③CHACZAN1,CHACZAN1,発注残レコード1,USER.FCPY.LIB,2010/5/8 ↓
④コピー句名,レコード名,レコード名A/N,レコード名N,属性1,属性2,ファイル名A/N,
  ファイル名N,種別,ファイル編成,レコード形式,レコード長,ブロック長 ↓
⑤CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,C01-HAC-ZAN-REC,,GLOBAL,EXTERNAL,'USR.DATA.LIB',,DS,区分編成
  ,FB,80,6400 ↓
⑥コピー句名,レコード名,SEQ,レベル番号,再定義,データ項目名(定義),データ項目名
  (日本語変換),添字,属性1(P),属性2(U),繰返し回数(上限値),繰返し回数(下
  限值),NO.,NO.,NO.,NO.,NO.,NO. ↓
⑦CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,1,01,,C01-HAC-ZAN-REC,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,2,02,,C01-ODR-NO,,,9(8),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,3,02,,C01-EDA-BAN,,,9(2),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,4,02,,C01-ZU-BAN,,,X(10),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,5,02,,C01-SOZAI-KBN,,,X(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,6,02,,C01-KAKO-KBN,,,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,7,02,,C01-ODR-JOK-KBN,,,X(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,8,02,,C01-CHUMN-SUMI-FLG,,,X(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,9,02,,C01-HEN-SHU,,,X(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,10,02,,C01-TNTS,,1,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,11,03,,C01-SHOZ,,1,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,12,04,,C01-TNTS-KBN,,1,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,13,03,,C01-SHOZ,,2,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,14,04,,C01-TNTS-KBN,,2,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,15,03,,C01-SHOZ,,3,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,16,04,,C01-TNTS-KBN,,3,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,17,03,,C01-SHOZ,,4,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,18,04,,C01-TNTS-KBN,,4,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,19,03,,C01-SHOZ,,5,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,20,04,,C01-TNTS-KBN,,5,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,21,02,,C01-TNTS,,2,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,22,03,,C01-SHOZ,,1,,5,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,23,04,,C01-TNTS-KBN,,1,9(1),,,,,,↓
  CHACZAN1,C01-HAC-ZAN-REC,24,03,,C01-SHOZ,,2,,5,,,,,↓
  
```

注) “ ↓ ” はレコード(行)の終わり(改行)を示す。

図2.24-1 テストデータ記入表CSV 形式ファイルの出力例

[図2.24-1の説明]

① CSV 形式ファイルのヘッダ情報1 (ツールヘッダ)

CSV 形式ファイルの種類(テストデータ記入表)とCSV 形式ファイルの作成日が出力される。

② CSV 形式ファイルのヘッダ情報2 (コピー句見出し)

③のコピー句情報に対するヘッダ情報が出力される。

③ CSV 形式ファイルのコピー句情報(コピー句データ)

左側からフィールド単位に出力内容を説明する。

1) コピー句名

コピー句のメンバ名が出力される。

2) (null)

何も出力されない。

- 3) コピー句名 A / N
コピー句のメンバ名が出力される。
 - 4) コピー句名 N
日本語出力又はコメント出力した場合、日本語名標辞書又はコメントファイルから変換された 3) に対応するコピー句の日本語が出力される。
 - 5) 入力データセット名
入力コピー句のデータセット名が出力される。
入力元のコピー句が区分編成ファイルで、データセットを連結している場合にも該当のデータセット名が出力される。
ただし、保存ファイルが入力された場合、または該当データセットが65番目以降に連結されている場合には出力されない。
 - 6) メンバ更新日
コピー句メンバの最終更新日付が出力される。
ただし、コピーライブラリが区分編成ファイルで PFD 又は AP/DF の EDIT がコピー句のメンバに対して更新履歴を保持していない場合は、何も出力されない。
- ④ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3 (レコード見出し)
- ⑤のレコード情報に対するヘッダ情報が出力される。
- ⑤ CSV 形式ファイルのレコード情報 (レコードデータ)
- 左側からフィールド単位に出力内容を説明する。
- 1) コピー句名
コピー句のメンバ名が出力される。
 - 2) レコード名
レコード又は独立項目の定義名が出力される。コピー句中にレコード又は独立項目がない場合は、コピー句名又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が出力される。
 - 3) レコード名 A / N
レコード又は独立項目の英数字名が出力される。コピー句中にレコード又は独立項目がない場合は、コピー句名又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が出力される。
また、コピー句中のレコード名、独立項目名は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が日本語の場合は、何も出力されない。
 - 4) レコード名 N
日本語出力又はコメント出力を指定した場合、日本語名標辞書又はコメントファイルから変換された 3) に対応するレコードの日本語名が出力される。
また、コピー句中のレコード名、独立項目名又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコード名が日本語の場合は、その日本語のレコード名が出力される。

- 5) 属性 1
コピー句中のレコード又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコードにGLOBAL句又はEXTERNAL句の指定はある場合，“GLOBAL”又は“EXTERNAL”が出力される。
 - 6) 属性 2
コピー句中のレコード又は@OPTIONS制御文のレコード名付加オプションで指定したレコードにGLOBAL句とEXTERNAL句の両方の指定がある場合，5)に“GLOBAL”が出力され当フィールドに“EXTERNAL”が出力される。
 - 7) ファイル名A / N
コメント出力を指定した場合に，コメントファイルに定義したファイルの英数字名が出力される。
 - 8) ファイル名N
日本語出力を指定した場合に，日本語名標辞書から変換された 7) に対応するファイルの日本語名が出力される。
コメント出力を指定した場合に，コメントファイルに定義したファイルの日本語名が出力される。
 - 9) 種別
コメント出力を指定した場合に，コメントファイルに定義したファイル種別が出力される。
 - 10) ファイル編成
コメント出力を指定した場合に，コメントファイルに定義したファイル編成が出力される。
 - 11) レコード形式
コメント出力を指定した場合に，コメントファイルに定義したレコード形式が出力される。
 - 12) レコード長
レコード長が出力される。レコード長は，コピー句中のレコード又は独立項目ごとの領域のバイト数であり，コピー句中にレコード又は独立項目がない場合は，コピー句全体の領域のバイト数となる。
 - 13) ブロック長
コメント出力を指定した場合に，コメントファイルに定義したブロック長が出力される。
- ⑥ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3（明細見出し）
⑦のデータ項目情報に対するヘッダ情報が出力される。

⑦ CSV 形式ファイルのデータ項目情報（明細）

左側からフィールド単位に出力内容を説明する．

- 1) コピー句名
コピー句のメンバ名が出力される．
- 2) レコード名
レコード又は独立項目の定義名が出力される．
情報の詳細は⑤の 2) を参照されたい．
- 3) SEQ
データ項目ごとの項番が出力される．
- 4) レベル番号
データ項目ごとのレベル番号が出力される．
- 5) 再定義
@ROLIST 制御文でREDEFINES オペランドを指定した場合、再定義項目に対して"R" が出力される．
REDEFINES 句の出力に関しては、“b) REDEFINES 句を持つデータ項目の出力形式”を参照されたい．
- 6) データ項目名（定義）
コピー句中に定義しているデータ項目名が出力される．
- 7) データ項目名（日本語変換）
日本語出力又はコメント出力を指定した場合、日本語名標辞書又はコメントファイルから変換されたデータ項目の日本語名が出力される．
- 8) 添字
@ROLIST 制御文でOCCURSオペランドを指定した場合、展開されたデータ項目が何回目の反復であるかを示す添字が出力される．
OCCURS句の出力に関しては、“c) OCCURS句を持つデータ項目の出力形式”を参照されたい．
- 9) 属性1（P）
データ項目のPICTURE 句が出力される．集団項目の場合は、何も出力されない．
- 10) 属性2（U）
データ項目のUSAGE 句が出力される．ただし、DISPLAY 句は出力されない．
- 11) 繰返し回数（上限値）
データ項目にOCCURS句の指定がある場合に、その反復回数が出力される．
OCCURS句に上限値と下限値の指定がある場合は、上限値が出力される．
OCCURS句又はOCCURS句の上限値に記号定数の指定がある場合は、OCCURS句中の記号定数は出力されずに“記号定数”と出力される．
- 12) 繰返し回数（下限値）
OCCURS句に上限値と下限値の指定がある場合は、下限値が出力される．
OCCURS句の下限値に記号定数の指定がある場合は、OCCURS句中の記号定数は出力されずに“記号定数”と出力される．

13 ~ 18) NO .

利用者がテストデータを入力するフィールドであり、何も出力されない。

①の情報は、CSV 形式ファイルのヘッダ情報のため、CSV 形式ファイルに対して一度のみ出力される。

②~③の情報は、コピー句に関する情報のため、コピー句ごとに出力される。

④~⑤の情報は、レコードに関する情報のため、レコードごとに出力される。

⑥~⑦の情報は、データ項目に関する情報のため、データ項目ごとに出力される。

ただし、⑥はヘッダ情報のためレコード内のデータ項目に対して一度のみ出力される。

CSV 形式ファイルの各フィールドは引用符 (") で囲まれないが、フィールドにコンマや引用符が含まれる場合には引用符で囲まれる。また、フィールドに含まれる引用符は、引用符を二つ並べてエスケープされる。

19.3 表4.2 データ領域定義出力及び保存ファイル作成のオプション

【旧記述】

表4.2 データ領域定義出力及び保存ファイル作成のオプション

ドキュメントキーワード	キーワードオプション	共通オプション
ITEMLIST	[([{ <u>DIRECT</u> INDIRECT }] [, { <u>DCT</u> ONLY }] NODCT [, { SORT = { AN N } }] NOSORT [, { SHADOW NOSHADOW }] [, { <u>LINE</u> NOLINE }])] [, { <u>PFD</u> APDF }]	[, { <u>HANYO</u> NOHANYO }] [, { SL = { 30 n } }] { HYP1 HYP2 }] [, DPL = { 0 n }] [, IPL = { 0 n }] [, ISL = { 8 n }] [, { COMMENT NOCOMMENT }]

~~~~~



【新記述】

表4.2 データ領域定義出力及び保存ファイル作成のオプション

| ドキュメントキーワード | キーワードオプション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 共通オプション                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ITEMLIST    | <p>[ ( [ { <u>DIRECT</u><br/>INDIRECT } ]</p> <p>[ , { <u>DCT</u><br/>ONLY } ]</p> <p>[ , { <u>NODCT</u></p> <p>[ , { <u>SORT</u> = { AN<br/>N } } ]</p> <p>[ , { <u>NOSORT</u></p> <p>[ , { <u>SHADOW</u><br/>NOSHADOW } ]</p> <p>[ , { <u>LINE</u><br/>NOLINE } ]</p> <p>[ , { <u>PFD</u><br/>APDF } ]</p> <p>[ , { <u>CSV</u><br/>NOCSV } ] ) ]</p> | <p>[ , { <u>HANYO</u><br/>NOHANYO } ]</p> <p>[ , { <u>SL</u> = { 30<br/>n } } ]</p> <p>[ , { <u>HYP1</u><br/>HYP2 } ]</p> <p>[ , <u>DPL</u> = { 0<br/>n } ]</p> <p>[ , <u>IPL</u> = { 0<br/>n } ]</p> <p>[ , <u>ISL</u> = { 8<br/>n } ]</p> <p>[ , { <u>COMMENT</u><br/>NOCOMMENT } ]</p> |

【旧記述】

---

|                                                                                  |                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{l} \text{SHADOW} \\ \text{NOSHADOW} \end{array} \right\}$ | 網掛けモード, 罫線モードの指定 (DCT/NODCT 指定時) |
|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|

---

~~~~~

$\left\{ \begin{array}{l} \text{LINE} \\ \text{NOLINE} \end{array} \right\}$	罫線の出力 (DCT/NODCT 指定時)(NOSHADOW指定時)
--	------------------------------------

~~~~~

---

|                                                                           |                                |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{l} \text{PFD} \\ \text{APDF} \end{array} \right\}$ | TSS のプログラム開発支援システム(DIRECT 指定時) |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|

---

コピーライブラリが区分編成の場合で, かつ最終更新日付によるコピー句メンバの指定を行う場合のみ意味をもつ.

本オプションはINDIRECT指定時は指定できない.

PFD : TSS におけるプログラム開発支援がPFD で作成されている場合.

APDF : TSS におけるプログラム開発支援がAP/DF で作成されている場合.

省略値 : PFD

【新記述】

---

|                                                                                  |                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{l} \text{SHADOW} \\ \text{NOSHADOW} \end{array} \right\}$ | 網掛けモード, 罫線モードの指定 (DCT/NODCT 指定時)<br>(NOCSV指定時) |
|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|

---

~~~~~

$\left\{ \begin{array}{l} \text{LINE} \\ \text{NOLINE} \end{array} \right\}$	罫線の出力 (DCT/NODCT 指定時)(NOSHADOW指定時) (NOCSV指定時)
--	--

~~~~~

---

|                                                                           |                                |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{l} \text{PFD} \\ \text{APDF} \end{array} \right\}$ | TSS のプログラム開発支援システム(DIRECT 指定時) |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|

---

コピーライブラリが区分編成の場合で, かつ最終更新日付によるコピー句メンバの指定を行う場合のみ意味をもつ.

本オプションはINDIRECT指定時は指定できない.

PFD : TSS におけるプログラム開発支援がPFD で作成されている場合.

APDF : TSS におけるプログラム開発支援がAP/DF で作成されている場合.

省略値 : PFD

---

{ CSV  
NOCSV }

CSV 形式ファイルの出力 (DCT/NODCT 指定時)

---

CSV 形式ファイルの出力有無を指定するオプションである。

CSV 形式ファイルを出力する場合、帳票は出力されない。

CSV : CSV 形式ファイルを出力する。

NOCSV : CSV 形式ファイルを出力しない。

省略値 : NOCSV

19.5 表4.3 データ領域定義出力及び保存ファイル作成に必要なDD文

【旧記述】

表4.3 データ領域定義出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続く）

| DD名                     | 用途                                                                                                        | 編成   | レコード形式                              | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト)  | 装置   |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------|----------------|-----------------|------|
| JOBLIB<br>又は<br>STEPCAT | ユーザカタログを使用する場合、ジョブ制御文中に指定しているデータセットが登録されているユーザカタログデータセットを指定する。                                            | VSAM | 詳細は各システムの<br>“ VSAM機能説明書 ” を<br>参照。 |                |                 | DASD |
| IMAGELIB                | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時にフォームオーバーレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO   | U                                   | 0              | 26793<br>(6144) | DASD |

表4.3 データ領域定義出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続き）

| DD名      | 用途                                                                                                                            | 編成 | レコード形式     | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------|----------------|----------------|------------|
| JSMHCLST | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時に、データ領域定義の出力先を指定する。<br>ドキュメントキーワードが、'PPITEM'（ページプリンタに出力）の場合、FCB パラメタ（FORMパラメタ）でSTD3(STD2)を指定しなければならない。 | PS | FA,<br>FBA | 251            | 251 ×<br>n     | DASD<br>PR |

【新記述】

表4.3 データ領域定義出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続く）

| DD名                     | 用途                                                                                                                           | 編成    | レコード形式                              | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置    |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------|----------------|----------------|-------|
| ~~~~~                   | ~~~~~                                                                                                                        | ~~~~~ | ~~~~~                               | ~~~~~          | ~~~~~          | ~~~~~ |
| JOBCAT<br>又は<br>STEPCAT | ユーザカタログを使用する場合、ジョブ制御文中に指定しているデータセットが登録されているユーザカタログデータセットを指定する。                                                               | VSAM  | 詳細は各システムの<br>“ VSAM機能説明書 ” を<br>参照。 |                |                | DASD  |
| IMAGELIB                | 実行時オプションDCT 及びNOCSV 指定時またはNODCT 及びNOCSV 指定時に、フォームオペレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO    | U                                   | 0              | 6144           | DASD  |
| ~~~~~                   | ~~~~~                                                                                                                        | ~~~~~ | ~~~~~                               | ~~~~~          | ~~~~~          | ~~~~~ |

表4.3 データ領域定義出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続き）

| DD名      | 用 途                                                                                                                                                          | 編成 | レコード形式                                                                                                                            | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|------------|
| JSMHCLST | <p>実行時オプションDCT 及びNOCSV 指定時またはNODCT 及びNOCSV 指定時に、データ領域定義の出力先を指定する。</p> <p>ドキュメントキーワードが、'PPITEM'（ページプリンタに出力）の場合、FCB パラメタ（FORMパラメタ）でSTD3(STD2)を指定しなければならない。</p> | PS | FA,<br>FBA                                                                                                                        | 251            | 251 ×<br>n     | DASD<br>PR |
| JSMHCCSV | <p>実行時オプションCSV 指定時に、データ領域定義CSV 形式ファイルの出力先を指定する。</p>                                                                                                          | PS | V,<br>VB                                                                                                                          | 4068           | 4068+4<br>以上   | DASD<br>PR |
| JSMHC120 | <p>実行時オプションDIRECT指定かつ解析オプションFD指定時に、作業用コピーライブラリを指定する。</p>                                                                                                     | PO | <p>DD名SYSLIBの編成がPOの場合は、SYSLIBと同じレコード形式、レコード長およびブロック長で作成される。</p> <p>DD名SYSLIBの編成がGEMの場合は、レコード形式：VB、レコード長：255、ブロック長：5104で作成される。</p> |                |                | DASD       |

19.6 表4.6 レコードレイアウト出力及び保存ファイル作成に必要なDD文

【旧記述】

表4.6 レコードレイアウト出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続く）

| DD名      | 用途                                                                                                        | 編成 | レコード形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト)  | 装置   |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------|----------------|-----------------|------|
| IMAGELIB | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時にフォームオーバーレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO | U      | 0              | 26793<br>(6144) | DASD |

表4.6 レコードレイアウト出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続き）

| DD名      | 用途                                         | 編成 | レコード形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|--------------------------------------------|----|--------|----------------|----------------|------------|
| FT30F001 | 実行時オプションGSP またはGKS 指定時、レコードレイアウトの出力先を指定する。 |    |        |                |                | DASD<br>PR |

【新記述】

表4.6 レコードレイアウト出力及び保存ファイル作成に必要なDD文(続く)

| DD名      | 用途                                                                                                        | 編成 | レコード形式 | レコード長(バイト) | ブロック長(バイト) | 装置   |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------|------------|------------|------|
| IMAGELIB | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時にフォームオーバーレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO | U      | 0          | 6144       | DASD |

表4.6 レコードレイアウト出力及び保存ファイル作成に必要なDD文(続き)

| DD名      | 用途                                                | 編成 | レコード形式 | レコード長(バイト) | ブロック長(バイト) | 装置         |
|----------|---------------------------------------------------|----|--------|------------|------------|------------|
| FT30F001 | 実行時オプションGSP またはGKS 指定時、レコードレイアウトの出力先を指定する。        |    |        |            |            | DASD<br>PR |
| JSMHC120 | 実行時オプションDIRECT指定かつ解析オプションFD指定時に、作業用コピーライブラリを指定する。 | PO |        |            |            | DASD       |



19.7 表4.8 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成のオプション

【旧記述】

表4.8 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成のオプション

| ドキュメントキーワード | キーワードオプション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 共通オプション                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| TESTDATA    | $[ ( [ \left\{ \begin{array}{c} \underline{D I R E C T} \\ \underline{I N D I R E C T} \end{array} \right\} ]$ $[ , \left\{ \begin{array}{c} \underline{D C T} \\ \underline{O N L Y} \\ \underline{N O D C T} \end{array} \right\} ]$ $[ , \left\{ \begin{array}{c} \underline{F I X E D} \\ \underline{N O F I X E D} \end{array} \right\} ] ) ]$ $[ , \left\{ \begin{array}{c} \underline{P F D} \\ \underline{A P D F} \end{array} \right\} ]$ | $[ , \left\{ \begin{array}{c} \underline{H A N Y O} \\ \underline{N O H A N Y O} \end{array} \right\} ]$ $[ , \left\{ \begin{array}{c} \underline{S L} = \left\{ \begin{array}{c} \underline{30} \\ n \end{array} \right\} \\ \left\{ \begin{array}{c} \underline{H Y P 1} \\ \underline{H Y P 2} \end{array} \right\} \end{array} \right\} ]$ $[ , \underline{D P L} = \left\{ \begin{array}{c} \underline{0} \\ n \end{array} \right\} ]$ $[ , \underline{I P L} = \left\{ \begin{array}{c} \underline{0} \\ n \end{array} \right\} ]$ $[ , \left\{ \begin{array}{c} \underline{C O M M E N T} \\ \underline{N O C O M M E N T} \end{array} \right\} ]$ |

~~~~~

【新記述】

表4.8 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成のオプション

ドキュメントキーワード	キーワードオプション	共通オプション
TESTDATA	[([{ <u>DIRECT</u> INDIRECT }] [, { <u>DCT</u> ONLY }] NODCT [, { <u>FIXED</u> NOFIXED }] [, { <u>PFD</u> APDF }] [, { <u>CSV</u> NOCSV }])]	[, { <u>HANYO</u> NOHANYO }] [, { SL = { <u>30</u> n } }] { <u>HYP1</u> <u>HYP2</u> }] [, DPL = { <u>0</u> n }] [, IPL = { <u>0</u> n }] [, { <u>COMMENT</u> NOCOMMENT }]

~~~~~

【旧記述】

---

|                                                                                |                         |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{c} \text{FIXED} \\ \text{NOFIXED} \end{array} \right\}$ | 行数の変動指定 (DCT/NODCT 指定時) |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|

---

~~~~~

$\left\{ \begin{array}{c} \text{PFD} \\ \text{APDF} \end{array} \right\}$	TSS のプログラム開発支援システム(DIRECT 指定時)
---	--------------------------------

コピーライブラリが区分編成の場合で、かつ最終更新日付による解析対象メンバの指定を行う場合のみ意味をもつ。

本オプションはINDIRECT指定時は指定できない。

- PFD : TSS におけるプログラム開発支援がPFD で作成されている場合。
- APDF : TSS におけるプログラム開発支援がAP/DF で作成されている場合。
- 省略値 : PFD

【新記述】

$\left\{ \begin{array}{c} \text{FIXED} \\ \text{NOFIXED} \end{array} \right\}$	行数の変動指定 (DCT/NODCT 指定時)(NOCSV 指定時)
--	------------------------------------

~~~~~

---

|                                                                           |                                |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{c} \text{PFD} \\ \text{APDF} \end{array} \right\}$ | TSS のプログラム開発支援システム(DIRECT 指定時) |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|

---

コピーライブラリが区分編成の場合で、かつ最終更新日付による解析対象メンバの指定を行う場合のみ意味をもつ。

本オプションはINDIRECT指定時は指定できない。

- PFD : TSS におけるプログラム開発支援がPFD で作成されている場合。
- APDF : TSS におけるプログラム開発支援がAP/DF で作成されている場合。
- 省略値 : PFD

---

|                                                                              |                               |
|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| $\left\{ \begin{array}{c} \text{C SV} \\ \text{N OCSV} \end{array} \right\}$ | CSV 形式ファイルの出力 (DCT/NODCT 指定時) |
|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|

---

CSV 形式ファイルの出力有無を指定するオプションである。

CSV 形式ファイルを出力する場合、帳票は出力されない。

- CSV : CSV 形式ファイルを出力する。
- NOCSV : CSV 形式ファイルを出力しない。
- 省略値 : NOCSV

19.9 表4.9 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成に必要なDD文

【旧記述】

表4.9 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続く）

| DD名      | 用 途                                                                                                       | 編成 | レコード<br>形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト)  | 装置   |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------|----------------|-----------------|------|
| IMAGELIB | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時にフォームオーバーレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO | U          | 0              | 26793<br>(6144) | DASD |

表4.9 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続き）

| DD名      | 用 途                                          | 編成 | レコード<br>形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|----------------------------------------------|----|------------|----------------|----------------|------------|
| JSMHCLST | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時に、テストデータ記入表の出力先を指定する。 | PS | FA,<br>FBA | 251            | 251 ×<br>n     | DASD<br>PR |

【新記述】

表4.9 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成に必要なDD文(続く)

| DD名      | 用途                                                                                                                                       | 編成 | レコード形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置   |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------|----------------|----------------|------|
| IMAGELIB | <p>実行時オプションDCT 及びNOCSV 指定時またはNODCT 及びNOCSV 指定時に、フォームオーバレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。</p> <p>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。</p> | PO | U      | 0              | 6144           | DASD |

表4.9 テストデータ記入表出力及び保存ファイル作成に必要なDD文(続き)

| DD名      | 用途                                                                      | 編成 | レコード形式                                                                                                                            | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|------------|
| JSMHCLST | <p>実行時オプションDCT 及びNOCSV 指定時またはNODCT 及びNOCSV 指定時に、テストデータ記入表の出力先を指定する。</p> | PS | FA,<br>FBA                                                                                                                        | 251            | 251 ×<br>n     | DASD<br>PR |
| JSMHCCSV | <p>実行時オプションCSV 指定時に、テストデータ記入表CSV 形式ファイルの出力先を指定する。</p>                   | PS | V,<br>VB                                                                                                                          | 342            | 342+4<br>以上    | DASD       |
| JSMHC120 | <p>実行時オプションDIRECT指定かつ解析オプションFD指定時に、作業用コピーライブラリを指定する。</p>                | PO | <p>DD名SYSLIBの編成がPOの場合は、SYSLIBと同じレコード形式、レコード長およびブロック長で作成される。</p> <p>DD名SYSLIBの編成がGEMの場合は、レコード形式：VB、レコード長：255、ブロック長：5104で作成される。</p> |                |                | DASD       |

【旧記述】

表4.12 変更項目対比一覧出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続く）

| DD名               | 用途                                                                                                        | 編成 | レコード形式   | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト)  | 装置         |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------|----------------|-----------------|------------|
| IMAGELIB          | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時にフォームオーバーレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO | U        | 0              | 26793<br>(6144) | DASD       |
| JSMHCHIN          | 実行時オプションINDIRECTとNODCT 指定時、入力元の変更ファイルのデータセットを指定する。                                                        | PS | F,<br>FB | 523            | 523 ×           | DASD<br>MT |
| SYSDCT<br>SYSDCT2 | 実行時オプションDIRECT指定時、コピー句解析用中間ファイルのデータセットを指定する                                                               | PO | VB       | 508            | 508+4<br>以上     | DASD       |
| JSMHCCOM          | 実行時オプションCOMMENT 指定時、入力元のコメントファイルのデータセットを指定する                                                              | PO | F,<br>FB | 108            | 108 ×<br>n      | DASD       |

表4.12 変更項目対比一覧出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続き）

| DD名      | 用途                                          | 編成 | レコード形式     | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|---------------------------------------------|----|------------|----------------|----------------|------------|
| JSMHCLST | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時に、変更項目対比一覧の出力先を指定する。 | PS | FA,<br>FBA | 211            | 211 ×<br>n     | DASD<br>PR |

【新記述】

表4.12 変更項目対比一覧出力及び保存ファイル作成に必要なDD文（続く）

| DD名               | 用 途                                                                                                       | 編成 | レコード<br>形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------|----------------|----------------|------------|
| IMAGELIB          | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時にフォームオーバーレイパターンを登録してあるイメージライブラリのデータセットを指定する。<br>XSP の場合はシステムイメージライブラリを指定するので、指定不要。 | PO | U          | 0              | 6144           | DASD       |
| JSMHCHIN          | 実行時オプションINDIRECTとNODCT 指定時、入力元の変更ファイルのデータセットを指定する。                                                        | PS | F,<br>FB   | 523            | 523 ×<br>n     | DASD<br>MT |
| JSMHCHOT          | 実行時オプションDCT 又はONLY指定時、出力先の変更ファイルのデータセットを指定する。                                                             | PS | F,<br>FB   | 523            | 523 ×<br>n     | DASD<br>MT |
| SYSDCT<br>SYSDCT2 | 実行時オプションDIRECT指定時、コピー句解析用中間ファイルのデータセットを指定する。                                                              | PO | VB         | 508            | 508+4<br>以上    | DASD       |

表4.12 変更項目対比一覧出力及び保存ファイル作成に必要なDD文(続き)

| DD名      | 用 途                                                              | 編成 | レコード形式                                                                                                                    | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | 装置         |
|----------|------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|------------|
| JSMHCLST | 実行時オプションDCT 又はNODCT 指定時に、<br>変更項目対比一覧の出力先を指定する。                  | PS | FA,<br>FBA                                                                                                                | 211            | 211 ×<br>n     | DASD<br>PR |
| JSMHC120 | 実行時オプションDIRECT指定かつ解析オプションFD指定時に、作業用コピーライブラリをDD名JSMHC130とともに指定する。 | PO | DD名SYSLIBの編成がPOの場合は、SYSLIBと同じレコード形式、レコード長およびブロック長で作成される。<br>DD名SYSLIBの編成がGEMの場合は、レコード形式：VB、レコード長：255、ブロック長：5104で作成される。    |                |                | DASD       |
| JSMHC130 | 実行時オプションDIRECT指定かつ解析オプションFD指定時に、作業用コピーライブラリをDD名JSMHC120とともに指定する。 | PO | DD名SYSLIB2の編成がPOの場合は、SYSLIB2と同じレコード形式、レコード長およびブロック長で作成される。<br>DD名SYSLIB2の編成がGEMの場合は、レコード形式：VB、レコード長：255、ブロック長：5104で作成される。 |                |                | DASD       |



19.11 表4.15 コメントファイル操作に必要なDD文

【旧記述】

表4.15 コメントファイル操作に必要なDD文

| DD名      | 用途                      | 編成 | レコード形式     | レコード長 (バイト) | ブロック長 (バイト) | 装置         |
|----------|-------------------------|----|------------|-------------|-------------|------------|
| JSMHCLST | コメントファイル修正リストの出力先を指定する。 | PS | FA,<br>FBA | 201         | 201 ×<br>n  | DASD<br>PR |

【新記述】

表4.15 コメントファイル操作に必要なDD文

| DD名      | 用途                                                | 編成 | レコード形式                                                                                                                 | レコード長 (バイト) | ブロック長 (バイト) | 装置         |
|----------|---------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|------------|
| JSMHCLST | コメントファイル修正リストの出力先を指定する。                           | PS | FA,<br>FBA                                                                                                             | 201         | 201 ×<br>n  | DASD<br>PR |
| JSMHC120 | 実行時オプションDIRECT指定かつ解析オプションFD指定時に、作業用コピーライブラリを指定する。 | PO | DD名SYSLIBの編成がPOの場合は、SYSLIBと同じレコード形式、レコード長およびブロック長で作成される。<br>DD名SYSLIBの編成がGEMの場合は、レコード形式：VB、レコード長：255、ブロック長：5104で作成される。 |             |             | DASD       |





【旧記述】

~~~~~

NCW({ STD }) 利用者語に使用できる日本語文字集合(COBOL85 V12L20 ~)
 { SYS }

利用者語に使用できる日本語文字集合の指定である。

詳細については、 “ OS IV COBOL85 使用手引書 基本編 ” を参照されたい。

NCW(STD) : システム共通の日本語文字集合を使用する。

NCW(SYS) : 計算機の日本語文字集合を使用する。

省略値 : NCW(STD)

レコード名付加オプション レコード名の付加

~~~~~

【新記述】

~~~~~

NCW({ STD } { SYS })	利用者語に使用できる日本語文字集合(COBOL85 V12L20 ~)
---------------------------	-------------------------------------

利用者語に使用できる日本語文字集合の指定である。
詳細については、“OS IV COBOL85 使用手引書 基本編”を参照されたい。
NCW(STD) : システム共通の日本語文字集合を使用する。
NCW(SYS) : 計算機の日本語文字集合を使用する。
省略値 : NCW(STD)

{ FD } { NOFD }	FD句の有無
--------------------	--------

コピー句にFD句があるかないかを指定する。
FD : コピー句にFD句がある場合に指定する。FD句を無視して解析される。
 なお、コピーライブラリを入力とする場合に意味を持ち、実行ジョブ制御文に
 作業用コピーライブラリの指定が必要である。
NOFD : コピー句にFD句がない場合に指定する。FD句の有無は判別されない。
省略値 : NOFD

コピー句にFD句がある場合に、NOFDを指定するとエラーとなる。
コピー句にFD句がない場合に、FDを指定するとエラーとはならないが、FD句があるものとして解析が行われる。

レコード名付加オプション	レコード名の付加
--------------	----------

~~~~~

19.14 表5.11 DASD容量見積り式

【旧記述】

表5.11 DASD容量見積り式 (続き)

| ファイル名称                    | DD名      | データセット<br>編成 | レコード<br>形式 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | トラック数                                                                  |
|---------------------------|----------|--------------|------------|----------------|----------------|------------------------------------------------------------------------|
| メッセージ編集<br>用ワークデータ<br>セット | JSMHC030 | PS           | VB         | 259            | 259 + 4<br>以上  | $\left[ \frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right] \times n$ |

注) F6425 の場合

表5.11 DASD容量見積り式 (続き)

| ファイル名称                      | DD名                  | データセット<br>編成 | レコード<br>形式                                                                                                                                                                                 | レコード長<br>(バイト) | ブロック長<br>(バイト) | トラック数                                                                  |
|-----------------------------|----------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|------------------------------------------------------------------------|
| メッセージ編集<br>用ワークデータ<br>セット   | JSMHC030             | PS           | VB                                                                                                                                                                                         | 259            | 259 + 4<br>以上  | $\left[ \frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right] \times n$ |
| データ領域定義<br>CSV 形式ファイ<br>ル   | JSMHCCSV             | PS           | VB                                                                                                                                                                                         | 4068           | 4068 + 4<br>以上 | $\left[ \frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right] \times n$ |
| テストデータ記<br>入表CSV 形式フ<br>ァイル | JSMHCCSV             | PS           | VB                                                                                                                                                                                         | 342            | 342 + 4<br>以上  | $\left[ \frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right] \times n$ |
| 作業用コピーラ<br>イブラリ             | JSMHC120<br>JSMHC130 | PO           | DD名SYSLIBまたはSYSLIB2<br>の編成がPOの場合は、SYSL<br>IBまたはSYSLIB2 と同じレ<br>コード形式、レコード長お<br>よびブロック長で生成され<br>る。<br>DD名SYSLIBまたはSYSLIB2<br>の編成がGEM の場合は、レ<br>コード形式：VB、レコード<br>長：255、ブロック長：51<br>04で生成される。 |                |                | $\left[ \frac{47476 \text{ (注)}}{\text{ブロック長} + 512} \right] \times n$ |

編成がP0の場合に必要なディレクトリブロック数の見積り式を以下に示す。

— MSP : 
$$\left[ \frac{\text{対象のメンバ数}}{6} \right]$$

— XSP : ディレクトリ形式はSHORT

BLK 指定の場合 
$$\left[ \frac{\text{対象のメンバ数} + 1}{25} \right]$$

TRK 指定の場合 
$$\left[ \frac{\left[ \frac{\text{対象のメンバ数} + 1}{25} \right]}{26} \right] \text{ (注)}$$

注) F6425 の場合



【旧記述】

JSMCC058-S

実行時オプションONLY指定時にドキュメントに関する実行時オプションは指定できません。

[メッセージの意味]

PARMパラメタに実行時オプションONLY指定時に、排他関係であるドキュメントに関する実行時オプションSHADOW, NOSHADOW, LINE, NOLINE, KING, KST, FIXED, NOFIXED, INDEX又はFOP=のいずれかの指定がある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

PARMパラメタの実行時オプションから、ドキュメントに関する実行時オプションを取り除いて、再度実行する。

【新記述】

JSMCC058-S

実行時オプションONLY指定時にドキュメントに関する実行時オプションは指定できません。

[メッセージの意味]

実行時オプションONLY指定時に、排他関係であるドキュメントに関する実行時オプションSHADOW, NOSHADOW, LINE, NOLINE, KING, KST, GSP, GKS, FIXED, NOFIXED, CSV, INDEX 又はFOP=のいずれかの指定がある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

PARMパラメタの実行時オプションから、ドキュメントに関する実行時オプションを取り除いて、再度実行する。

【旧記述】

JSMCC099-E

入力元の全ドキュメント保存ファイルにコピー句が存在しません。

[メッセージの意味]

入力元の全ドキュメント保存ファイルが空データセットである。

全ドキュメント保存ファイルを入力として実行した場合は、全ドキュメント保存ファイルに誤ったデータセットを指定している可能性がある。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、すべてのコピー句が解析でエラーとなり、全ドキュメント保存ファイルに何も情報が出力されなかった可能性がある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

全ドキュメント保存ファイルを入力として実行した場合は、全ドキュメント保存ファイルに別のデータセットを指定して再実行する。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、コピー句のエラーを修正して再度実行する。

**【新記述】**

JSMCC099-E

入力元的全ドキュメント保存ファイルにメンバがありません。

**[メッセージの意味]**

入力元の保存ファイルが空データセットまたはDUMMY である。

保存ファイルを入力として実行した場合は、保存ファイルに誤ったデータセットを指定している可能性がある。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、すべてのコピー句が解析でエラーとなり、保存ファイルに何も情報が出力されなかった可能性がある。

**[システムの処理]**

処理を中止する。

**[利用者の処置]**

保存ファイルを入力として実行した場合は、保存ファイルに正しいデータセットを指定して再度実行する。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、コピー句のエラーを修正して再度実行する。

**【旧記述】**

JSMCD001-E

入力元的全ドキュメント保存ファイルにメンバがありません。

**[メッセージの意味]**

入力元の保存ファイルが空データセットである。

保存ファイルを入力として実行した場合は、保存ファイルに誤ったデータセットを指定している可能性がある。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、すべてのコピー句が解析でエラーとなり、保存ファイルに何も情報が出力されなかった可能性がある。

**[システムの処理]**

処理を中止する。

**[利用者の処置]**

保存ファイルを入力として実行した場合は、保存ファイルに別のデータセットを指定して再実行する。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、コピー句のエラーを修正して再度実行する。

**【新記述】**

JSMCD001-E

入力元的全ドキュメント保存ファイルにメンバがありません。

**[メッセージの意味]**

入力元の保存ファイルが空データセットまたはDUMMY である。

保存ファイルを入力として実行した場合は、保存ファイルに誤ったデータセットを指定している可能性がある。

コピーライブラリを入力として実行した場合は、すべてのコピー句が解析でエラーとなり、保存ファイルに何も情報が出力されなかった可能性がある。

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

保存ファイルを入力として実行した場合は、保存ファイルに正しいデータセットを指定して再度実行する .

コピーライブラリを入力として実行した場合は、コピー句のエラーを修正して再度実行する .

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

JSMCC419-S

@OPTIONS制御文のFD又はNOFD指定に誤りがあります .

[ メッセージの意味 ]

SYSIN 制御文の@OPTIONS制御文中に指定したFD又はNOFDオペランドに誤りがある .

[ システムの処置 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

SYSIN 制御文の@OPTIONS制御文を正しく指定し、再度実行する .

JSMCC420-S

実行時オプションCSV とNOCSV は同時に指定できません .

[ メッセージの意味 ]

排他関係にある実行時オプションCSV とNOCSV を同時に指定したため、実行時オプションの判定ができない .

[ システムの処置 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

実行時オプションCSV またはNOCSV のいずれかを指定し、再度実行する .

JSMCC421-S

実行時オプションCSV 指定時に帳票に関する実行時オプションの指定はできません .

[ メッセージの意味 ]

実行時オプションCSV 指定時に、排他関係である帳票に関する実行時オプションSHADOW, NOSHADOW, LINE, NOLINE, FIXED, NOFIXED, INDEX 又はFOP=のいずれかの指定がある .

[ システムの処置 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

帳票に関する実行時オプションを取り除いて、再度実行する .

JSMCC422-S

JSMHCCSVのDD(FD)文が指定されていません。

**[ メッセージの意味 ]**

実行時オプションCSV 指定時にJSMHCCSV DD(FD) 文が指定されていない。

**[ システムの処置 ]**

処理を中止する。

**[ 利用者の処置 ]**

ジョブ制御文にJSMHCCSV DD(FD) 文を指定し、再度実行する。

JSMCC423-S

JSMHCCSVのDD(FD)文に誤りがあります。

**[ メッセージの意味 ]**

実行時オプションCSV 指定時にJSMHCCSV DD(FD) 文の指定に誤りがある。

**[ システムの処置 ]**

処理を中止する。

**[ 利用者の処置 ]**

ジョブ制御文にJSMHCCSV DD(FD) 文を正しく指定し、再度実行する。

19.16 付表1.2 キーワードオプションの一覧

【旧記述】

付表1.2 キーワードオプションの一覧(続く)

| ドキュメントキーワード | キーワードオプション                | 機能説明                               | 詳細説明項 |
|-------------|---------------------------|------------------------------------|-------|
| ITEMLIST    | <u>DIRECT</u><br>INDIRECT | 入力元の指定                             | 4.1.2 |
|             | SHADOW<br><u>NOSHADOW</u> | 網掛けモード, 罫線モードの指定<br>(DCT/NODCT指定時) | 4.1.2 |

付表1.2 キーワードオプションの一覧(続く)

| ドキュメントキーワード     | キーワードオプション            | 機能説明                                  | 詳細説明項 |
|-----------------|-----------------------|---------------------------------------|-------|
| ITEMLIST<br>の続き | <u>LINE</u><br>NOLINE | 罫線の出力(DCT/NODCT指定時)<br>(NOSHADOW 指定時) | 4.1.2 |
|                 | <u>PFD</u><br>APDF    | TSS のプログラム開発支援システム<br>(DIRECT 指定時)    | 4.1.2 |

付表1.2 キーワードオプションの一覧(続き)

| ドキュメントキーワード | キーワードオプション                | 機能説明                               | 詳細説明項 |
|-------------|---------------------------|------------------------------------|-------|
| TESTDATA    | <u>DIRECT</u><br>INDIRECT | 入力元の指定                             | 4.3.2 |
|             | FIXED<br><u>NOFIXED</u>   | 行数の変動指定(DCT/NODCT指定時)              | 4.3.2 |
|             | <u>PFD</u><br>APDF        | TSS のプログラム開発支援システム<br>(DIRECT 指定時) | 4.3.2 |

【新記述】

付表1.2 キーワードオプションの一覧(続く)

| ドキュメントキーワード | キーワードオプション                | 機能説明                                          | 詳細説明項 |
|-------------|---------------------------|-----------------------------------------------|-------|
| ITEMLIST    | <u>DIRECT</u><br>INDIRECT | 入力元の指定                                        | 4.1.2 |
|             | SHADOW<br><u>NOSHADOW</u> | 網掛けモード, 罫線モードの指定<br>(DCT/NODCT指定時)(NOCSV 指定時) | 4.1.2 |

付表1.2 キーワードオプションの一覧(続く)

| ドキュメントキーワード     | キーワードオプション            | 機能説明                                                | 詳細説明項 |
|-----------------|-----------------------|-----------------------------------------------------|-------|
| ITEMLIST<br>の続き | <u>LINE</u><br>NOLINE | 罫線の出力(DCT/NODCT指定時)<br>(NOSHADOW 指定時)<br>(NOCSV指定時) | 4.1.2 |
|                 | <u>PFD</u><br>APDF    | TSS のプログラム開発支援システム<br>(DIRECT 指定時)                  | 4.1.2 |
|                 | CSV<br><u>NOCSV</u>   | CSV 形式ファイルの出力<br>(DCT/NODCT指定時)                     | 4.1.2 |

付表1.2 キーワードオプションの一覧(続き)

| ドキュメントキーワード | キーワードオプション              | 機能説明                                | 詳細説明項 |
|-------------|-------------------------|-------------------------------------|-------|
| TESTDATA    | <u>DIRECT</u>           | 入力元の指定                              | 4.3.2 |
|             | INDIRECT                |                                     |       |
| ~~~~~       |                         |                                     |       |
|             | FIXED<br><u>NOFIXED</u> | 行数の変動指定(DCT/NODCT指定時)<br>(NOCSV指定時) | 4.3.2 |
|             | <u>PFD</u><br>APDF      | TSS のプログラム開発支援システム<br>(DIRECT 指定時)  | 4.3.2 |
|             | CSV<br><u>NOCSV</u>     | CSV 形式ファイルの出力<br>(DCT/NODCT指定時)     | 4.3.2 |
| ~~~~~       |                         |                                     |       |

19.17 付表1.5 オペランドの一覧

【旧記述】

付表1.5 オペランドの一覧(続く)

| オペレーション         | オペランド        | 機能説明     | 詳細説明項 |
|-----------------|--------------|----------|-------|
| @OPTIONS<br>の続き | レコード名付加オプション | レコード名の付加 | 4.7.1 |

~~~~~

【新記述】

付表1.5 オペランドの一覧(続く)

オペレーション	オペランド	機能説明	詳細説明項
@OPTIONS の続き	{ FD NOFD }	FD句の有無	4.7.1
	レコード名付加オプション	レコード名の付加	4.7.1

~~~~~



19.18 付図4.3 JSMCPRF1の呼出形式とパラメタの内容と説明

【旧記述】

[パラメタの内容と説明]

| レベル | 項目名     | 属性    | 内容                                               |
|-----|---------|-------|--------------------------------------------------|
| 01  | パラメタ    |       |                                                  |
| 05  | 修正日付    | X(08) | DF-FILECHARTの修正日付                                |
| 05  | 修正時間    | X(08) | DF-FILECHARTの修正時刻                                |
| 05  | 実行日付    | X(08) | JSMCPRF1の実行日付                                    |
| 05  | 実行時刻    | X(08) | JSMCPRF1の実行時刻                                    |
| 05  | リターンコード | 9(02) | MSP:00,XSP:10 ...正常<br>MSP:08,XSP:30 ...依頼パラメタ不当 |
| 05  | FILLER  | X(08) |                                                  |

付図4.3 JSMCPRF1の呼出形式とパラメタの内容と説明

【新記述】

[パラメタの内容と説明]

| レベル | 項目名     | 属性    | 内容                                                  |
|-----|---------|-------|-----------------------------------------------------|
| 01  | パラメタ    |       |                                                     |
| 05  | 修正日付    | X(08) | DF-FILECHARTの修正日付 (yy.mm.dd)                        |
| 05  | 修正時間    | X(08) | DF-FILECHARTの修正時刻 (hh.mm )                          |
| 05  | 実行日付    | X(08) | JSMCPRF1の実行日付 (yy.mm.dd)                            |
| 05  | 実行時刻    | X(08) | JSMCPRF1の実行時刻 (hh.mm.ss)                            |
| 05  | リターンコード | 9(02) | 00: 正常<br>03: 入力区分エラー<br>04: 処理形態エラー<br>05: ツール名エラー |
| 05  | FILLER  | X(08) |                                                     |

付図4.3 JSMCPRF1の呼出形式とパラメタの内容と説明

19.19 付録5 日本語名標辞書作成支援プログラム

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

### 日本語名標辞書作成支援プログラム

---

DF-FILECHARTでは、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語名標辞書を使用して、利用者語（コピー句名、ファイル名、レコード名およびデータ項目名）を日本語変換して出力する。本プログラムは、この日本語名標辞書の作成を支援することを目的としている。

- － 機能説明
- － 日本語名標辞書の作成手順
- － データ領域定義単語ファイル
- － 実行結果リスト
- － 使用手引
- － 診断メッセージ

日本語名標辞書作成支援プログラムの機能について述べる。

日本語名標辞書作成支援プログラムは、以下に示す二つの機能から構成される。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1

日本語名標辞書作成支援プログラム 2

#### 付5.1.1 日本語名標辞書作成支援プログラム 1

データ領域定義にて出力されるCSV 形式ファイルを入力として、利用者語を単語に分割しCSV 形式ファイルとして出力する。単語が出力されたCSV 形式ファイルをデータ領域定義単語ファイルと呼ぶ。

単語とは、日本語変換の単位であり、単語の単位で対応する日本語に変換される。

#### 付5.1.2 日本語名標辞書作成支援プログラム 2

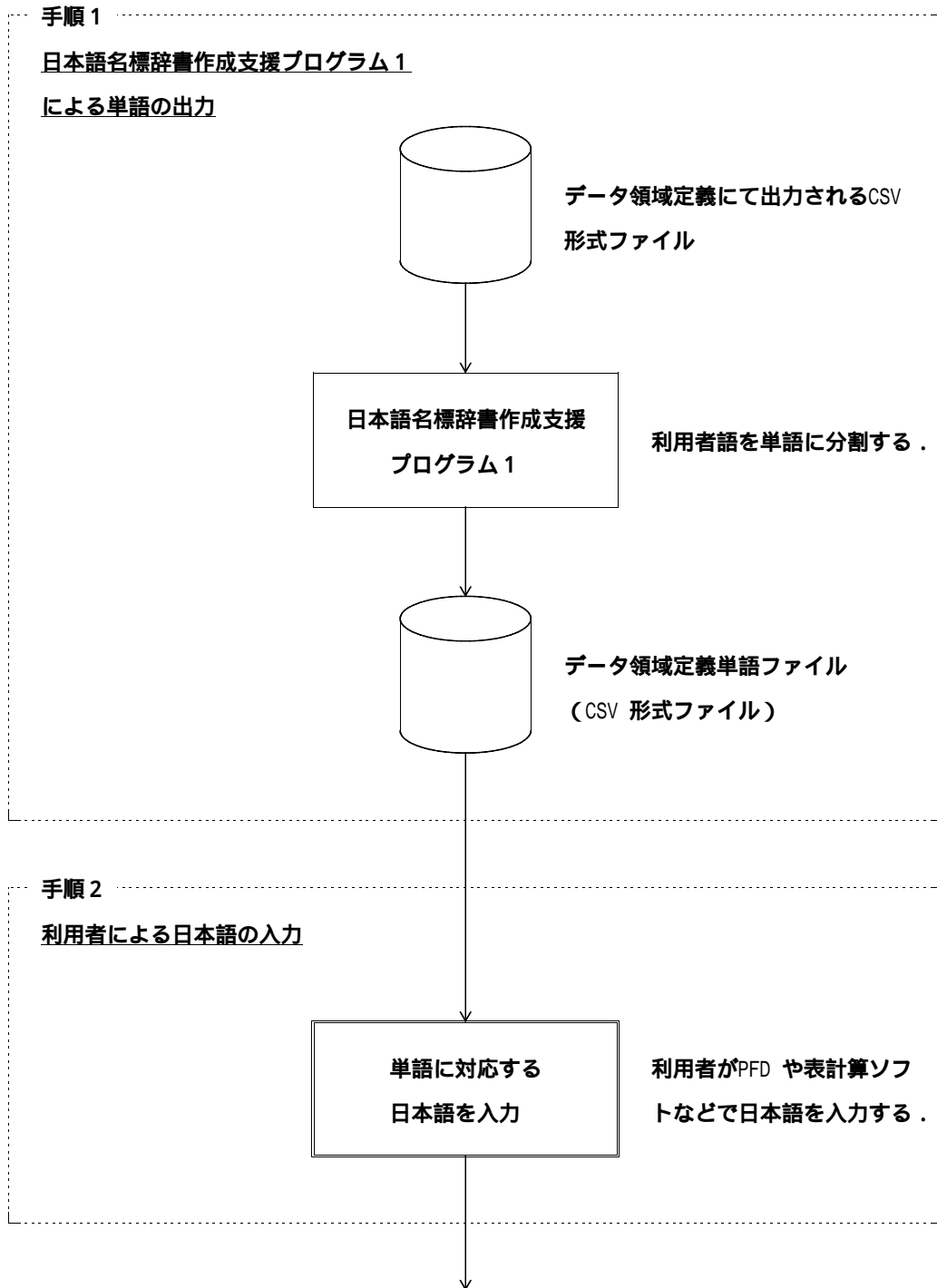
単語に対応する日本語が入力されたデータ領域定義単語ファイルを入力として、日本語名標辞書を作成する。

日本語名標辞書の作成手順について述べる。

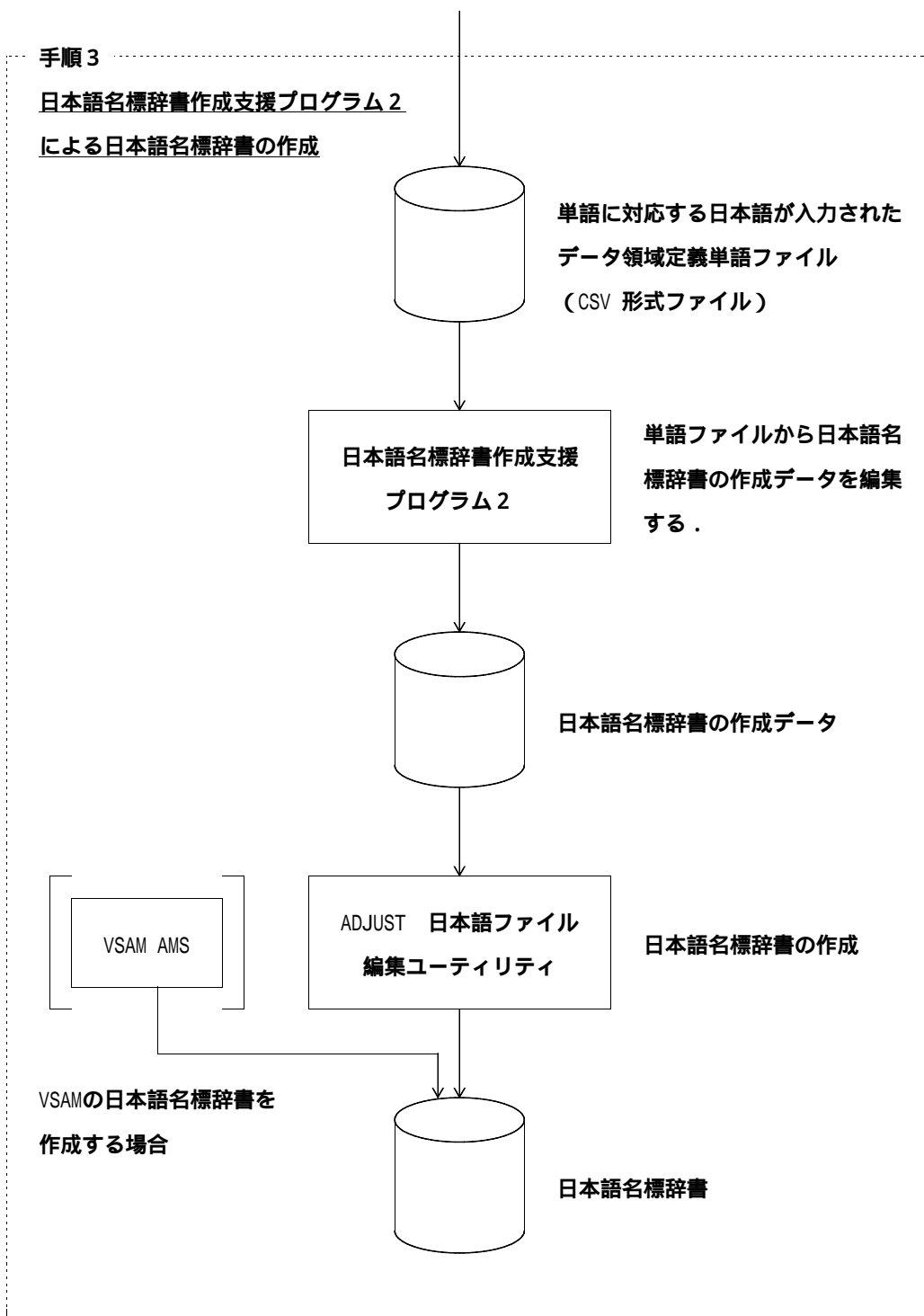
日本語名標辞書作成支援プログラムを使用した日本語名標辞書の作成は、次の三つの手順からなる。

- 1) 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 による単語の出力
- 2) 利用者による日本語の入力
- 3) 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 による日本語名標辞書の作成

付図5.1 に日本語名標辞書の作成手順を示す。



付図5.1 日本語名標辞書の作成手順 (続く)



付図5.1 日本語名標辞書の作成手順（続き）





## 利用者が入力する情報

- ①～⑤ 利用者は、格納されている情報を変更してはならない。
- ⑥ 利用者が単語に対応する日本語を入力する。(シフトコードを含む。)  
単語が重複している場合は、一意となるように不要な単語のレコードを削除する。  
日本語名標辞書を作成する必要のない単語においては、該当単語のレコードを削除しても構わない。

備考1. データ領域定義単語ファイルは、④(単語)、①(資産種別)及び③(利用者語)の順でソートされる。

備考2. データ領域定義単語ファイルは、可変長レコードでCSV形式ファイルだが、各フィールドの値は固定長イメージ(後続の空白は詰まらない)で出力される。なお、フィールドは引用符では囲まれない。

日本語名標辞書作成支援プログラム1にて出力されるデータ領域定義単語ファイルと、利用者にて日本語を入力した後のデータ領域定義単語ファイルの例を付図5.3に示す。

なお、例は利用者語を3文字で分割し、単語の重複は出力しない場合である。利用者語の分割などに関しては、後述の“付5.5 使用手引”を参照されたい。

日本語名標辞書作成支援プログラム1にて出力されるデータ領域定義単語ファイルの例

|                  |       |       |
|------------------|-------|-------|
| F1C,CPYTST01     | },CPY | },03, |
| F4D,ITMTSTNAM001 | },ITM | },03, |
| F4D,ITMTSTNAM001 | },NAM | },03, |
| F1C,CPYTST01     | },TST | },03, |
| F4D,ITMTSTNAM001 | },001 | },03, |
| F1C,CPYTST01     | },01  | },02, |
| ⋮                | ⋮     | ⋮     |

利用者にて日本語が入力されたデータ領域定義単語ファイルの例

( PFD による入力で、フィールドが固定長イメージ)

|                  |       |            |
|------------------|-------|------------|
| F1C,CPYTST01     | },CPY | },03,コピー句  |
| F4D,ITMTSTNAM001 | },ITM | },03,アイテム  |
| F4D,ITMTSTNAM001 | },NAM | },03,名称    |
| F1C,CPYTST01     | },TST | },03,テスト   |
| F4D,ITMTSTNAM001 | },001 | },03,0 0 1 |
| F1C,CPYTST01     | },01  | },02,0 1   |
| ⋮                | ⋮     | ⋮          |

利用者にて日本語が入力されたデータ領域定義単語ファイルの例

(表計算ソフトによる入力で、フィールドが可変長イメージ)

|                             |
|-----------------------------|
| F1C,CPYTST01,CPY,3,コピー句     |
| F4D,ITMTSTNAM001,ITM,3,アイテム |
| F4D,ITMTSTNAM001,NAM,3,名称   |
| F1C,CPYTST01,TST,3,テスト      |
| F4D,ITMTSTNAM001,1,3,0 0 1  |
| F1C,CPYTST01,1,2,0 1        |
| ⋮                           |

付図5.3 データ領域定義単語ファイルの例

日本語名標辞書作成支援プログラムを運用する際に出力する実行結果リストを説明する。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1
  - PARMパラメタ結果リスト
  - 日本語名標辞書作成支援プログラム結果リスト
  - エラー情報リスト
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2
  - 日本語名標辞書作成支援プログラム結果リスト
  - エラー情報リスト

#### 付5.4.1 PARMパラメタ結果リスト

ジョブ制御文中で指定されたPARMパラメタの内容、指定に誤りがある場合のエラーメッセージ及び実行時に有効となった確定パラメタが出力される。エラーメッセージについては、“付5.6 診断メッセージ”を参照されたい。

#### 付5.4.2 日本語名標辞書作成支援プログラム結果リスト

入力のレコード件数と出力のレコード件数が出力される。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1
  - － 入力：データ領域定義CSV 形式ファイル(JSMHCCSV)
  - － 出力：データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2
  - － 入力：データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)
  - － 出力：日本語名標辞書作成ファイル(JSMHCRAN)

#### 付5.4.3 エラー情報リスト

日本語名標辞書作成支援プログラムのエラーメッセージが出力される。エラーメッセージについては、“付5.6 診断メッセージ”を参照されたい。

#### 付5.4.4 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行結果リスト例

PARMパラメタでのエラー発生時と正常終了時の実行結果リスト例を付図5.4 に示し、説明する。

#### 付5.4.5 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 の実行結果リスト例

正常終了時の実行結果リスト例を付図5.5 に示し、説明する。

PARMパラメタでのエラー発生時

```

**      指定パラメタ      **
----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----*-----9-----*-----0
① ISL=0, IPL=0, UNIQUE

② JSMCU004-S ISL オプションの指定に誤りがあります .

**      実行結果      **

③ データ領域定義CSV 形式ファイル(JSMHCCSV) レコード件数=0000000
④ データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)   レコード件数=0000000

```

正常終了時

```

**      指定パラメタ      **
----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----*-----9-----*-----0
① ISL=8, IPL=0, UNIQUE

**      確定パラメタ      **

⑤ SL(30)  DPL(0)  ISL(8)  IPL(0)  UNIQUE

**      実行結果      **

③ データ領域定義CSV 形式ファイル(JSMHCCSV) レコード件数=0001050
④ データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)   レコード件数=0000950

```

付図5.4 日本語名標辞書作成支援プログラム1の実行結果リスト例

[付図5.4 の説明]

- ① ジョブ制御文に指定されたPARMパラメタが出力される。
- ② ①の内容に誤りがあった場合、エラーメッセージが出力される。
- ③ データ領域定義にて出力されたCSV 形式ファイルを入力とし、処理されたレコード件数が出力される。
- ④ データ領域定義単語ファイルとして出力されたレコード件数が出力される。
- ⑤ ①の内容が重大なエラー又は致命的なエラーでない場合、確定パラメタが出力される。

備考． レコード件数が7桁を超えた場合、レコード件数の最後に“\*”が出力される。

正常終了時

**\*\* 実行結果 \*\***

- ①データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD) レコード件数=0000500
- ②日本語名標辞書作成ファイル(JSMHCRAN) レコード件数=0000500

付図5.5 日本語名標辞書作成支援プログラム2の実行結果リスト例

[付図5.5の説明]

- ① データ領域定義単語ファイルを入力とし、処理されたレコード件数が出力される。
- ② 日本語名標辞書作成ファイルとして出力されたレコード件数が出力される。

備考． レコード件数が7桁を超えた場合、レコード件数の最後に“\*”が出力される。

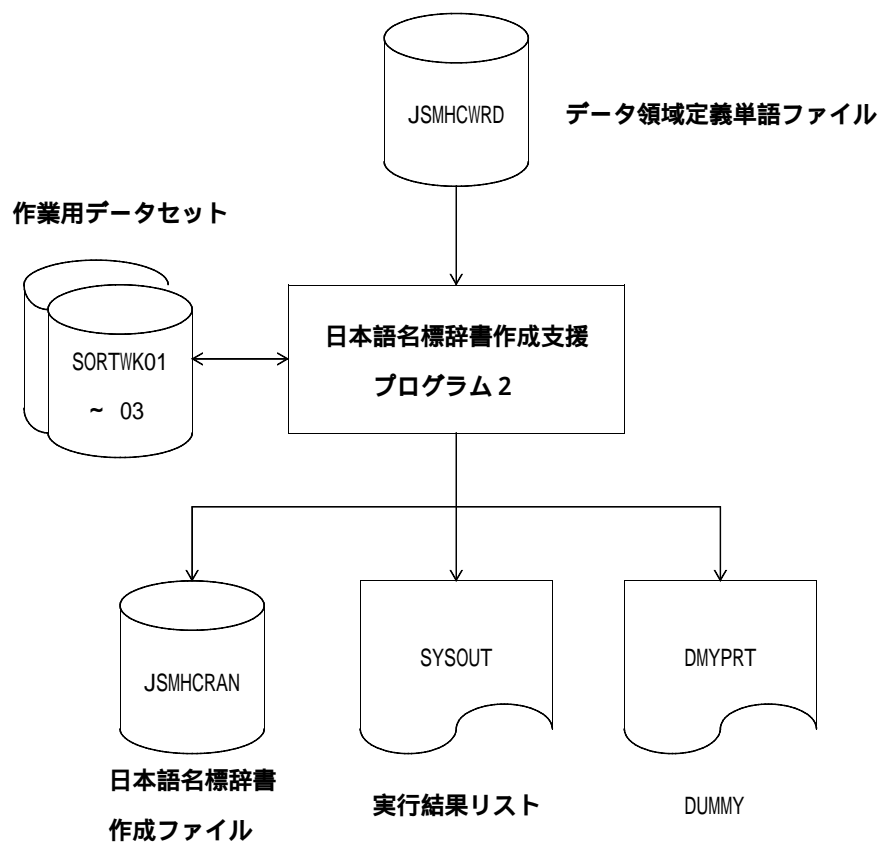
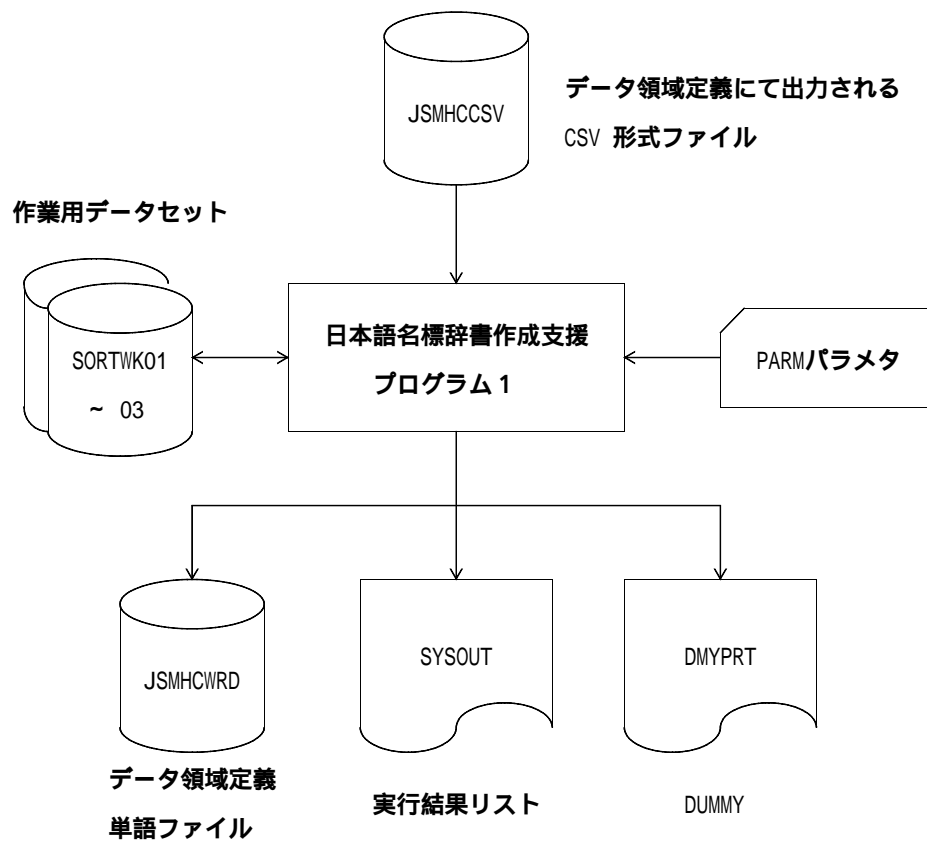
日本語名標辞書作成支援プログラムの使用手引について、以下の事項を述べる。

ジョブ制御文

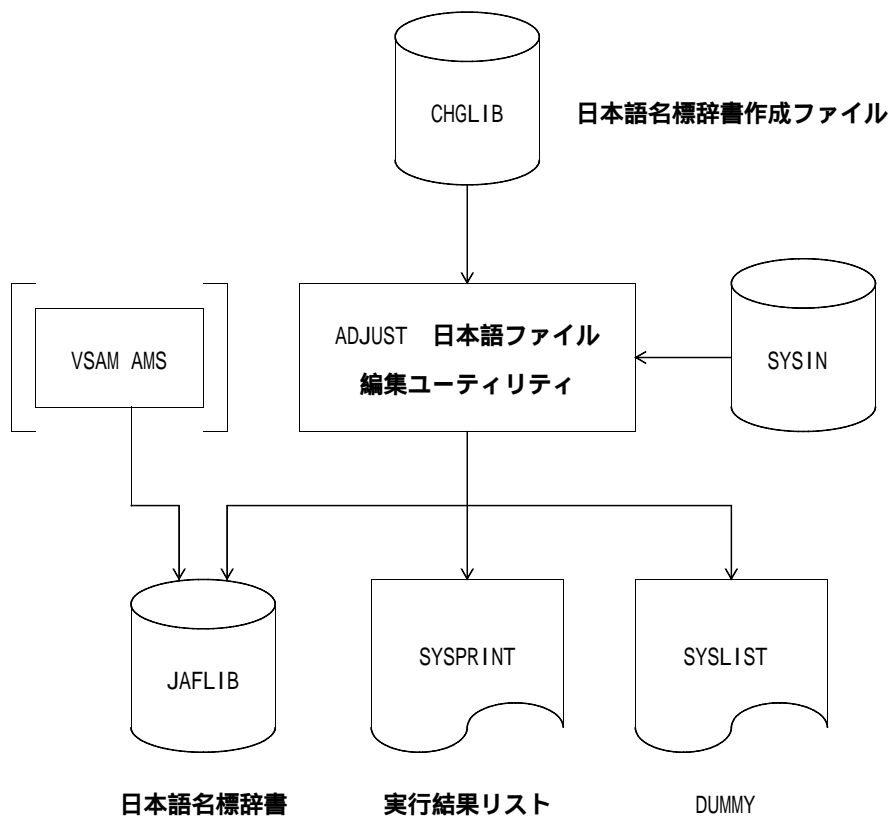
使用例

### 付5.5.1 ジョブ制御文

日本語名標辞書作成支援プログラムを実行するために必要なジョブ制御文及び実行時オプションについて述べる。日本語名標辞書作成支援プログラムを使用するために必要な入出力データセットとそれぞれのDD名を付図5.5 に示す。



付図5.5 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なデータセット名とDD名（続く）



付図5.5 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なデータセット名とDD名(続き)



#### 付5.5.1.1 EXEC文

日本語名標辞書作成支援プログラムの機能呼び出し実行させるためのジョブ制御文である。指定する内容には次のものがある。

##### 付5.5.1.1.1 プログラム名

日本語名標辞書作成支援プログラムの呼び出しプログラム名を以下に示す。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 : JSMCDSS1

日本語名標辞書作成支援プログラム 2 : JSMCDSS2

##### 付5.5.1.1.2 リージョンサイズ

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 及び日本語名標辞書プログラム 2 のリージョンサイズは、1024K バイトを指定する。

##### 付5.5.1.1.3 実行時オプション

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行時オプションを指定する。実行時オプションの記述形式と意味については、“付5.5.1.2 実行時オプションと意味”で述べる。

本オプションは以下の場所に指定する。

OS IV / MSP の場合には、EXEC文のPARMパラメタ

OS IV / XSP の場合には、PARA文

なお、日本語名標辞書作成支援プログラム 2 には、実行時オプションは存在しない。

#### 付5.5.1.2 実行時オプションと意味

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行時オプションの記述形式と意味を述べる。

##### 付5.5.1.2.1 オプションの記述形式

オプションの記述形式を以下に示す。

$$\left[ \left\{ \begin{array}{l} \text{SL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{30} \\ n \end{array} \right\} \\ \text{HYP 1} \\ \text{HYP 2} \end{array} \right\} \right] \left[ , \text{DPL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{0} \\ n \end{array} \right\} \right] \left[ , \text{IPL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{0} \\ n \end{array} \right\} \right] \\ \left[ , \text{ISL} = \left\{ \begin{array}{l} \underline{8} \\ n \end{array} \right\} \right] \left[ , \left\{ \begin{array}{l} \underline{\text{UNIQUE}} \\ \text{NOUNIQUE} \end{array} \right\} \right]$$

{ } は、いずれか一つを選択することを示す。

[ ] は、省略可能なオプションであることを示す。ただし、省略された場合は下線“   ”のものが選択されたものとみなす。

各オプションは“ , ”で区切って指定する。

UNIQUEとNOUNIQUEには簡略形が存在する。それぞれUNI とNOUNI である。

#### 付5.5.1.2.2 オプションの意味

オプションでは以下の事項を指定する。

##### 利用者語の分割規則

利用者語の分割規則を指定するもの

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{SL} = \left\{ \begin{array}{l} 30 \\ n \end{array} \right\} \\ \left\{ \begin{array}{l} \text{HYP1} \\ \text{HYP2} \end{array} \right\} \end{array} \right\}$$

コピー句名以外の利用者語の分割方法を指定する。

'SL=n' は、利用者語を長さにより分割する場合に、その長さを1～30の数字で指定する。利用者語の先頭から指定された長さで区切り、単語に分割する。

'HYP1' または 'HYP2' は、利用者語をハイフンによる分割する場合に指定する。どちらを指定した場合も同じようにハイフンで区切り、単語に分割する。なお、分割後の単語にハイフンは含まれない。

$$\text{DPL} = \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ n \end{array} \right\}$$

コピー句名以外の利用者語において、分割の対象としない部分の長さを0～9の数字で指定する。利用者語の先頭から指定された長さが分割の対象とならない。

$$\text{IPL} = \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ n \end{array} \right\}$$

コピー句名において、分割の対象としない部分の長さを先頭から0～7の数字で指定する。

$$\text{ISL} = \left\{ \begin{array}{l} 8 \\ n \end{array} \right\}$$

コピー句名を分割する場合に、分割する長さを1～8の数字で指定する。コピー句名の先頭から指定された長さで区切り、単語に分割する。

$$\left\{ \begin{array}{l} \underline{\text{UNIQUE}} \\ \text{NOUNIQUE} \end{array} \right\}$$

利用者語を分割した単語において、重複が発生した場合のデータ領域定義単語ファイルへの出力方法を指定する。重複した単語の出力を抑制する場合は、'UNIQUE' を、重複した単語の出力を抑制しない場合には、'NOUNIQUE' を指定する。

備考1. UNIQUE及びNOUNIQUE指定時における重複した単語の扱いについて説明する。

単語の重複は、データ領域定義単語ファイルの単語、資産種別、及び利用者語の三つをキーとして判断する。なお、データ領域定義単語ファイルのフォーマットに関しては、“付5.3 データ領域定義単語ファイル”を参照されたい。

##### UNIQUE指定

単語が同じであれば、資産種別または利用者語が異なる場合でも重複とみなす。

したがって、出力される単語は重複しない。

#### NOUNIQUE指定

単語が同じであっても、資産種別または利用者語が異なる場合には重複とみなさない。  
したがって、出力される単語は重複する場合がある。

備考2．利用者語を単語に分割しない場合は、UNIQUEまたはNOUNIQUE以外のオプションを指定する必要はない。

#### 付5.5.1.3 注意事項

日本語名標辞書作成支援プログラムを使用する場合の注意事項を次に述べる。

##### データ領域定義にて出力されるCSV 形式ファイルについて

出力された内容を変更したCSV 形式ファイルを入力とした場合には、動作を保証しない。

##### データ領域定義単語ファイルについて

規定のフォーマットに従っていないデータ領域定義単語ファイルを入力とした場合には、動作を保証しない。

##### データ領域定義単語ファイルの転送について

###### ホストからパソコンへの転送

テキスト転送にて行う。

(FIMPORT コマンドを使用する場合には、テキストファイル受信を選択する。)

###### パソコンからホストへの転送

テキスト転送にて行う。ただし、レコード形式は可変長、レコード長は 133バイトとすること。

(FEXPORT コマンドを使用する場合には、テキストファイル送信を選択する。)

付5.5.1.4 実行に必要なDD文

付表5.1 に、日本語名標辞書作成支援プログラムを実行するときに必要なDD文とその用途を示す。

付表5.1 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なDD文とその用途

| DD名 (注1)         | 用途                                                                       | 編成 (注2) | レコード形式 | レコード長 (バイト) | ブロック長 (バイト)  |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------|--------|-------------|--------------|
| DMYPRT           | - 作業用データセット<br>- 必須データセット<br>- 日本語名標辞書作成支援プログラムが内部的に呼び出すソートマージプログラムが使用する | —       | —      | —           | —            |
| JSMHCCSV         | - データ領域定義にて出力されるCSV形式ファイル<br>- 必須データセット                                  | PS      | V,VB   | 4068        | レコード長の倍数+4以上 |
| JSMHCRAN         | - 日本語名標辞書作成ファイル<br>- 必須データセット                                            | PS      | F,FB   | 124         | レコード長の倍数     |
| JSMHCWRD         | - データ領域定義単語ファイル<br>- 必須データセット                                            | PS      | V,VB   | 133         | レコード長の倍数+4以上 |
| SORTWK01 ~<br>03 | - 作業用データセット<br>- 必須データセット<br>- 日本語名標辞書作成支援プログラムが内部的に呼び出すソートマージプログラムが使用する | PS      | —      | —           | —            |
| SYSOUT<br>(LIST) | - 実行結果リスト<br>- 必須データセット                                                  | PS      | VBA    | 141         | レコード長の倍数+4以上 |

注1) 表中のDD名欄は、OS IV/MSP でのDD名を示す。( )内は、OS IV/XSP でのアクセス名がOS IV/MSP でのDD名と異なる場合のみ、そのアクセス名を示す。

注2) 編成欄の記号と意味は、以下のとおりである。

PS：順編成データセット

備考．日本語名標辞書作成支援プログラム2において、VSAMのDEFINE CLUSTER (プログラム名：KQCAMS) 及びADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティ (プログラム名：JRQJAFE) のDD文については、それぞれのマニュアルである“AMS コマンド文法書”及び“ADJUST使用手引書 パッチ処理機能編”を参照されたい。

## 付5.5.2 使用例

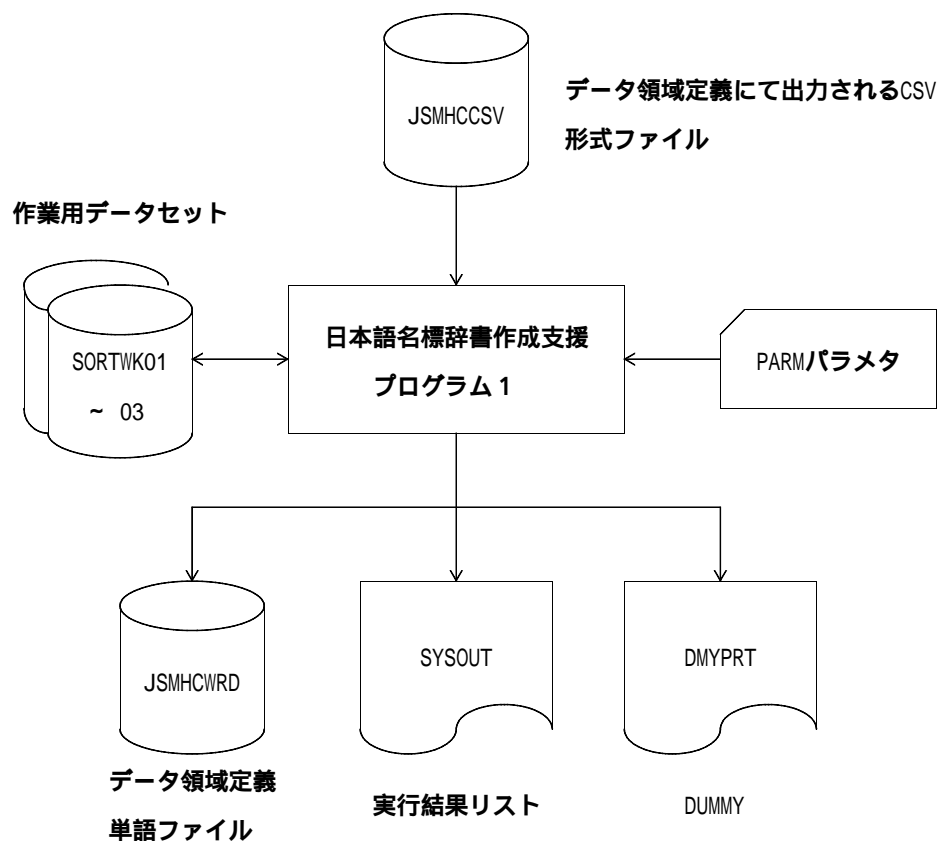
日本語名標辞書作成支援プログラムの使用例として以下の事項を述べる。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて、データ領域定義単語ファイルを出力する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム 2 にて、日本語名標辞書を作成する場合

付5.5.2.1 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて、データ領域定義単語ファイルを出力する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 を使用するために必要な入出力データセットとそれぞれの DD 名を付図5.6 に示す。



付図5.6 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行に必要な入出力データセットとDD名

付図5.7 に日本語名標辞書作成支援プログラム 1 を使用する場合は OS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、付図5.8 に OS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//*          日本語名標辞書作成支援プログラム 1          *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMCDSS1,REGION=1024K,
//          PARM='HYP1,ISL=8,IPL=0,UNIQUE'
//JSMHCCSV DD DSN=USER01.ITEM.CSV,DISP=SHR
//JSMHCWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE),
//          DCB=(RECFM=VB,LRECL=133,BLKSIZE=3196)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(30,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//
```

付図5.7 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 のジョブ制御文例 (OS IV/MSP )

```

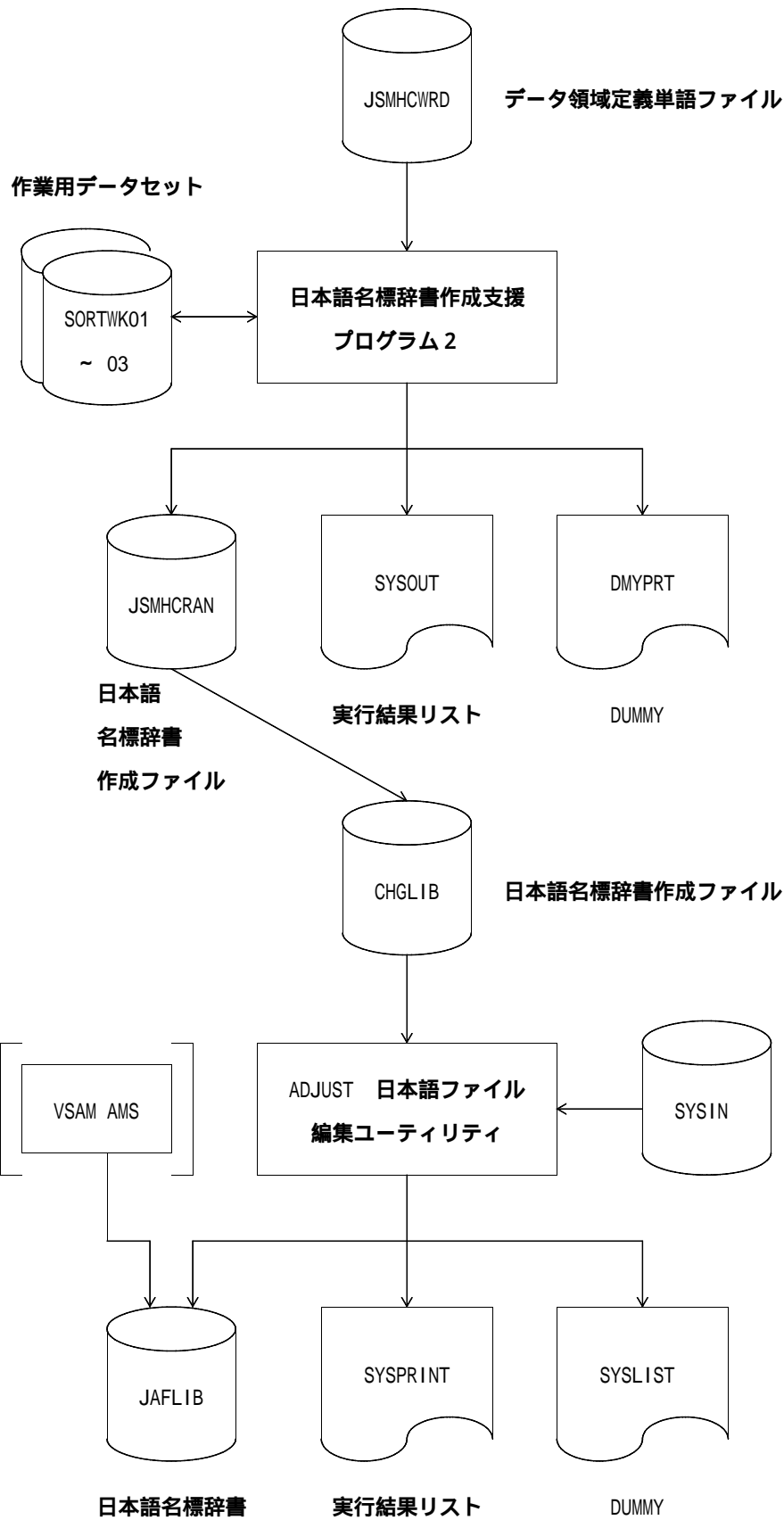
¥ JOB   USER001A,PSW=XXXX,LIST=(?,JD)
¥*****
¥**          日本語名標辞書作成支援プログラム 1          *
¥*****
¥STEP1   EX   JSMCDSS1,RSIZE=1024
¥  PARA  HYP1,ISL=8,IPL=0,UNIQUE
¥  FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD    PRGLIB=DA,FILE=USER001.FCHART.UTYLOAD
¥  FD    CF=DA,FILE=C.ALIB
¥  FD    JSMHCCSV=DA,FILE=USER001.ITEM.CSV
¥  FD    JSMHCWRD=DA,VOL=DASDXX,FILE=USER001.WORD.CSV,
        DISP=CAT,TRK=(30,10,RLSE),
        FCB=(RECFM=VB,LRECL=133,BLKSIZE=3196)
¥  FD    LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=?
¥  FD    SORTWK01=DA,VOL=WORK,TRK=(30,10,RLSE)
¥  FD    SORTWK02=DA,VOL=WORK,TRK=(30,10,RLSE)
¥  FD    SORTWK03=DA,VOL=WORK,TRK=(30,10,RLSE)
¥  FD    DMPRT=DUMMY
¥  JEND

```

付図5.8 日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文例(OS IV/XSP)

付5.5.2.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2にて、日本語名標辞書を作成する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム2を使用するために必要な入出力データセットとそれぞれのDD名を付図5.9に示す。



付図5.9 日本語名標辞書作成支援プログラム2の実行に必要な入出力データセットとDD名



付図5.10に日本語名標辞書作成支援プログラム2を使用する場合のOS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、付図5.11にOS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```

//USER01B JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01.FCHART.UTYLOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.AJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//*          日本語名標辞書作成支援プログラム2          *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMCDSS2,REGION=1024K
//JSMHCWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=SHR
//JSMHCRAN DD DSN=&&FCHART,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
//          COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
      (NAME(USER01.RAN.NDICT) -
      INDEXED -
      UNIQUE -
      KEYS(30 0) -
      IMBED -
      VOLUMES(DASDXX) -
      TRK(5) -

```

付図5.10 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例(OS IV/MSP)(続く)

```

RECORDSIZE(124 124)          -
DATA                          -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) -
INDEX                          -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX))

/*
//*****
//**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE,REGION=1024K,
//          COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR
//CHGLIB DD DSN=&&FCHART,DISP=(OLD,DELETE)
//

```

付図5.10 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例(OS IV/MSP) (続き)

```

¥ JOB   USER001X,PSW=XXXX,LIST=(?,JD)
¥*****
¥**           日本語名標辞書作成支援プログラム2           *
¥*****
¥STEP1   EX   JSMCDSS2,RSIZE=1024
¥  FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD    PRGLIB=DA,FILE=USER001.FCHART.UTYLOAD
¥  FD    CF=DA,FILE=C.ALIB
¥  FD    JSMHCWRD=DA,FILE=USER001.WORD.CSV
¥  FD    JSMHCWAN=DA,VOL=WORK,DISP=CONT,TRK=(10,10,RLSE),
          FCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
¥  FD    LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=?
¥  FD    SORTWK01=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD    SORTWK02=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD    SORTWK03=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD    DMPRT=DUMMY
¥*****
¥**           DEFINE CLUSTER           *
¥*****
¥KQCAMS1 EX   KQCAMS,RSIZE=1024,COND=+20
¥  FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD    SYSPRINT=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=?
¥  FD    SYSIN=*
          DEFINE CLUSTER          -
          (NAME(USER001.RAN.NDICT)) -
          INDEXED                  -
          KEYS(30 0)                -
          IMBED                     -
          VOLUMES(DASDXX)           -
          TRACKS(5)                 -
          RECORDS(124 124)          -
          DATA                     -
          (NAME(USER001.RAN.NDICT.DATA)) -
          INDEX                     -
          (NAME(USER001.RAN.NDICT.IDX))
¥/

```

付図5.11 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例(OS/IV/XPS)(続く)

```

¥*****
¥**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
¥*****

¥JAFE1      EX  JRQJAFE,RSIZE=2048,COND=+20

¥  PARA  CNTL=-

¥  FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX

¥  FD    PRGLIB=DA,FILE=SYS.AJUST.LINKLIB

¥  FD    LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=?

¥  FD    CHGLIB=/,SW=JSMHCRAN

¥  FD    JAFLIB=DA,FILE=USER001.RAN.NDICT

¥  FD    PRINT=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=?

¥  FD    COIN=*

-  ADD  OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
-  FORMAT  SAME
-  CHGIN   IN(CHGLIB)
-  END

¥/

¥  JEND

```

付図5.11 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例(OS IV/XSP ) (続き)

日本語名標辞書作成支援プログラムの出力する診断メッセージについて説明する。  
なお、診断メッセージの形式については、“6.2 診断メッセージ”を参照されたい。  
ただし、メッセージ番号において機能を示す5文字目には、ユーティリティを意味する“U”が出力される。

JSMCU001-S

指定されたパラメタが 100バイトを超えています。

[メッセージの意味]

100 バイトを超えてPARMパラメタを指定した。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

PARMパラメタを100 バイト以内で指定して再度実行する。

JSMCU002-S

実行時オプションに文法エラーがあります。

[メッセージの意味]

文法に合致しない記述方法で実行時オプションが指定されている。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定して再度実行する。

JSMCU003-S

実行時オプションの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションに誤った指定がある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定して再度実行する。

JSMHU004-S

@1オプションの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションの@1オプションの指定に誤りがある。

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ パラメタの意味 ]

@1 : 誤りのあるオプション

[ 利用者の処置 ]

必要ならばオプションを変更して再度実行する .

JSMCU005-S

データ領域定義CSV 形式ファイル(JSMHCCSV)に単語採取のデータが存在しません .

[ メッセージの意味 ]

データ領域定義CSV 形式ファイル (DD名 : JSMHCCSV) に , 採取可能な単語のデータが存在しない .

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

データ領域定義CSV 形式ファイル (DD名 : JSMHCCSV) を確認する .

JSMCU006-W

単語が重複しています . 重複した単語は抑止されました .

単語=@1 , 種別=@2 , 利用者語=@3

[ メッセージの意味 ]

データ領域定義CSV 形式ファイル (DD名 : JSMHCCSV) から採取する単語が重複したため , データ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) への出力を抑制した .

[ パラメタの意味 ]

@1 : 重複した単語

@2 : 重複した単語の種別 . F1C はコピー句名 , F2F はファイル名 , F3R はレコード名およびF4D はデータ項目名を示す .

@3 : 重複した単語が属する利用者語

[ システムの処理 ]

処理を続行する .

JSMCU007-W

単語が重複しています .

単語=@1 , 種別=@2 , 利用者語=@3

[ メッセージの意味 ]

データ領域定義CSV 形式ファイル (DD名 : JSMHCCSV) から採取する単語が重複したが , 種別または利用者語が異なるため , データ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) へ出力した .

[ パラメタの意味 ]

@1 : 重複した単語

@2 : 重複した単語の種別 . F1C はコピー句名 , F2F はファイル名 , F3R はレコード名およびF4D はデータ項目名を示す .

@3 : 重複した単語が属する利用者語

[ システムの処理 ]

処理を続行する .

JSMCU008-E

単語が採取できませんでした . コピー句=@1 , 種別=@2 , 利用者語=@3

[ メッセージの意味 ]

メッセージに出力している利用者語からは , 単語が採取できなかった .

[ パラメタの意味 ]

@1 : 単語が採取できなかったコピー句名

@2 : 単語が採取できなかった利用者語の種別 . F1C はコピー句名 , F2F はファイル名 , F3R はファイル名およびF4D はデータ項目名を示す .

@3 : 単語が採取できなかった利用者語

[ システムの処理 ]

処理を続行する .

[ 利用者の処置 ]

必要ならばオプションを変更して再度実行する .

JSMCU009-U

@1 アクセスエラー 入出力状態=@2

[ メッセージの意味 ]

日本語名標辞書作成支援プログラムにおいて , アクセスエラーが発生した .

[ パラメタの意味 ]

@1 : アクセスエラーが発生したデータセット

データ領域定義CSV 形式ファイル(JSMHCCSV)

データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)

日本語名称辞書作成ファイル(JSMHCRAN)

@2 : COBOL85 の入出力状態値

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

COBOL85 の入出力状態値の意味を調べ , エラーの原因を取り除いて再度実行する .

JSMCU010-S

@1に入力データが1件もありませんでした .

[ メッセージの意味 ]

データ領域定義CSV 形式ファイル (DD名 : JSMHCCSV) またはデータ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) に , データが1件も存在しなかった .

[ パラメタの意味 ]

@1 : 対象のデータセット

データ領域定義CSV 形式ファイル(JSMHCCSV)

データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

データ領域定義CSV 形式ファイル (DD名 : JSMHCCSV) またはデータ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) を確認する .

JSMCU011-S

@1への出力データが1件もありませんでした .

[ メッセージの意味 ]

データ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) または日本語名標辞書作成ファイル (DD名 : JSMHCRAN) に , データが1件も出力されなかった .

[ パラメタの意味 ]

@1 : 対象のデータセット

データ領域定義単語ファイル(JSMHCWRD)

日本語名称辞書作成ファイル(JSMHCRAN)

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

必要ならばオプションを変更して再度実行する .

JSMCU012-S

@1列目のデータが正しくありません . レコード番号=@2

[ メッセージの意味 ]

データ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) において , メッセージで示されるデータが正しくない .

[ パラメタの意味 ]

@1 : エラーとなった該当の列

@2 : エラーとなった該当のレコード番号

レコード番号は7桁まで出力される . 7桁を超える場合には , レコード番号の最後に “ \* ” が出力される .

[ システムの処理 ]

処理を中止する .

[ 利用者の処置 ]

データ領域定義単語ファイル (DD名 : JSMHCWRD) の該当箇所を確認し , 修正する .



日本語の切捨てを行いました。単語=@1，レコード番号=@2

切捨て後=@3

切捨て前=@4

[メッセージの意味]

データ領域定義単語ファイル (DD名: JSMHCWRD) において、メッセージが示す単語に対応する日本語データに半角データが含まれていたため、半角データを降を切り捨てた。

[パラメタの意味]

@1: 該当の単語

@2: エラーとなった該当のレコード番号

レコード番号は7桁まで出力される。7桁を超える場合には、レコード番号の最後に“\*”が出力される。

@3: 切捨て後の日本語データ

@4: 切捨て前の日本語データ

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

データ領域定義単語ファイル (DD名: JSMHCWRD) の該当箇所を確認し、必要ならば修正する。

単語が重複しています。処理を中断します。

単語=@1，種別=@2，利用者語=@3

[メッセージの意味]

データ領域定義単語ファイル (DD名: JSMHCWRD) の単語が重複している。

[パラメタの意味]

@1: 重複した単語

@2: 重複した単語の種別。F1C はコピー句名，F2F はファイル名，F3R はレコード名およびF4D はデータ項目名を示す。

@3: 重複した単語が属する利用者語

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

データ領域定義単語ファイル (DD名: JSMHCWRD) の該当箇所を確認し、修正する。

日本語が未入力です。データを無視しました。単語=@1，レコード番号=@2

[メッセージの意味]

データ領域定義単語ファイル (DD名: JSMHCWRD) において、メッセージが示す単語に対応する日本語データが入力されていないため、該当の単語を無視した。

**[ パラメタの意味 ]**

①：エラーとなった該当の単語

②：エラーとなった該当のレコード番号

レコード番号は7桁まで出力される。7桁を超える場合には、レコード番号の最後に“\*”が出力される。

**[ システムの処理 ]**

処理を続行する。

**[ 利用者の処置 ]**

データ領域定義単語ファイル (DD名：JSMHCWRD) の該当箇所を確認し、必要があれば修正する。

## 20. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

参照 → 4

表20.1 プログラム修正事項 (続く)

| 項番 | プログラム修正内容                                                                                                                                                                                                                                                   | 修正プログラム名             |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 1  | データ領域定義において、INDEX オプション指定時に「通しページ」の見出しが出力されない。<br>(対処)<br>INDEX オプション指定時に「通しページ」の見出しが出力されるように修正した。                                                                                                                                                          | JSMC0190             |
| 2  | レコードレイアウトにおいて、以下の属性はバイト長と同じだけ PICTURE 句の属性が出力される。<br><br>問題が発生する属性：N(1), 9(1) COMP, 9(1) COMP-4, 9(1) BINARY<br>出力例：N(1) ==> NN (2バイト分の属性)<br>9(1) COMP ==> 99 (2バイト分の属性)<br>(対処)<br>PICTURE 句の属性が正しく出力されるように修正した。<br><br>出力例：N(1) ==> N<br>9(1) COMP ==> 9 | JSMC0690             |
| 3  | SYSIN 制御文において、REP, JOIN オペランドに第2水準、拡張漢字および拡張非漢字を指定した場合(仮原文の指定を除く)、SYSIN 制御文がエラーとなり処理されない。<br>(対処)<br>REP, JOIN オペランドに第2水準、拡張漢字および拡張非漢字の指定ができるように修正した。                                                                                                       | JSMC1770<br>JSMC8780 |
| 4  | SYSIN 制御文に指定された日本語に区切り文字の内部コードが含まれている場合、SYSIN 制御文がエラーとなり処理されない。<br>区切り文字としては、コンマ“,” (X'6B')などが該当する。<br>(対処)<br>SYSIN 制御文に区切り文字の内部コードを含む日本語の指定ができるように修正した。                                                                                                   | JSMC1170<br>JSMC8730 |
| 5  | レコードレイアウトにおいて、KST または GKS オプション指定時に拡張漢字および拡張非漢字が出力されない。(空白として出力される。)<br>(対処)<br>拡張漢字および拡張非漢字が出力されるように修正した。                                                                                                                                                  | JSMC1730<br>JSMC80   |
| 6  | @ROLIST 制御文において、選択データ項目名を指定するオペランドにシフトコードがX'38'の日本語を指定すると、コピー句に存在するにも関わらずテストデータ記入表に出力されない。<br>(対処)<br>選択データ項目名に指定されたデータ項目名が、テストデータ記入表に出力されるように修正した。                                                                                                         | JSMC0730<br>JSMC1750 |
| 7  | @ROLIST 制御文において、データ項目名にシフトコードがX'38'で15文字を超過する日本語を指定した場合、正しいデータ項目名であっても「JSMCC359-E @ROLIST 制御文で指定されたデータ項目名が30文字を超えています。」のメッセージが出力される。<br>(対処)<br>@ROLIST 制御文にシフトコードがX'38'の日本語の指定ができるように修正した。                                                                 | JSMC1230             |
| 8  | 会話形式において、画面情報マスタファイルまたは画面情報ユーザファイルのレコード名付加オプションに、カナ文字のレコード名を定義すると「JSMC1133-S 画面情報ファイル上のレコード名指定に誤りがあります」のメッセージが出力される。<br>(対処)<br>半角カタカナのレコード名の定義ができるように修正した。                                                                                                 | JSMC8770             |

表20.1 プログラム修正事項 (続き)

| 項番 | プログラム修正内容                                                                                                                                                                                                                                                              | 修正プログラム名 |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 9  | <p>レコードレイアウトのKINGまたはKST オプション指定において、入力データセット名 (DD名: SYSLIB) が長い場合、備考に出力される入力データセット名の右端と引用符 ( ' ) が重なって印字される。<br/>                     (対処)<br/>                     KINGまたはKST オプション指定時に、入力データセット名が長い場合、備考に出力される入力データセット名の右端と引用符が重ならないように印字されるように修正した。</p>             | JSMC0590 |
| 10 | <p>レコードレイアウトのINDIRECTオプション指定において、入力の保存ファイル (DD名: JSMHCZIN) が空データセットまたはDUMMY 指定の場合、SOC7で異常終了する。<br/>                     (対処)<br/>                     INDIRECT指定において、入力の保存ファイルが空データセットまたはDUMMY 指定の場合、「JSMCC099-E 入力元の全ドキュメント保存ファイルにメンバがありません。」のメッセージが出力されるように修正した。</p> | JSMC0000 |
| 11 | <p>SLオプションの指定に誤りがある場合、誤動作またはSOC7で異常終了する。<br/>                     - 誤動作の指定例: 2A<br/>                     - SOC7の指定例 : 2*<br/>                     (対処)<br/>                     SLオプションの指定に誤りがある場合、「JSMCC059-S 共通オプションの指定に誤りがあります。」のメッセージが出力されるように修正した。</p>            | JSMC0610 |



**FUJITSU**